

上富良野町自治基本条例等町民アンケートの分析
成果報告書

2013年（平成25年）10月31日

北海道工業大学建築学科

谷口 尚弘

目次

1. 研究の目的・方法及び上富良野町の概要

- 1-1.研究の目的と方法
- 1-2.上富良野町の概要
- 1-3.上富良野町におけるまちづくり活動の取組み内容

2. まちづくり活動の参加状況・評価と居住環境評価

- 2-1.本章の目的とアンケート回答者属性
- 2-2.居住環境評価と居住性
- 2-3.上富良野町の魅力
- 2-4.住民会・町内会活動への参加状況と実感度及び不参加要因
- 2-5.住民会・町内会活動及びまちづくり活動の評価と方法

3. 上富良野町自治基本条例の評価と方向性

- 3-1.本章の目的
- 3-2.「上富良野町自治基本条例」の認知度と見直し
- 3-3.上富良野町の仕事内容等の認知度及び意見提供等

4. 上富良野町の地域づくりと今後の重要施策

- 4-1.本章の目的
- 4-2.地域づくりの重要ポイント
- 4-3.今後5年間の重要施策評価（児童福祉策・高齢者障がい者福祉策・医療充実策・農林業振興策・商工業振興策・観光振興策・学校教育推進策・社会教育推進策）

5. まとめ

6. 付録（自由記述・アンケート）

1. 研究の目的・方法

1-1. 研究の目的と方法

上富良野町は「上富良野町住民自治基本条例」及び「上富良野町総合計画」を策定してから5年近く経過する。社会・経済の変化が著しい今日、新たな町（「まち」）を創造していく“『協働』のまちづくり”を進めている現状にある。そこで、上富良野町町民に対しアンケート調査を実施し、今後の上富良野町における「協働的まちづくり」の方向性について検討することが目的である。

アンケート調査は、平成25年6月に上富良野町との協働により、無作為に1000世帯を抽出し、郵送の配布・回収方法とした。アンケートの内容（付録参照）は主に、

- 【1】まちづくり活動の状況について、
- 【2】「上富良野町自治基本条例」について、
- 【3】上富良野町の仕事や予算などについて、
- 【4】上富良野町の魅力などについて、
- 【5】上富良野町の「地域づくり」について、

である。

回収数は419票、回収率は41.9%で、郵送配布・回収方式としては高い回収率であり、町民は比較的まちづくり等に興味があることがうかがわれる。

1-2. 上富良野町の概要

上富良野町は図 1-1 に示すように、北海道のほぼ中央部（東経 142 度 41 分 25 秒、北緯 44 度 32 分 55 秒）に位置し、北から東にかけて美瑛町と新得町、南富良野町、南から西にかけては富良野市と中富良野町に隣接している。近隣の中核都市である旭川市へは約 50km（国道 237 号で約 1 時間）である。国道 237 号が JR 富良野線に並行して町を縦断しており、道道吹上上富良野線の通る市街地から放射線状に、美瑛町方面へ道道美沢上富良野線が、十勝岳方面へ道道吹上上富良野線が、中富良野町へ道道上富良野旭中富良野線等が走っている。



図 1-1 上富良野町の位置

（上富良野町全図より）

上富良野町域は東西 24.6km、南北 19.0km、面積 237.18 平方 km、東に大雪山国立公園大雪山系の十勝岳（2,077m）、西に芦別山塊といわれる山岳地帯、北に両山系の山麓と三面を山岳地帯に囲まれている。南には市街地が開け、市街地を囲んで牧歌的な丘陵地帯とカラマツ林の景観が続き、富良野盆地の平坦部につながっている。大雪山系の十勝岳連峰を源流とする富良野川、スッカクシ富良野川、ベベルイ川などが富良野盆地に向けて流れており、町の北部には日新ダム、日の出ダム、江幌貯水池がある。上富良野町は内陸部に位置し周囲を山に囲まれているため、気温の日格差および月格差が大きい内陸性気候であり、夏の最高平均気温が 26°C 前後、冬の最低平均気温は -15°C 前後である。年間降雨量は約 1,000mm、年間積雪量は平坦部で約 1m、山間部では 2~3m に達する。

上富良野町の町民憲章は「雄峰十勝岳のふもと富良野平原の母なる地、上富良野町民であることに誇りを持ち、この憲章をかかげて先人の偉業を継ぎ、明るく豊かな郷土をつくることにつとめましょう」というように昭和 42 年 6 月に制定されている。町木は「アカエゾマツ」であり四季を通じ縁あざやかな枝葉を絶やさず熟年する樹林は、雄峰十勝岳の厳しい自然の中でたくましく成長し、その雄姿は風格と威厳さを誇る、まちの象徴する樹林である。町花はラベンダーであり、7 月半ばを過ぎると真夏の陽光をいっぱいこうけ、さわやかな紫色の花を見事に咲かせ、十勝岳のふもと一面に漂います。このように、上富良野町は「十勝岳」や「平原」などがキーワードとしてあげられる。

町章は真ん中に「富」の文字が配置され、それを囲んで「力」が三つ集まっている。これは「力」「三」「富」で町名「かみふ」と読ませるように配置されている。「力“ちから”」が 3 字集まって協力の「協」と表現され、それが全体の輪（和）によって中心の「富」を生まれ、町民のあたたかい願いを込めたシンボルマークとなっている。



図 1-2 上富良野町全図

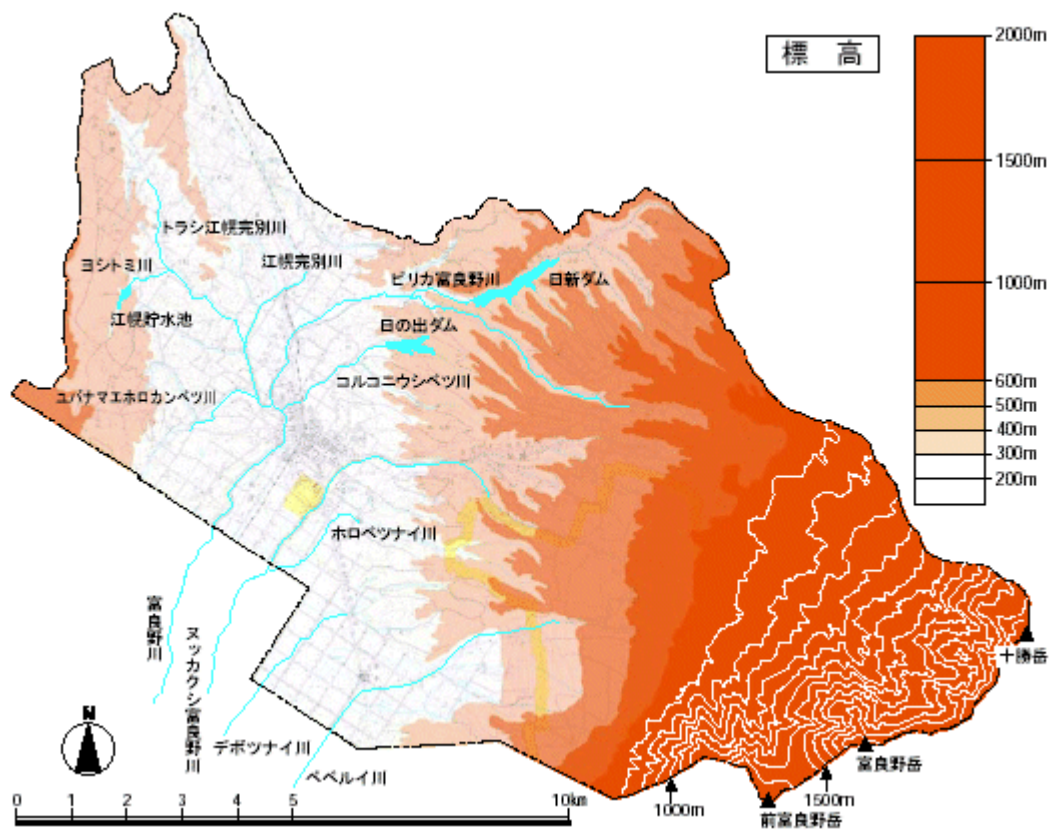


図 1-3 上富良野町の地勢図（上富良野町HPより）

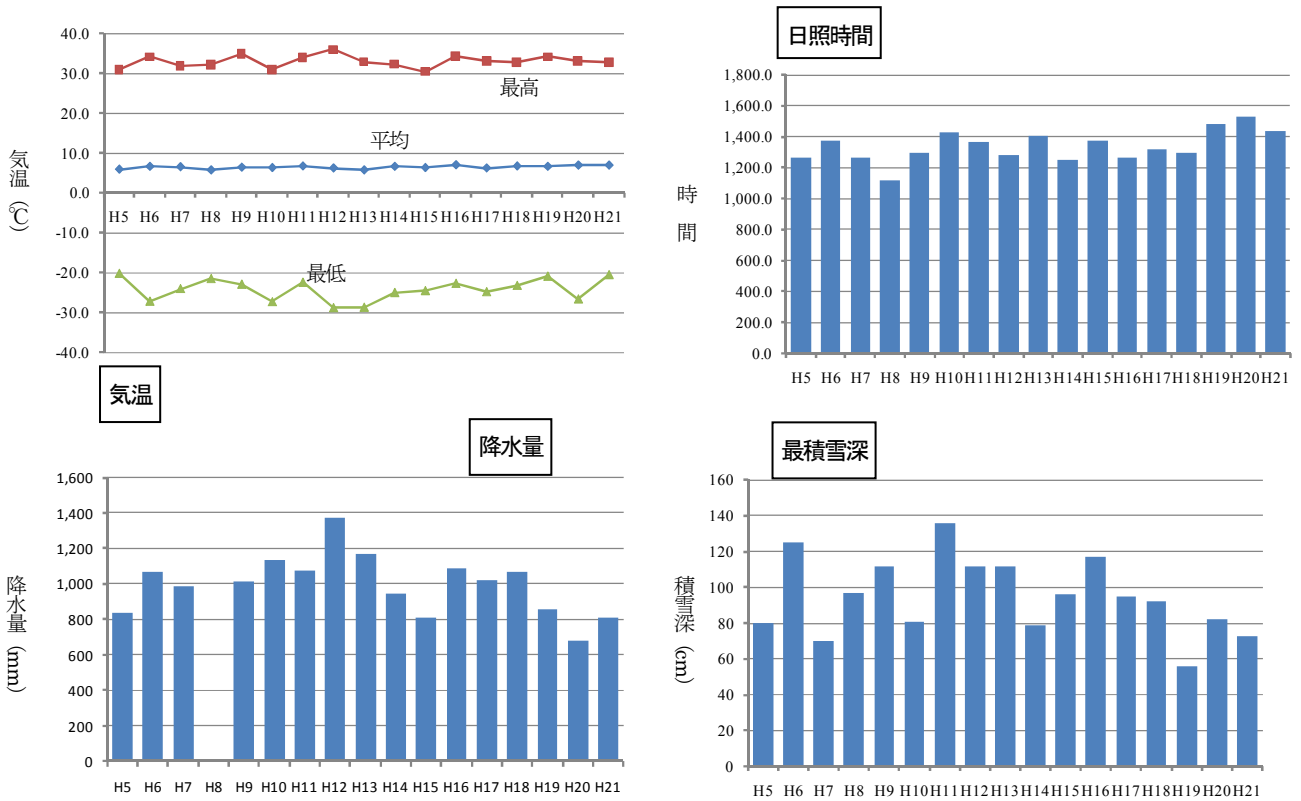


図1-4 上富良野の平成5年から平成21年の気候 (アメダスデータより)

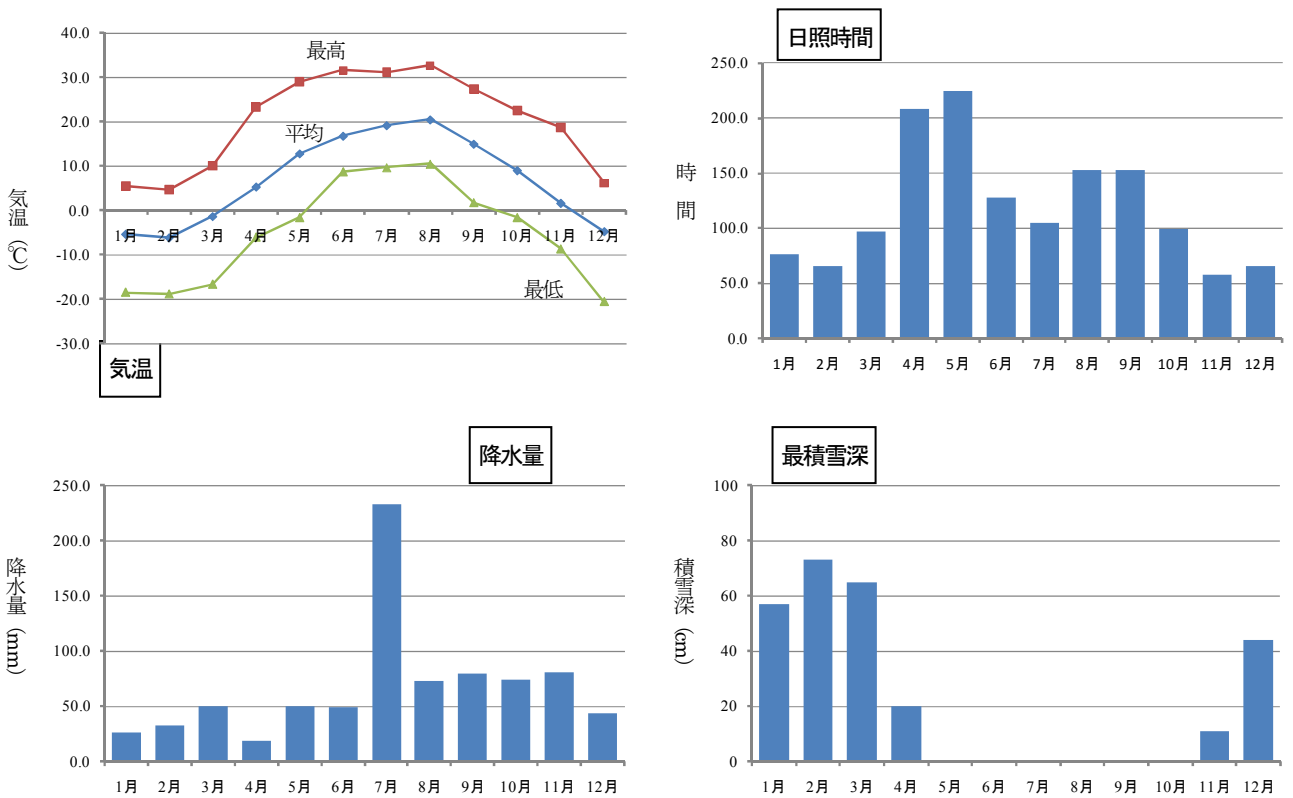


図1-5 平成21年の上富良野町の気候 (アメダスデータより)

上富良野町の産業は、第1次産業の農業が全体の7割を占めている。町の区域的特徴は、西側は小規模商店多い。また、公営住宅がいくつかあるが老朽化のため建替の計画もある。その公営住宅の居住者は高齢者が多く、西側の公営住宅では約7割、東側の公営住宅では約5割弱となっている。上富良野は駅を中心として栄えてきたが、駅付近の商店（栄町、中町、錦町）は、シャッター街、西側は飲食店や居酒屋が多く、東側（本町、宮町）は大型スーパーなどがある。その他はおおむね住宅街である。

上富良野の農村部地区においてはほとんどが農家であり、多種にわたり作物を栽培している。そのなかで富原、東中、日の出、島津、旭野地区は水稻が主であるが、露地栽培もおこなっている。江幌、江花、静修、草分、地区は、主に畑作であり、小麦、馬鈴薯、甜菜、豆類を栽培、清富は畑作も酪農もある。

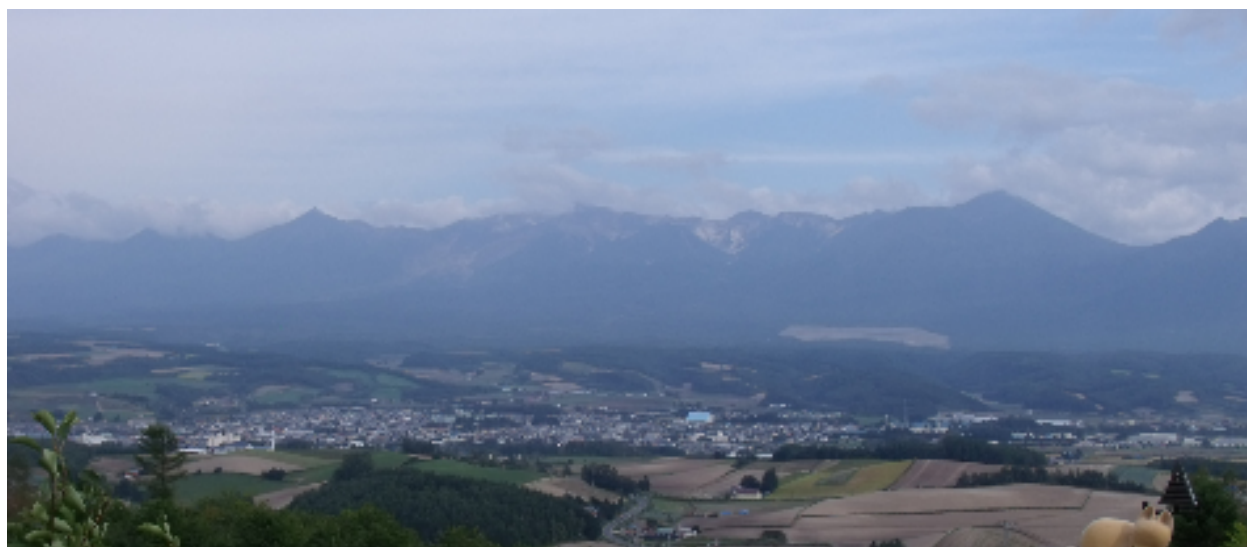


写真1-1 千望峠からの上富良野町と十勝岳連峰

上富良野町における世帯数の推移及び人口の推移を表1-1に示す。世帯数をみると、昭和60年では3,868世帯であったのが、平成25年では5,261世帯と世帯数は増加傾向を示している。一方、人口は昭和60年で14,127人であったのが平成25年では11,555人と減少傾向を示している。世帯数と人口の状況から、これは核家族が増加しているといえる。また、年齢区分の65歳以上をみると、昭和60年では1,402人（人口総数に対する比率は9.9%）であったのが、平成25年では3,156人（同27.3%）と大きく増加し、0歳～14歳をみると、昭和60年では3,167人（同22.4%）であったのが、平成25年では1,559人（13.5%）と昭和60年の約半数にまで減少している。ほかの市町村と同様に、少子高齢化の傾向がうかがわれる。

表1-1 上富良野町の世帯数・人口推移

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成25年	
世帯数	3,868	3,934	4,106	4,410	4,540	5,261	
人口	14,127	13,265	12,881	12,809	12,352	11,555	
区分別	0～14	3,167(22.4%)	2,654(20.0%)	2,216(17.2%)	2,000(15.6%)	1,762(14.3%)	1,559(13.5%)
	15～64	9,558(67.7%)	9,025(68.0%)	8,753(68.0%)	8,424(65.8%)	7,857(63.6%)	6,840(59.2%)
	65以上	1,402(9.9%)	1,586(12.0%)	1,912(14.8%)	2,385(18.6%)	2,733(22.1%)	3,156(27.3%)

※国勢調査データ（各年10月1日）。ただし、平成25年は平成25年6月30日現在（届出）データである。

※（ ）内は当年全人口に対する比率を示す。

まちづくり活動において一基本単位となる町内会（住民会）は、上富良野町では 25 の住民会が配置されている。上富良野町では、「市街地」を「南町」「緑町」「丘町」「住吉」「東明」「中町」「栄町」「旭」「宮町」「大町」「西富」の 13 住民会、「郊外」を「静修」「江幌」「江花」「島津」「日の出」「清富」「日新」「旭野」「富原」「東中」「草分」「里仁」の 12 住民会と位置づけている。住民会別の世帯数・人口を表 1-2、及び、その比率を図 1-6 及び図 1-7 に示す。また、位置範囲を図 1-8 及び図 1-9 に示す。

「市街地」と「郊外」を比較すると、「市街地」の世帯数は 3,913 世帯、人口は 8,785 人に対し、「郊外」は 835 世帯、2,249 人で、世帯数及び人口はおおよそ 8 対 2 の割合である。世帯数をみると、「旭」が 535 世帯、「本町」が 497 世帯、「宮町」が 464 世帯で多い。また、人口では「旭町」で 1,211 人、ついで「本町」の 1,139 人、「宮町」の 996 人と駅周辺から東側に住宅地が多いことがわかる。

人口区分別比率をみると、「市街地」の 15 歳以下が 16.3%、16～64 歳が 57.2%、65 歳以上が 26.5%に対し、「郊外」では 9.7%、53.9%、36.3%と、「郊外」のほうが高齢化している状況がわかる。第 1 次産業主体の上富良野町としては、産業の高齢化が大きな問題であると考えられ、今後の産業振興が重要な課題となるといえる。また、「市街地」をみると、「緑町」「南町」「宮町」は若い世代が多い（65 歳以上がそれぞれ、23.9%、23.4%、20.3%）一方、「中町」や「栄町」は 65 歳以上が 34.8%、36.0%と「市街地」においても高齢者が多い。今後、一層高齢化が深まると考えられる。

表 1-2 住民会別の世帯数・人口

	市街	南町	緑町	丘町	住吉	東明	泉町	中町	栄町	
世帯数	3,913	231	167	135	230	345	360	130	181	
人口	8,785	586	415	319	498	780	793	287	375	
区 分 別	0～15	1,431	125	96	44	58	123	153	39	23
	16～64	5,022	324	220	188	284	455	442	148	217
	65 以上	2,332	137	99	87	156	202	198	100	135
	旭	宮町	本町	大町	西富	郊外	静修	江幌	江花	
世帯数	535	464	497	277	361	835	25	22	46	
人口	1,211	996	1,139	590	796	2,249	62	55	139	
区 分 別	0～15	200	196	179	81	114	219	4	4	17
	16～64	675	598	675	341	455	1,213	35	29	82
	65 以上	336	202	285	168	227	817	23	22	40
	島津	日の出	清富	日新	旭野	富原	東中	草分	里仁	
世帯数	87	166	15	10	28	60	205	123	48	
人口	242	427	43	36	74	163	568	305	135	
区 分 別	0～15	12	70	2	3	6	19	41	24	17
	16～64	138	224	26	24	40	86	296	157	76
	65 以上	92	133	15	9	28	58	231	124	42

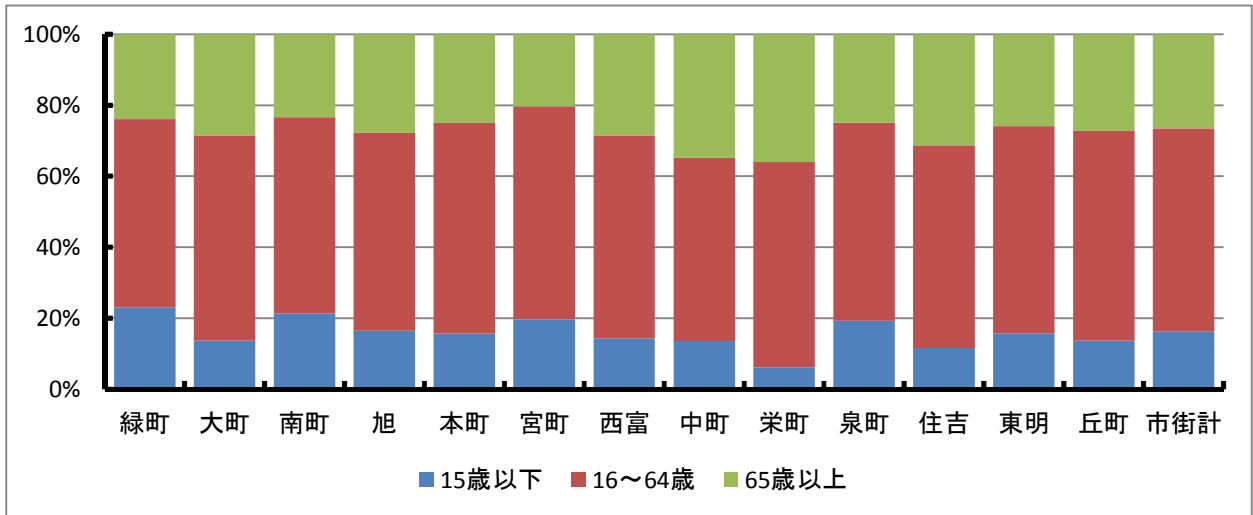


図1-6 上富良野町「市街地」住民会における人口比率

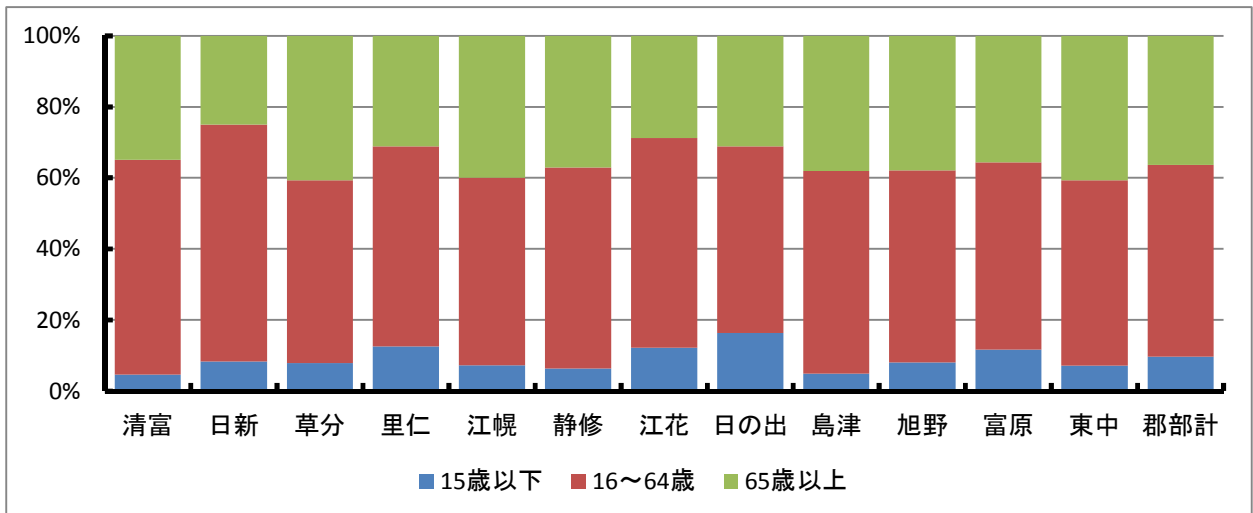


図1-7 上富良野町「郊外」住民会における人口比率

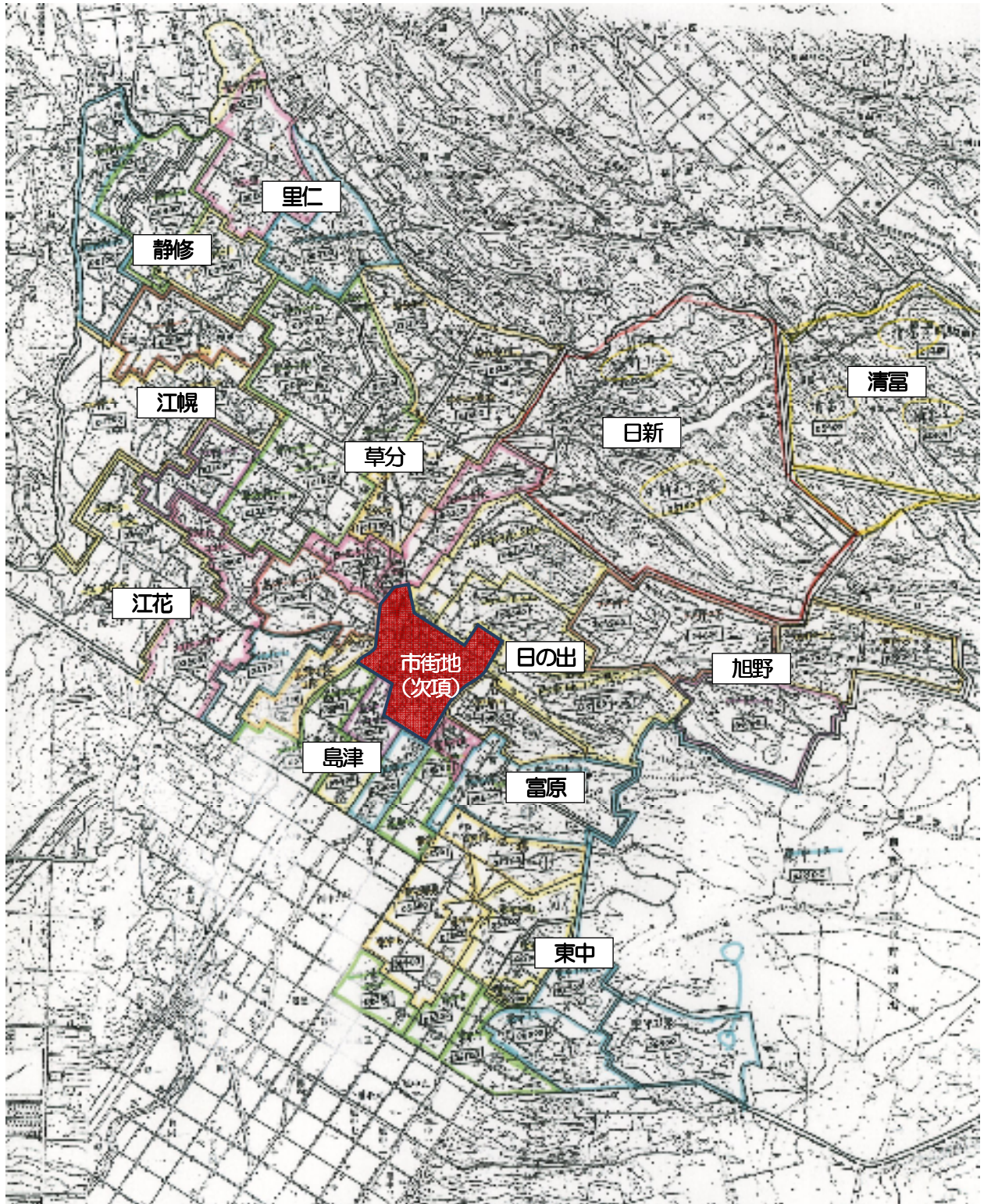


図1-8 上富良野町「郊外」住民会の位置範囲

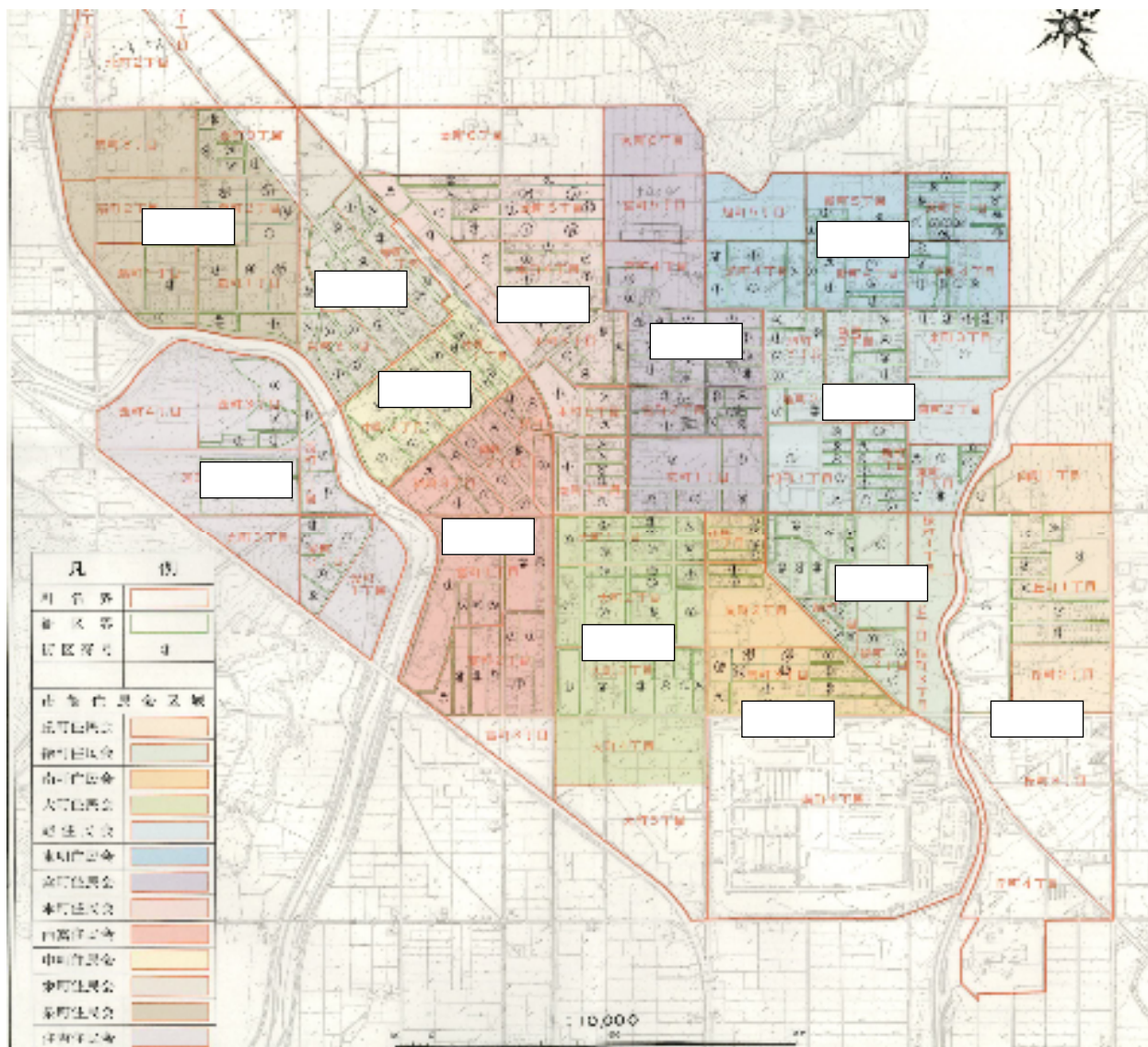


图1-9 上富良野町「市街地」住民会の位置範囲

1-3. 上富良野町におけるまちづくり活動の取り組み内容

「協働のまちづくり行動指針（第1版）（職員用手引き）平成23年3月」に図1-10（1）（2）のような協働の53事例が紹介されている。項目別に、「まちづくり・地域活性化」、「まちの美化」、「防災・防犯、安全」、「福祉・保健・衛生」、「育児支援」、「文化・スポーツの振興」、「専門・経済振興」、「環境・ゴミ問題」、「生涯学習支援」、「町政参画」の10項目別に紹介されており、協働形態別に示されている。

そこで、項目別に協働形態をみる。「まちづくり・地域活性化」においては10事例であり、そのうち5事例が「委託」、3事例が「補助・助成」で進めている。「まちの美化」は8事例であり、そのうち5事例が「町民と町民との連携」、3事例が「委託」で「町民と町民との連携」が多い。「防災・防犯・安全」は10事例あり、そのうち5事例が「町民と町民との連携」、5事例が「補助・助成」と半々である。「福祉・保健・衛生」は6事例があり、そのうち1事例が「町民と町民との連携」、5事例が「補助・助成」である。「育児支援」及び「環境・ゴミ問題」、「生涯学習支援」はそれぞれ1事例で前二項目は「町民と町民との連携」、後者は「補助・助成」である。「文化・スポーツの振興」は5事例で、そのうち3事例が「補助・助成」、2事例が「委託」である。「産業・経済振興」は5事例で、そのうち1事例が「町民と町民との連携」、4事例が「補助・助成」である。

「協働のまちづくり基本指針（平成23年1月）」には、図1-11のようにボランティア活動団体の団体及び活動内容が紹介されている（平成22年9月現在の上富良野町ボランティアセンター調べ）。ボランティア活動団体は29団体あり、古くは昭和23年の「民生児童委員協議会」が発足されている。活動内容をみると、「独居老人対応」や「交通安全の啓蒙」、「ふれあい広場」、「ケアハウス」など、地域環境の向上や高齢者生活支援などが多いが、近年では「老人宅屋根雪下ろし・排雪」など除排雪対応が多くなってきている。また、ボランティアセンターに未登録の11団体ある。これらは「児童の登下校の見守りパトロール」「地域内の防犯・安全・声かけ巡回」など安心・安全なまちづくりの推進や「道路の美化清掃」など地域環境の整備で、「自分たちの地域は自分たちで」という、まちづくり活動の基本を心得ている町民もいることがわかる。

図1-12のように、NPO法人を取得し、障がい者や高齢者の生活支援をサービスしている活動もある。このような団体が増え、かつ、連携しはじめると上富良野町は活性化すると考える。

1. 団体名	NPO法人上富良野たんぽぽの会
2. 活動名	託老所たんぽぽの運営
3. 活動内容	<p>「上富良野たんぽぽの会」は平成15年11月に設立された上富良野町第1号のNPO法人です。高齢者、障がい者などの引きこもり解消のために「託老所たんぽぽ」を中茶屋と子どもセンターに各2回開放し、高齢者の生きがいづくり活動などを実施しています。</p> <p>また、コミュニティプラザ中茶屋の施設管理業務、かみん喫茶コーナを運営しています。</p> <p>このほか高齢者や障がい者の送迎・社会参加を支援するための有償移送サービス、家事支援活動、世代間の交流活動、社会福祉事業への支援活動を展開しています。</p> <p>会の状況 役員：12名、会員：正34名、賛助134名</p>
4. 協働形態	(B) 委託



図1-12 上富良野町における協働の事例

協働の事例		協働の事例		協働の形態					
No.	事 例 名	行 政 機 関 と協働する相手	事 業 概 要	所 管 課 室	町民との協働の形態				
					町民との協働の形態	協働	委託	協働	協働
● まちづくり・地域活性化									
1	公民館管理業務（4施設）	住民会	施設の管理運営（約10千円×4）、照明交換の各別トイレ設置費10千円	町民生活課	○	○			
2	町民・町民会館管理	住民会	公民館内側会議室の管理運営（約60千円×2）	町民生活課		○			
3	農業構造改革センター管理	駅前住民会 協働住民会	施設の管理運営（経費128千円、経費333千円）	農業振興課		○			
4	公民館分館管理	駅前住民会	公民館分館施設の管理運営（歳入1,784千円、歳出218千円、歳入890千円）	教育振興課		○			
5	公民館分館活動	駅前住民会	公民館分館活動（ソフト事業）11分館、予算1,189千円）	教育振興課	○				
6	多目的交流センター施設管理	駅前住民会 東中住民会	田原中へ本地区会館及び18ヶ所立小中学校の施設の管理運営（経費800千円、歳入110千円）	教育振興課		○			
7	住民自治活動推進交付金	各住民会	平成19年度から、従来の7つの補助金を統合し、用途を特定しない交付金とすることによって、自治活動の推進を図る。（約7,400千円→約2,128千円）	町民生活課	○				
8	自治自治活動推進交付金補助金	住民会等	住民自治の創進手段により実施する自治的な自治活動をさらに推進するために11町 補助金を交付（予算1,000千円、11町 11町 11町 11町）	町民生活課	○				
9	自治基本条例づくり検討会議	各町民	自治基本条例（案）作成	町民生活課					○
10	協働のまちづくり検討委員会	町民会	自治基本条例に基づき、協働のまちづくりの基本方針の策定、協働のまちづくりの推進	町民生活課					○
● まちの美化									
11	水溜り整理費	駅前住民会	美しい町並みづくりを目的に町と協働でのメンテナンスまでの整理費	建設水道課	○				
12	公民館周辺4ヶ所経路整理費	日の出住民会	住民自治が不始末の粗大ゴミ含む清掃を実施	建設水道課	○				
13	水溜り整理費	大町住民会	美しい町並みづくりを目的に町と協働での水溜り整理、除草	建設水道課	○				
14	環境整備事業	西宮住民会	中支保高野から高野野川まで（町道橋センター前まで）の草刈	建設水道課	○				
15	コミュニティセンター管理	駅前住民会	施設の管理運営（6施設 1,131千円）	教育振興課		○			
16	道路清掃・ゴミ回収及び草刈	駅前住民会	高田道路・アールロード、草刈	建設水道課	○				
17	日の出公園管理業務	駅前住民会	公園管理業務	建設水道課		○			
18	足跡公園管理	駅前住民会	公園管理業務	建設水道課		○			
● 防災・防災・安全									
19	自主防災組織防災訓練	駅前住民会	● 簡式小型ポンプによる放水訓練、他施設巡回隊、避難訓練等（所費総額33千円程度）	総務課	○				
20	自主防災組織防災訓練	日の出住民会	大支保高野から高野野川上及び避難訓練を目的とした訓練（ブルーシート等購入22千円程度）	総務課	○				
21	中河安全推進協議会自衛	中河安全推進協議会	交通安全、防災、防災訓練など中河安全協議会の普及を図るため（予算3,353千円）	町民生活課	○				
22	中河自衛隊科訓練	町民会	防災訓練（第1種・2種）実施に際し、70/100 第2種～50/100 第2種・第3種・第4種（予算3,996千円）	町民生活課	○				
23	地域安全パトロール	駅前住民会	通学児童の見守り・声かけ、地域の見守り・声かけ	町民生活課	○				
24	朝の声かけ	駅前住民会	朝のあいさつ、声かけ（西宮会館・西小付近及び通学路）	町民生活課	○				
25	午後のパトロール	駅前住民会	西宮会館・高田橋南側、西小付近等の通学パトロール	町民生活課	○				
26	子ども見守り隊	駅前住民会	児童の下校時の安全パトロール、幼児老人全戸大規模調査、親子ふれあいの交差点（学校・交差点含む）	町民生活課	○				
27	あまらり隊	駅前住民会	児童の下校時の安全パトロール、幼児老人全戸大規模調査、親子ふれあいの交差点（学校・交差点含む）	町民生活課	○				
28	児童生徒交通安全訓練	駅前住民会	児童の通学時の交通安全訓練（防犯用帽子購入1千円程度）	町民生活課	○				

図1-10 上高良野町における協働の事例一覧（1）

協働の事例		協働の形態		町民と町民との協働					
No.	事業名	実施主体	事業概要	所管部署	町民と町民との協働				
					市民・町民との協働	市民・町民との協働	市民・町民との協働	市民・町民との協働	市民・町民との協働
● 福祉・保健・衛生									
29	福祉ネットワークづくり	西宮市民会	中井区及び西宮区民の全層をカバーし、緊急時に対応できるよう市民会、町内会を協働	保健課	○				
30	高齢者人クラブ運営費補助	老人クラブ	健全な高齢者を通じ、介護予防や相互の生活支援を行う(予算 255 千円)	保健福祉課		○			
31	老人クラブ総合会運営費補助	老人クラブ 総合会	健康づくりに関する普及啓発や相互の連絡調整(予算 331 千円)	保健福祉課		○			
32	歌老会	各市民会	非営利の民間団体にし、歌を愛する市民を交流活動の場として交流に資する。	保健福祉課		○			
33	ふれあいサロン事業	各市民会	高齢者の居てもいい場所として、認知症予防を目的に市民会、保健、シニアセンター等各市民会が連携して実施(予算 1000 千円、市民会費 20 千円、75 歳以上 500 円)	社会福祉協議会		○			
34	ツアングー作り製作費	手をつなぐ 親の会・おひめ会	親子関係及び障害者の理解促進の資成(予算 75 千円)	産業振興課		○			
● 育児支援									
35	絵本の読み聞かせ	ボランティア	小学校及び7・11か月児育児相談所	教育振興課	○				
● 文化・スポーツの振興									
36	町民芸術劇場負担	実行委員会	幼児、小学生以上の芸術鑑賞の機会を充実(予算 50 千円)	教育振興課		○			
37	文化祭事業負担	実行委員会	総合文化祭の開催(予算 200 千円)	教育振興課		○			
38	自主企画展開催費補助	各団体	自主企画によりニーズにあった企画を開催する団体の提供(予算 331 千円)	教育振興課		○			
39	障がい者部・学生広域研修	各市民会	施設の見学旅行(500 千円)	教育振興課			○		
● 産業・経済振興									
41	親友会補助	親友会	行政の盲点である有害品回収に対し、親友会に補助(予算 270 千円)	産業振興課		○			
42	親友会が主催補助	親友会	有害品回収時の準備の確保及び広報を図る(予算 100 千円)	産業振興課		○			
43	花と食のイベントづくり	実行委員会	日のお花畑を会場に花がら観察会、餅つき会、夜には行灯行列や花火大会が開催される(5,000 千円)	産業振興課		○			
44	登山コース及びびん取コース整備	山岳会	登山道及びびん取コース維持・整備(予算 450 千円)	産業振興課		○			
45	観光マップ作成	個人ボランティア	町内観光マップづくり作成	産業振興課		○			
● 環境・ゴミ問題									
46	ゴミステーション管理	各町内会	ゴミの燃焼、分別の確保・指導、ゴミステーション管理	町民生活課	○				
● 生涯学習支援									
47	いしずえ大学自治会活動 補助	いしずえ 大学	『若くせいふ』を合言葉に学習クラブ活動で文化・スポーツ・生活等について学び、正しい心と徳を身につけていくことを目指す(予算 71 千円)	教育振興課		○			
● 町政参画									
48	総合計画	有識者	総合計画の策定	総務課					○
49	地域福祉計画	有識者	地域福祉計画の策定	保健福祉課					○
50	教育振興基本計画	有識者	教育振興基本計画の策定	教育振興課					○
51	産業振興計画	有識者	産業振興計画の策定	産業振興課					○
52	都市計画マスタープラン	有識者	都市計画マスタープランの策定	建設水道課					○
53	次世代育成支援行動計画	有識者	次世代育成支援行動計画の策定	保健福祉課					○

図 1-10 上富良野町における協働の事例一覧(2)

ボランティア活動団体

(平成22年9月現在、上富良野町ボランティアセンター調べ)

団体名	会員数	活動内容	備考
民生元会委員協議会	32	福祉老人委員会、ふれあい広場、福祉大会	昭和23年12月1日設立
中央婦人会	105	福祉老人委員会、ふれあい広場、福祉大会、施設、ボランティア・デイサービス、お元氣がい、舞会、まぐまぐ餅乳食教室	昭和25年設立。一財団法人、昭和30年に再発足
J.A女性部	347	福祉老人委員会、ふれあい広場、福祉大会	昭和29年9月11日設立、J.Aふらのの上富良野女性部役員
上富良野町商工会青年部	58	交通通関費金、交通安全啓蒙及び地域環境整備（公園・学校遊具補修）など	昭和41年11月27日設立
老人クラブ連合会	300	福祉老人委員会、ふれあい広場、福祉大会	昭和45年9月7日結成
上富良野町商工会女性部	117	ボランティアの花婿オ、交通安全の啓蒙啓発、新1年生にマスコットのプレゼントなど	昭和48年3月28日結成
よんばの会	-	図書館の新聞の切り抜きなど	昭和53年4月1日設立
あゆみ会	55	福祉老人委員会、ふれあい広場、福祉大会、施設、ボランティア・能作作り、老人ホーム訪問、舞会	昭和56年4月8日設立
公民館友の会	41	公民館活動への支援、文化祭の企画、古紙を回収して本の印刷	昭和58年5月9日設立
赤十字会	189	福祉老人委員会、ふれあい広場、福祉大会、施設、ボランティア・デイサービス、お元氣がい、舞会、まぐまぐ餅乳食教室	昭和57年11月18日設立
子供サークル	16	行事における手紙通訳	昭和59年4月1日設立
自衛隊駐屯地備友会	150	老人福祉施設清掃、除草、稲刈の奉仕	平成元年4月1日設立
農生保護女性会	41	福祉老人委員会、ふれあい広場、福祉大会、ケアハウス、お元氣がい	平成2年4月11日設立
J.Aふれあい会	20	福祉老人委員会、ふれあい広場、福祉大会、ボランティア、お元氣がい	ホームヘルパー2級取得者の会、平成10年4月1日設立
たんばの会	34	デイサービス、元氣はつらつ祭	平成14年5月4日 NPO法人平成15年8月11日、11月20日認可
野山人	15	自然と人とのふれあいを通じて環境や人づくりを行う（サマーキャンプ、サイクリングキャンプ等）	平成18年4月1日設立
丸一山花と緑の会	58	丸一山の桜の植樹と手入れ	平成19年4月11日設立
読みかきおの会ムーン	10	絵本の読み聞かせ（1人）、図書館での読み聞かせ会、7ヵ月児乳児相談時のブックスタート	平成19年4月1日設立
個人ボランティア	154	町を志願サービス（配食・電話）の支援、子供く支援、お元氣がい、ふれあい広場	平成12年4月1日から開始
サッポロビール(株)バイオ研究開発部北海道原料開発センター	6	老人宅屋根の葺き直し、掃雪	平成16日より活動
気球大舞グループ	4	※	平成18年より活動
上富良野中学校生徒会	12	※	平成17年より活動
青少年団体協議会	11	※	平成17年より活動
アクトス北海道(株)上富良野営業所	3	※	平成18年より活動
上富良野高等学校	24	※	平成19年より活動
映画探検隊	10	※	平成20年より活動
きららの会	22	福祉老人委員会	農生活改善推進委員会のメンバー
自衛隊駐屯地防衛会	100	老人宅屋根の葺き直し、掃雪	役場・消防署等と地元企業合同で実施
読友会	17	図書館ボランティア、屋根の葺き直し	

図1-11 上富良野町におけるボランティア活動団体

(平成22年9月現在、上富良野町ボランティアセンター調べ)

2. まちづくり活動の参加状況・評価と 居住環境評価

2-1. 本章の目的とアンケート回答者属性について

本章は、上富良野町の町民が感じている「上富良野町の魅力」や「居住の満足度・定住度」、上富良野町町民の「まちづくり活動の状況や評価」を把握するとともに、「満足度・定住性」などと「まちづくり活動状況・評価」の関係性について明らかにすることが目的である。

アンケート回答者の属性を表 2-1 に示す。

年齢別をみると、20 歳代が 8.9%、30 歳代が 17.9%、40 歳代が 17.6%、50 歳代が 19.6%、60 歳代が 24.4%、70 歳以上が 11.8%と、60 歳代及び 50 歳代が多い。

性別をみると、男性が 46.5%、女性が 53.5%と半々である。

上富良野町出身度をみると、「上富良野町出身」は 43.8%であり、地方都市としては以外と少ない状況であると考えられる。これは、自衛隊駐屯地が属する上富良野町の特徴が表れているものと考えられる。

居住年数別をみると、1 年以下が 3.8%、2～3 年が 7.2%、4～9 年が 7.9%、10～19 年 10.6%、20～30 年が 12.5%、30 年以上が 57.9%と、10 年以下が約 2 割に対し 30 年以上が 6 割と居住年数の長い町民が多い。

職業別をみると、「その他」が 48.8%と最も多く、これは「主婦」が含まれているためと考えられる。「その他」以外では、「農林業」が 11.4%、「自衛隊」が 10.0%と、上富良野町の特徴があらわれているものと考えられる。

労働場所別をみると、「上富良野町」が 60.2%で、地元で働いている町民が多い。

家族構成別をみると、「単独」世帯が 12.1%、「夫婦のみ」世帯が 35.9%、「夫婦+子」世帯が 31.1%と、この三者が主であることがわかる。そこで、年齢別家族構成をみると、「単独」世帯は 20 歳代で 36.4%、30 歳代で 15.9%、40 歳代で 9.0%、50 歳代で 11.4%、60 歳代で 8.2%、70 歳代で 4.2%である。「夫婦のみ」世帯はそれぞれ、12.1%、7.2%、11.9%、34.2%、64.3%、70.8%、「夫婦+子」世帯は、24.2%、65.2%、52.3%、25.3%、8.2%、12.5%である。つまり、若年層（主に 20 歳代）は「単身世帯」、中年層（30 歳代から 50 歳代）は「夫婦+子」世帯、高齢者（60 歳代以上）は「夫婦のみ」世帯であり、一人暮らし高齢者は以外と少なく、安心な状況であることがわかる。

所属住民会は、「市街」が 77.2%であり、「郊外」が 22.8%と「市街」のほうが多い。そのなかで最も多いのは「本町」の 10.1%である。

表2-1 アンケート回答者属性

		比率 (実数)				比率 (実数)		
年齢	20歳代	8.9	(37)	家族構成	単独	12.1	(48)	
	30歳代	17.9	(74)		夫婦のみ	35.9	(142)	
	40歳代	17.4	(72)		夫婦 十子	計3人	14.6	(58)
	50歳代	19.6	(81)			計4人	12.1	(48)
	60歳代	24.4	(101)			計5人以上	4.3	(17)
	性別	70歳以上	11.8		(49)	親と 同居	計2人	2.5
男性		46.5	(173)		計3人		7.6	(30)
上富良野町出身度	女性	53.5	(199)		計4人		2.0	(8)
	43.8	(182)	計5人		1.0		(4)	
居住 年数	1年以下	3.8	(16)		計6人	0.8	(3)	
	2~3年	7.2	(30)		三世 代以 上	計3人	0.3	(1)
	4~9年	7.9	(33)			計4人	2.5	(10)
	10~19年	10.6	(44)			計5人	1.3	(5)
	20~29年	12.5	(52)			計6人	1.8	(7)
	30年以上	57.9	(241)	計7人		0.5	(2)	
職業	農林業	11.4	(46)	計8人以上		0.2	(2)	
	製造業	3.7	(15)	その他	0.3	(1)		
	建設業	4.2	(17)	上富良野町	60.2	(236)		
	商業	4.5	(19)	富良野市	7.1	(28)		
	運輸・通信業	1.5	(6)	中富良野町	2.0	(8)		
	金融・保険業	0.5	(2)	労働 場所	美瑛町	1.8	(7)	
	医療・福祉業	5.2	(21)		旭川市	1.8	(7)	
	教育業	1.0	(4)		無職	25.0	(98)	
	自衛隊	10.0	(40)		その他	2.0	(8)	
	公務員	6.5	(26)					
	団体	2.0	(8)					
	学生	0.5	(2)					
	その他	48.8	(196)					

		比率 (実数)				比率 (実数)	
所属 住民 会	1.南町	7.8	(31)	14.静修	0.3	(1)	
	2.緑町	3.0	(12)	15.江幌	0.3	(1)	
	3.丘町	2.8	(11)	16.江花	0.8	(3)	
	4.住吉	4.6	(18)	17.島津	1.3	(5)	
	5.東明	8.9	(35)	18.日の出	3.3	(13)	
	6.泉町	7.3	(29)	19.清富	0.5	(2)	
	7.中町	2.8	(11)	20.日新	0.0	(0)	
	8.栄町	2.0	(8)	21.旭野	0.8	(3)	
	9.旭町	9.1	(36)	22.富原	2.5	(10)	
	10.宮町	6.8	(27)	23.東中	5.3	(21)	
	11.本町	10.1	(40)	24.草分	4.1	(16)	
	12.大町	6.3	(25)	25.里仁	1.0	(4)	
	13.西富	5.6	(22)	26.その他	2.8	(11)	
	市街地 (1~13)	77.2	(305)	郊外 (14~25)	22.8	(90)	

上富良野町町民（アンケート回答者）の年齢層別の特徴を下記に示す。

年齢別職業を図2-1に示す。20歳代では「自衛隊」が24.3%、「公務員」が13.5%、30歳代では「自衛隊」が21.1%、40歳代では「自衛隊」が12.7%、「医療・福祉業」が11.3%、50歳代では「公務員」が11.4%、「農林業」が10.1%、60歳代では「農林業」が17.7%、70歳以上では「農林業」が13.0%と、高齢層ほど「農林業」が多く、若年層では「自衛隊」が多いことがわかる。

年齢別労働場所を図2-2に示す。「上富良野町」をみると、20歳代が59.5%、30歳代が56.9%であるのに対し、40歳代が79.4%、50歳代が77.9%と、若年層（20歳代及び30歳代）のほうが他の市町村で働いていることがわかる。とりわけ、若年層は「富良野市」が13.5%（20歳代）、11.1%（30歳代）であり、上富良野町は若年層が働ける環境を整えること、または主要産業である農業後継者を育成する必要があると考える。

年齢別家族構成を図2-3に示す。「単独世帯」は20歳代が36.4%、「夫婦のみ世帯」は70歳代以上が70.8%、60歳代が64.2%、「夫婦+子世帯」は30歳代が65.2%、40歳代が52.2%であり、若年層で「単独世帯」が多く、高齢層（60歳代及び70歳代以上）では「夫婦のみ世帯」が多い。

年齢別居住年数を図2-4に示す。「30年以上」は70歳代以上で73.8%、60歳代で87.0%、50歳代で72.8%である一方、20歳代では「1年以下」が13.5%、「2～3年」が13.5%、「4～9年」が16.2%、30歳代ではそれぞれ、6.8%、20.3%、23.0%であり、高齢層ほど居住年数が長く、若年層ほど居住年数が短い。しかし、若年層でも「20年～29年」と「30年以上」の比率は3割程であることから、生まれ育ってそのまま住んでいる町民も少なくない。

年齢別所属住民会を図2-5に示す。「市街地」と「郊外」にわけてみるが、60歳代及び70歳以上が「郊外」が29.9%、30.6%と40歳代以下より高く、若年層は「市街地」が多い。また、若年層は「その他」が11.1%（20歳代）、7.6%（30歳代）と多く、住民会に所属していない町民が多いと考えられるため、若年層の住民会参加を促すことが必要であると考えられる。

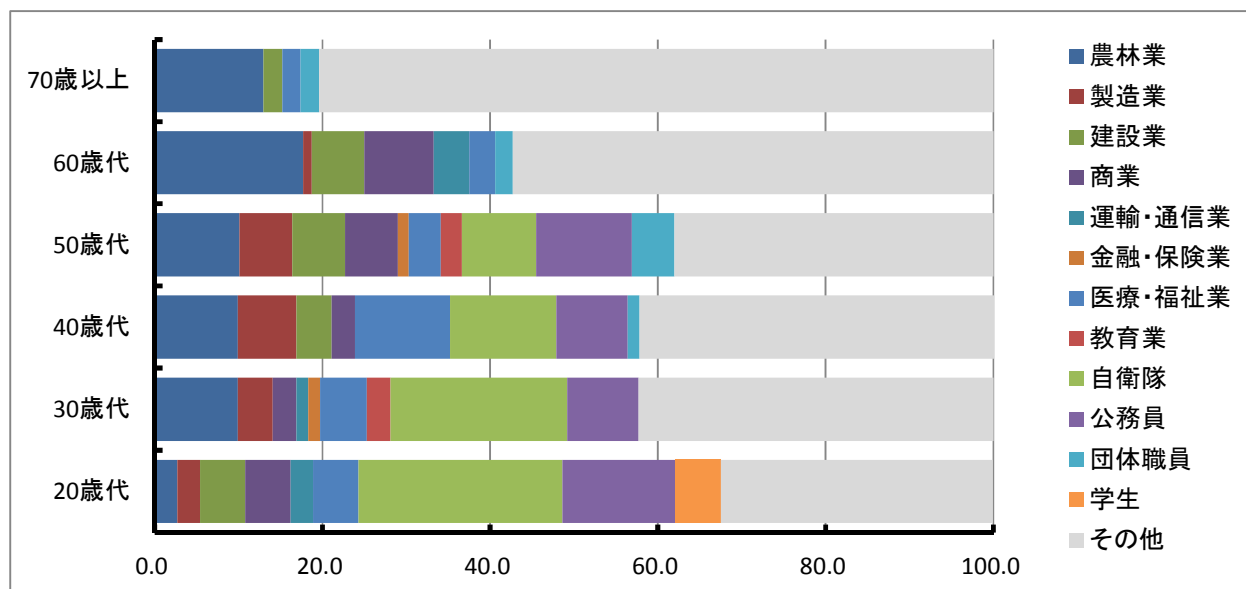


図2-1 年齢別職業

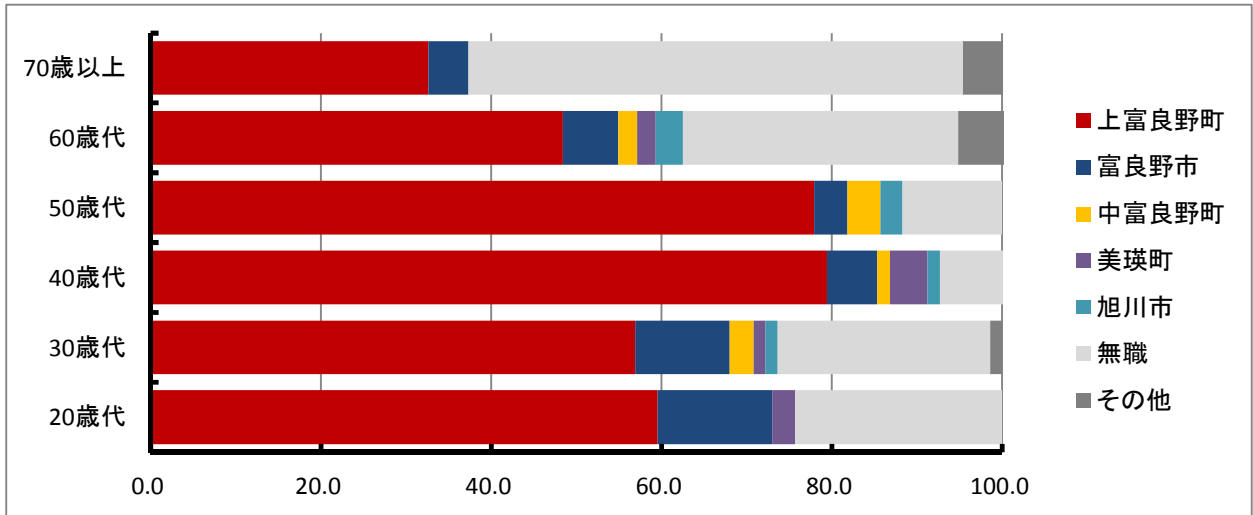


図2-2 年齢別労働場所

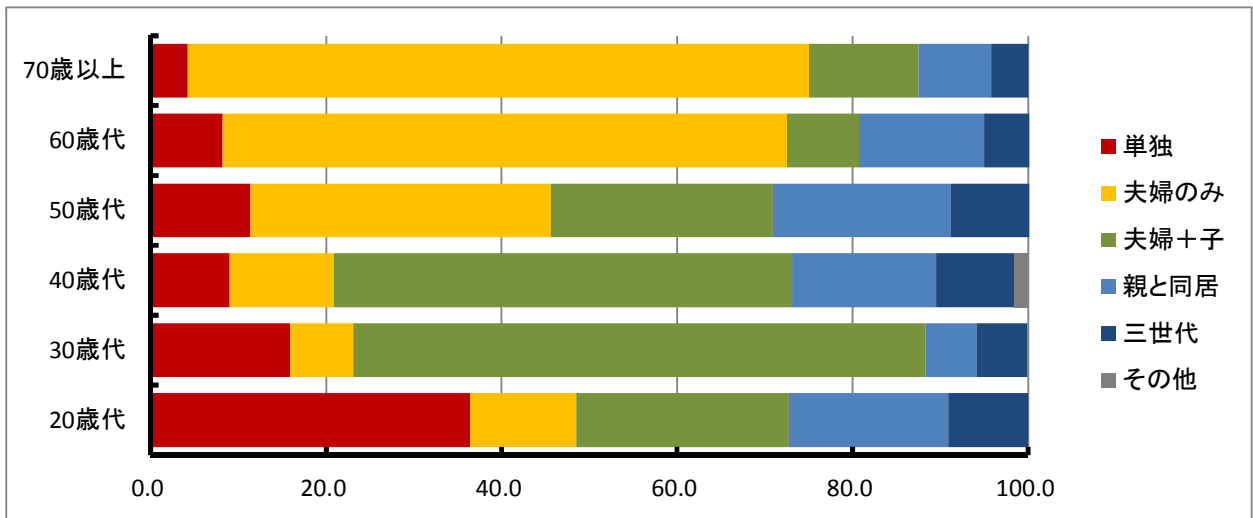


図2-3 年齢別家族構成

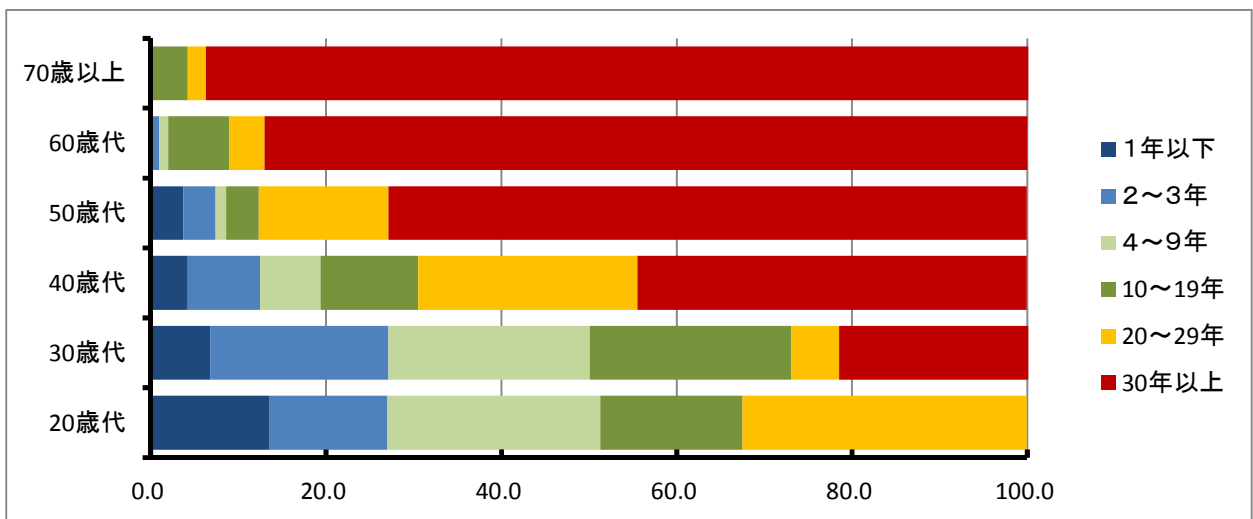


図2-4 年齢別居住年数

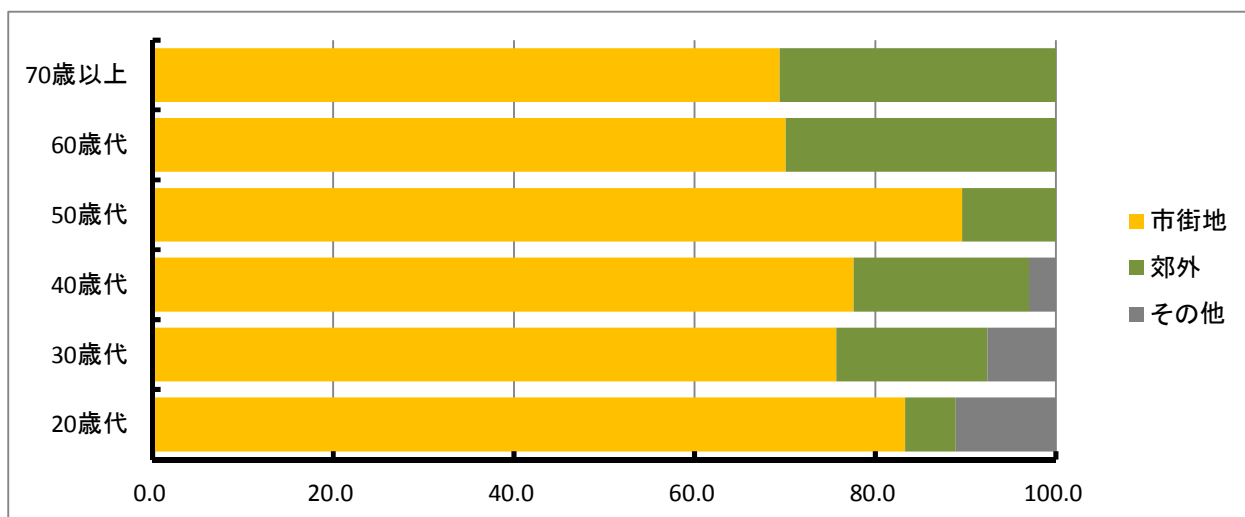


図 2-5 年齢別所属住民会（「市街地」・「郊外」別）

2-2. 上富良野町の「満足度」意識と「定住度」意識

上富良野町における居住環境意識（「満足度」意識及び「定住度」意識）について分析する。

「満足度」意識をみると（図 2-6）、「満足している」が 51.4%、「不満である」が 13.8%、「どちらでもない」が 34.8%と、半数の町民が「満足」している一方、「どちらでのない」も多いことがわかる。そこで、年齢別、性別、上富良野町出身別、居住年数別、職業別、家族構成別、労働場所別、所属住民会別の「満足度」を表 2-2 に示す。

年齢別で「満足している」をみると、20 歳代が 43.2%、30 歳代が 43.8%、40 歳代が 43.7%、50 歳代が 51.3%、60 歳代が 62.4%、70 歳以上が 59.6%と、高齢層ほど「満足している」が高い。また、「不満である」をみると、20 歳代が 16.2%、30 歳代が 20.5%、40 歳代が 25.4%、50 歳代が 8.8%、60 歳代が 6.9%、70 歳以上が 8.5%と、20 歳代・30 歳代・40 歳代で高く、若年層が「不満」と感じており、若者に魅力的な「まち」をつくっていくことが必要である。

居住年数で「満足している」をみると、1 年以下が 56.3%、2～3 年が 41.1%、4～9 年が 42.4%、10～19 年が 44.2%、20～29 年が 44.2%、30 年以上が 56.3%と、1 年以下及び 30 年以上の「満足している」が高く、また、居住年数 2～3 年の「不満である」が 31.0%と高い。これは、移住してきたばかりの人は上富良野町をまだ理解していなく、少し慣れてきた時に「不満」及び「不便」を感じていると考えられる。

家族構成別をみると、「夫婦+子」世帯の「不満である」が高く（21.3%）、子をもつ世帯で何らかの「不便」を感じていることがわかる。

そこで、「不満である」の理由をみると（図 2-7）、「働く場が少ない」が 63.2%、「買い物などが不便である」が 54.4%と高く、就業環境や商業環境の整備が必要である。また、「その他」が 2 割ほどであるが、その詳細をみると、「病院や観光が中途半端」「ゴミ袋が高すぎる」「道路が悪い」「農村地区で燃えるゴミの回収がない」「自家用車がなければ移動が不便」「交通の便が悪い」などの生活環境の整備に対する不満や、「町が美しくない、景観が美しいのにそれを活かした町づくりになっていない」「ラベンダー、温泉、サガリ、の活用不足」など上富良野町の魅力を十分に発揮していないための不満もある。特に後者の意見は、居住の満足度理由である以上にまちづくり活動の促進に対する貴重な意見と捉えられる。

「満足している」の理由をみると（図 2-8）、「自然が豊かである」が 87.3%で、ほかより大きな差がある。「自然の豊かさ」は上富良野町において大きな満足度の要因である一方、他は満足できていないとも捉えられ、「不満足」の理由と同様に、生活環境の整備が満足度を高める要因であることがわかる。

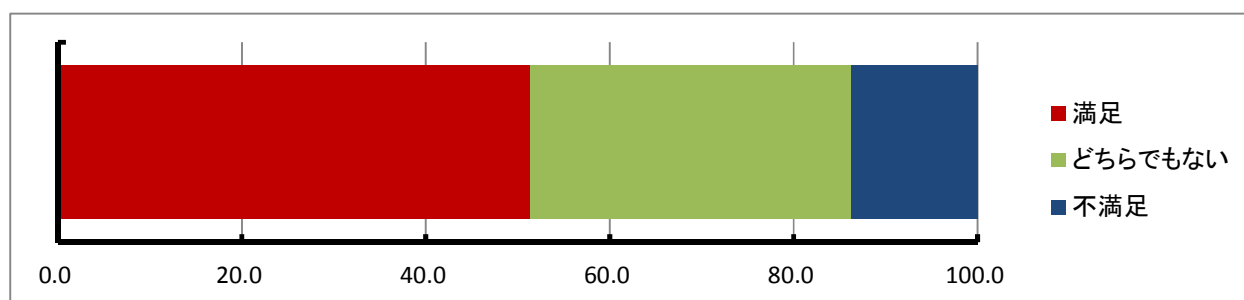


図 2-6 居住の満足度

表 2-2 年齢別・性別・上富良野町出身別・居住年数別・職業別・家族構成別・労働場所別・所属住民会別の
居住の満足度

		比率 (実数)			
		満足	どちら	不満	実数
年 齢	20 歳代	43.2	40.5	16.2	37
	30 歳代	43.8	35.6	20.5	73
	40 歳代	43.7	31.0	25.4	71
	50 歳代	51.3	40.0	8.8	80
	60 歳代	62.4	30.7	6.9	101
	70 歳以上	59.6	31.9	8.5	47
性 別	男 性	54.1	32.4	13.5	170
	女 性	49.0	34.8	16.2	198
上富良野 出身度	○	57.0	32.4	10.6	179
	×	47.0	36.6	16.4	232
居 住 年 数	1 年以下	56.3	25.0	18.8	16
	2～3 年	41.4	27.6	31.0	29
	4～9 年	42.4	42.4	15.2	33
	10～19 年	44.2	39.5	16.3	43
	20～29 年	44.2	34.6	21.2	52
	30 年以上	56.3	34.5	9.2	238
職 業	農林業	73.3	24.4	2.2	45
	製造業	40.0	40.0	20.0	15
	建設業	47.1	23.5	29.4	17
	商 業	47.4	31.6	21.1	19
	運輸・通信業	83.3	0.0	16.7	6
	金融・保険業	100	0.0	0.0	2
	医療・福祉業	52.4	28.6	19.0	21
	教育業	100	0.0	0.0	3
	自衛隊	41.0	41.0	17.9	39
	公務員	65.4	23.1	11.5	26
	団 体	62.5	25.0	12.5	8
	学 生	0.0	100	0.0	2
その他	47.9	39.2	12.9	194	

		比率 (実数)			
		満足	どちら	不満	実数
家 族 構 成	単 独	44.7	44.7	10.6	47
	夫婦のみ	57.9	31.4	10.7	140
	夫婦＋子	42.6	36.1	21.3	122
	親と同居	61.1	27.8	11.1	54
	三世代以上	66.7	33.3	0.0	27
	その他	0.0	100	0.0	1
労 働 場 所	上富良野町	49.8	34.8	15.5	233
	富良野市	57.1	25.0	17.9	28
	中富良野町	62.5	37.5	0.0	8
	美瑛町	57.1	28.6	14.3	7
	旭川市	57.1	42.9	0.0	7
	無 職	53.1	35.4	11.5	96
住 民 会	市街地	50.3	35.1	14.6	302
	郊 外	61.0	29.9	9.1	77
	その他	18.2	63.6	18.2	11

※実数とは有効回答数である。

※実数グレーは、有効回答数が一桁であるため、参考程度と考
えるべきである。

※表頭の「どちら」とは、どちらでもない、である。

※表側の「住民会」は、所属住民会、である。

※「上富良野出身度」の「○」は上富良野出身者、「×」は上
富良野外出身者である。

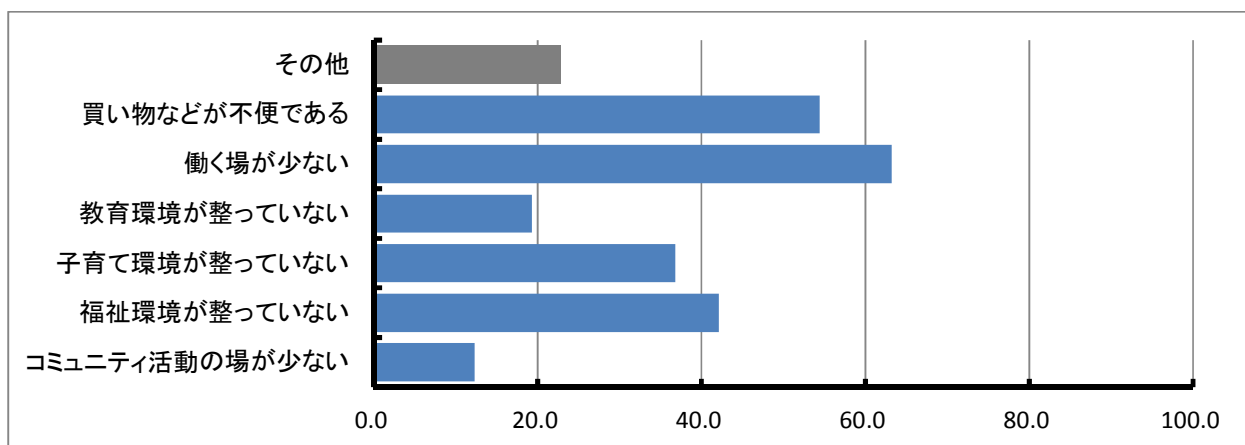


図2-7 不満足の原因

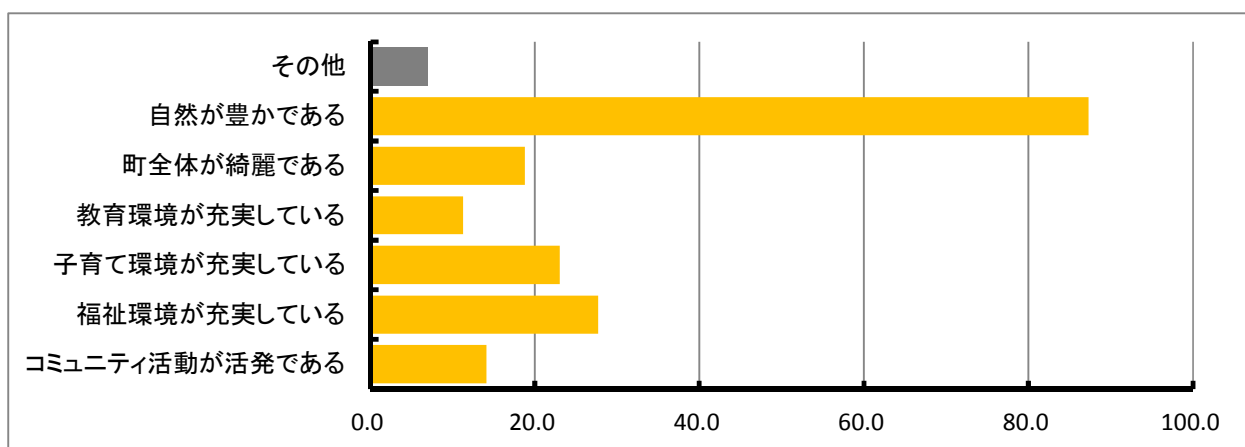


図2-8 満足の原因

上富良野町での「定住度」意識（今後も住みたいか）を図2-9に示す。

「住みたい」が73.5%、「住みたくない」が15.8%、「その他」が10.8%と、多数の町民が「住みたい」と感じている。そこで、年齢別、性別、上富良野町出身別、居住年数別、職業別、家族構成別、労働場所別、所属住民会別の満足度を表2-3に示す。

年齢別の「住みたい」をみると、20歳代が68.6%、30歳代が55.6%、40歳代が68.6%、50歳代が73.3%、60歳代が84.4%、70歳以上が91.5%と、高齢層ほど「住みたい」が高い。しかし、若年層の20歳代と30歳代のみをみると、20歳代より30歳代が「住みたくない」が高い。30歳代は「夫婦+子」世帯の多い居住年数であり、満足度の結果から、「不満」及び「不便」が多いため「住みたくない」と感じている町民が多いと考えられる。

居住年数別の「住みたい」をみると、1年以下の46.7%、2～3年が50.0%、4～9年が71.9%、10～19年が51.2%、20～29年が70.0%、30年以上が83.4%と、10～19年で一度大きく低下する。その10～19年は30歳代が多く家族構成の影響のためと考えられる。

一方、「その他」が23.3%と多い。そこで、「その他」をみると「実家があるので近くに住んでいる」「家があるので」「嫁いできたので仕方ない」「他に良いところがあれば引っ越す」「行くところがない」「移住する予定がないだけ」など、仕方なく住み続けている・住み続けたい意見が見受けられる。しかし、「まだわからない」「今後によっては」「老後はわからない」「絶対に住みたいと思っているわけではない」「今はいいけど、年をとったらなあ？」といった検討中の意見や、「子育て支援が少ない」「生活（仕事）が出来るか？」「若者が住む場所が無い」「町の文化活動がおもしろくなれば」「買い物 convenientだと住みたい」「上富が変われば住みたい」「活気がない」といった「不満」が検討に至っている意見などもあり、上富良野町は大きく変わる必要を訴えている町民もいる。

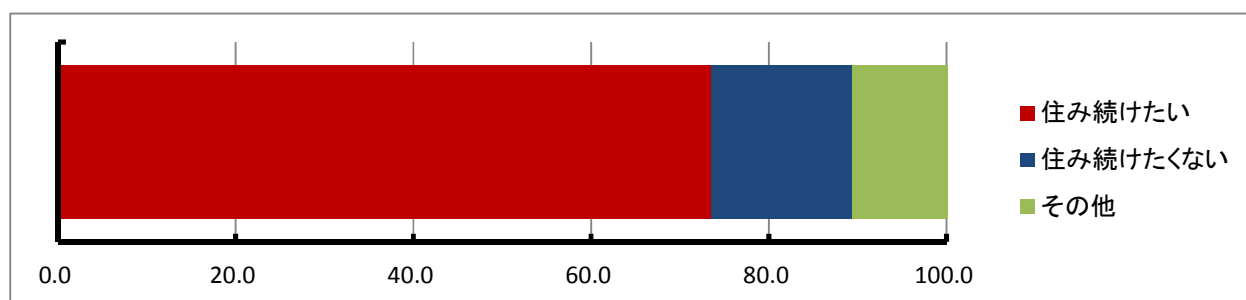


図2-9 定住度意識

表 2-3 年齢別・性別・上富良野町出身別・居住年数別・職業別・家族構成別・労働場所別・所属住民会別の定住度

		比率 (実数)			
		定	否	他	実数
年 齢	20 歳代	68.6	17.1	14.3	35
	30 歳代	55.6	30.6	13.9	72
	40 歳代	68.6	17.1	14.3	70
	50 歳代	73.3	10.7	16.0	75
	60 歳代	84.4	9.4	6.3	96
	70 歳以上	91.5	8.5	0.0	47
性 別	男 性	78.2	15.2	6.7	165
	女 性	67.0	17.3	15.7	191
上富良野 出身度	○	80.1	9.9	9.9	171
	×	68.6	20.4	11.1	226
居 住 年 数	1 年以下	46.7	33.3	20.0	15
	2～3 年	50.0	39.3	10.7	28
	4～9 年	71.9	15.6	12.5	32
	10～19 年	51.2	25.6	23.3	43
	20～29 年	70.0	18.0	12.0	50
	30 年以上	83.4	9.6	7.0	229
職 業	農林業	90.5	2.4	7.1	42
	製造業	71.4	14.3	14.3	14
	建設業	80.0	6.7	13.3	15
	商 業	68.4	10.5	21.1	19
	運輸・通信業	100	0.0	0.0	6
	金融・保険業	100	0.0	0.0	2
	医療・福祉業	38.1	23.8	38.1	21
	教育業	100	0.0	0.0	2
	自衛隊	64.1	28.2	7.7	39
	公務員	68.1	16.0	16.0	25
	団 体	71.4	14.3	14.3	7
	学 生	0.0	50.0	50.0	2
その他	75.8	16.3	7.9	190	

		比率 (実数)			
		定	否	他	実数
家 族 構 成	単 独	65.2	23.9	10.9	46
	夫婦のみ	77.9	13.2	8.8	136
	夫婦＋子	72.0	17.8	10.2	118
	親と同居	74.5	15.7	9.8	51
	三世代以上	81.5	0.0	18.5	27
	その他	0.0	0.0	100	1
	労 働 場 所	上富良野町	70.3	16.2	13.5
富良野市		70.4	14.8	14.8	27
中富良野町		100	0.0	0.0	8
美瑛町		71.4	14.3	14.3	7
旭川市		100	0.0	0.0	7
無 職		75.5	17.0	7.4	94
住 民 会	市街地	70.8	18.6	10.7	291
	郊 外	88.0	6.7	5.3	75
	その他	54.5	18.2	27.3	11

※実数とは有効回答数である。

※実数グレーは、有効回答数が一桁であるため、参考程度と考
えるべきである。

※表頭の「定」は住み続ける、「否」は住み続けたくない、「他」
はその他、である。

※表側の「住民会」は所属住民会である。

※「上富良野出身度」の「○」は上富良野出身者、「×」は上
富良野外出身者である。

居住の「満足度」と「定住性」の関係を図 2-10 に示す。

居住の「満足している」で「住み続けたい」が 95.1%、「住み続けたくない」が 2.0%、「その他」が 2.0%、「どちらでもない」ではそれぞれ 59.9%、21.1%、19.0%、「不満である」ではそれぞれ 26.4%、54.7%、18.9%と、「満足している」町民が「住み続けたい」と思っており、「不満である」町民は「住み続けたくない」と感じている。

そこで、「住み続けたい」と感じている町民の「不満足の原因」を図 2-11 に示す。全体（図 2-7「不満足の原因」）と比較すると、「働く環境がない」（60.4%）、「買い物環境が不便」（54.7%）、「福祉環境が整っていない」（41.5%）、「子育て環境が整っていない」（37.7%）の順であるが、この場合、「働く環境がない」（57.1%）は同 1 位であるが、「子育て環境が整っていない」の順位がほかより上回る。また、全体で「教育環境が整っていない」が 20.8%であるが、この場合では 35.7%と高い。このように、子どもの環境を整えることがさらなる「満足」を与えることを考えられる。

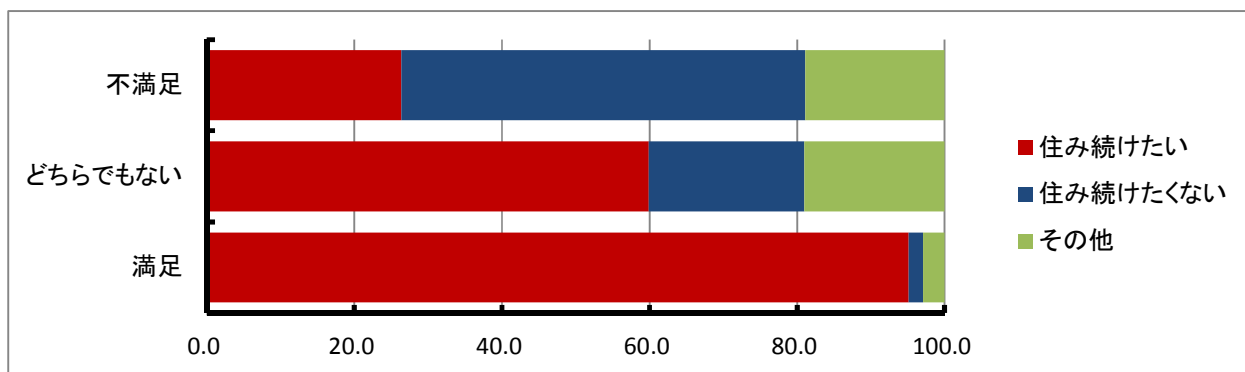


図 2-10 満足度別定住度

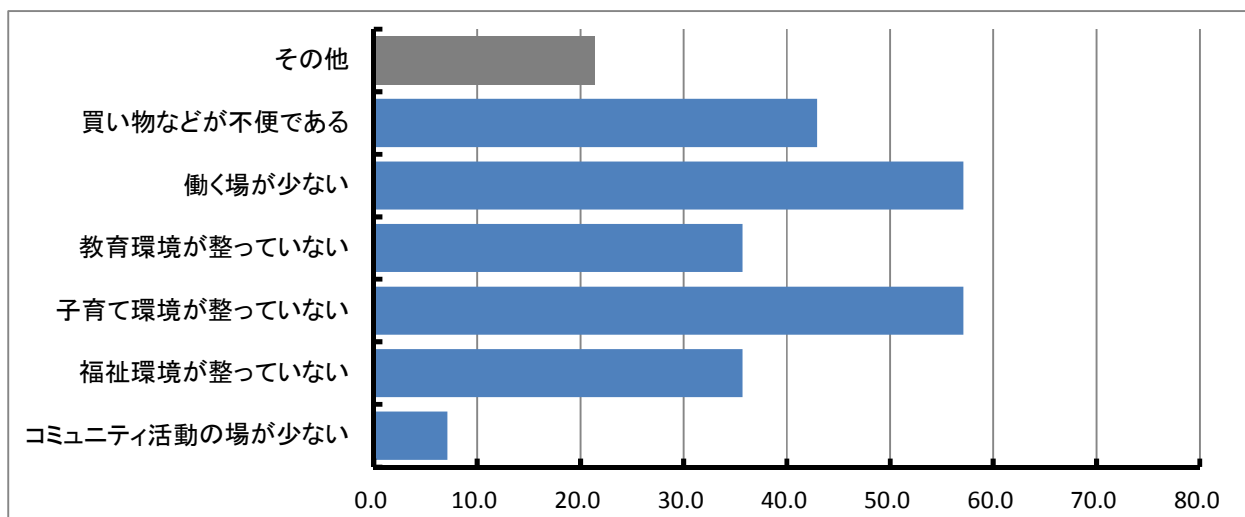


図 2-11 「住み続けたい」人の不満足理由

2-3. 上富良野町の魅力（資源・資産）

上富良野町には魅力的な資源・資産が多くあるが、町民は何を魅力と感じているのかについて分析する。

上富良野町の魅力的な資源・資産について図 2-12 に示す。

最も高いのは「十勝岳連峰の景観」（87.3%）であり、町民のほとんどが「十勝岳連峰の景観」を資産・魅力と感じていることがわかる。次いで、「サガリ」（65.7%）、「温泉」（61.8%）、「ラベンダー」（45.5%）、「美味しい農・畜産物」（44.5%）である。これらを上富良野町の資源・資産としてアピールしていくことが重要であると考えられる。一方、「まちづくり活動」（5.1%）や「コミュニティ活動」（5.4%）といったソフト面、さらに「街並み景観」（6.1%）や「文化施設」（10.2%）はあまり魅力と感じていなく、まちづくり活動や街なか整備を積極的に進めていくことが必要である。

年齢別でみると、「十勝岳連峰などの景観」は20歳代が75.7%、30歳代が79.5%であるのに対し、50歳代が92.5%、60歳代が91.9%、70歳以上が97.9%、と若年層に比べ高齢層のほうが高い。「文化施設」も、20歳代が8.1%、30歳代が6.8%、40歳代が5.7%、50歳代が7.5%であるのに対し、60歳代が14.1%、70歳以上が21.3%と、全体の比率は低いものの同様の傾向を示す。一方、「ラベンダー」及び「星がきれいに見える」では、20歳代が73.0%・24.3%、30歳代が58.9%・20.5%、40歳代が48.6%・18.6%、50歳代が38.8%・18.8%、60歳代が32.3%・17.2%、70歳以上が38.3%・10.6%である。また、年齢別と相関関係がある居住年数をみると、同様の傾向があるほか、「街並みの景観」も1年以下で18.8%、2～3年で10.7%、4～9年で6.1%、10～19年で4.5%、20～29年で7.8%、30年以上で4.7%と若年層が高い。このように、視覚的に感じられるコモ、つまり即時性のある資産・資源では若年層もしくは短居住層が高く、歴史を感じられる資産・資源は高齢層もしくは長居住層で高いことがわかる。

居住の満足度別でみると、「満足」より「不満足」のほうが高い魅力は「ラベンダー」（46.9%、54.5%）、「子どもの挨拶・交通マナー」（21.1%、23.6%）、「サガリ」（67.1%、70.9%）である。これらは「満足度」に左右されるモノではないことがわかる。また、「満足」と「不満足」の差をみると、「十勝岳連峰などの景観」が93.4%と78.2%で差が15.2%、「美味しい農畜産物」が52.6%と29.1%で差が23.5%、「かみふらの八景」が31.5%と16.4%で差が15.1%とこれらは差が大きく、「満足度」に影響を与える大きなモノ（要因）であることがわかる。つまり、文化的・景観的要素は上富良野町の大きな魅力であることがわかる。

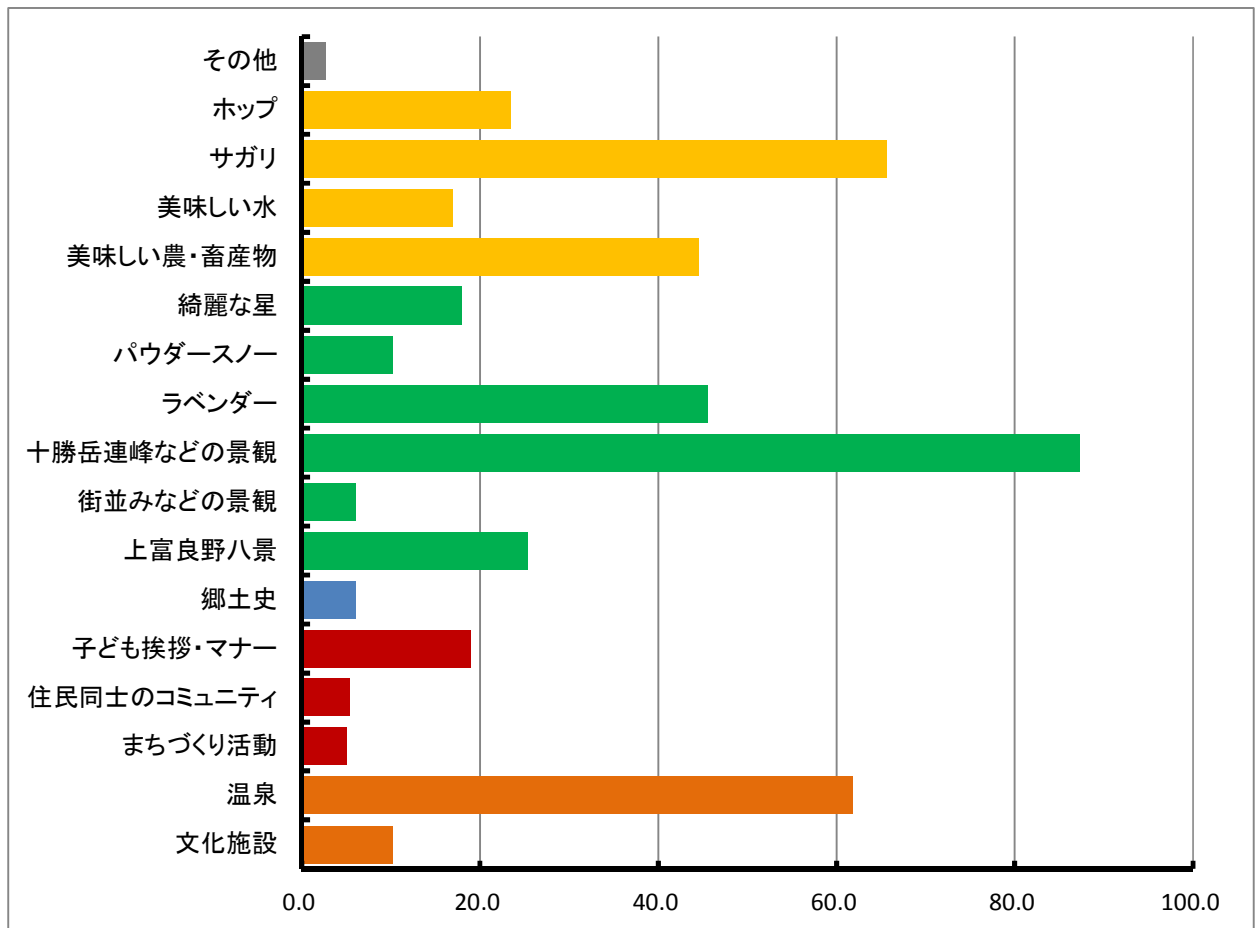


図 2-12 上富良野町の魅力 (資産・資源)

表2-4 年齢別・性別・上富良野町出身別・居住年数別・職業別・家族構成別・労働場所別・所属住民会別・満足度別・定住度別の上富良野町魅力(1)

		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
年 齢	20歳代	2.7	2.7	5.4	75.7	73.0	40.5	8.1	54.1	29.7	8.1	5.4
	30歳代	1.4	2.7	4.1	79.5	58.9	46.6	6.8	56.2	17.8	23.3	2.7
	40歳代	4.3	2.9	5.7	84.3	48.6	35.7	5.7	51.4	20.0	22.9	1.4
	50歳代	7.5	5.0	7.5	92.5	38.8	40.0	7.5	66.3	26.3	10.0	8.8
	60歳代	7.1	10.1	7.1	91.9	32.3	55.6	14.1	69.7	32.3	18.2	9.1
	70歳以上	6.4	6.4	6.4	97.9	38.3	38.3	21.3	66.0	27.7	27.7	8.5
性 別	男性	5.3	7.7	8.9	85.8	43.2	43.2	9.5	59.2	28.4	14.8	6.5
	女性	4.6	4.1	4.1	89.8	47.4	45.4	11.2	64.8	24.0	21.9	5.6
上富良野 出身	○	4.5	5.6	4.0	89.3	43.5	48.0	11.9	65.5	24.3	19.2	7.3
	×	5.6	5.2	7.8	85.7	46.8	41.1	9.1	58.4	26.0	18.6	5.2
居 住 年 数	1年以下	0.0	6.3	18.8	93.8	62.5	56.3	6.3	50.0	18.8	12.5	6.3
	2~3年	7.1	3.6	10.7	85.7	60.7	39.3	3.6	57.1	25.0	32.1	3.6
	4~9年	0.0	9.1	6.1	75.8	57.6	54.5	6.1	69.7	27.3	18.2	6.1
	10~19年	2.3	4.5	4.5	75.0	52.3	34.1	9.1	45.5	22.7	20.5	2.3
	20~29年	3.9	5.9	7.8	94.1	51.0	39.2	7.8	52.9	19.6	17.6	2.0
	30年以上	6.8	5.1	4.7	89.4	38.1	45.8	12.7	66.5	27.5	17.8	8.1
住 民 会	市街地	6.0	5.6	6.0	87.4	44.2	41.9	10.3	59.8	24.3	19.6	6.0
	郊外	3.9	5.2	6.5	93.5	48.1	50.6	9.1	68.8	28.6	15.6	7.8
	その他	0.0	10.0	10.0	80.0	50.0	50.0	20.0	60.0	50.0	10.0	10.0
満 足 度	満足	7.0	7.5	6.6	93.4	46.9	52.6	12.7	68.5	31.5	21.1	7.0
	不満足	3.6	3.6	5.5	78.2	54.5	29.1	7.3	56.4	16.4	23.6	3.6
	どちらでも	2.8	2.8	5.6	82.4	39.4	38.7	7.7	54.2	19.7	13.4	5.6
定 住 度	定住	5.5	6.1	7.2	89.4	44.7	47.4	9.9	64.5	27.6	17.4	6.1
	否定住	6.6	1.6	6.6	75.4	55.7	26.2	6.6	47.5	18.0	19.7	4.9
	どちらでも	0.0	2.4	0.0	88.1	38.1	45.2	14.3	64.3	16.7	23.8	4.8

※表頭は、A：まちづくり活動、B：住民同士のコミュニティ、C：街並みなどの景観、D：ラベンダー、E：美味しい農畜産物、
G：文化施設、H：温泉、I：かみふらの八景、J：子どもの挨拶・交通マナー、K：郷土史、L：パウダースノー、
M：星が綺麗に見える、N：美味しい水、O：サガリ、P：ホップ、Q：その他

※「上富良野出身度」の「○」は上富良野出身者、「×」は上富良野外出身者である。

※「住民会」は所属住民会である。

※「定住度」は上富良野町の住み続けたい度合いであり、「定住」は住み続けたい、「否定住」は住み続けたくない、である。

表2-4 年齢別・性別・上富良野町出身別・居住年数別・職業別・家族構成別・労働場所別・所属住民会別・満足度別・定住度別の上富良野町魅力(2)

		L	M	N	O	P	Q	実数
年 齢	20歳代	13.5	24.3	21.6	83.8	24.3	0.0	37
	30歳代	8.2	20.5	8.2	82.2	17.8	5.5	73
	40歳代	11.4	18.6	8.6	78.6	20.0	2.9	70
	50歳代	7.5	18.8	13.8	72.5	31.3	2.5	80
	60歳代	14.1	17.2	23.2	48.5	23.2	2.0	99
	70歳以上	6.4	10.6	29.8	36.2	25.5	2.1	47
性 別	男 性	10.1	14.2	15.4	69.8	22.5	4.1	169
	女 性	11.2	22.4	17.3	66.3	26.5	1.5	196
上富良野 出身	○	7.9	15.8	18.6	68.9	28.2	2.8	177
	×	12.1	19.9	15.6	63.2	19.9	2.6	231
居 住 年 数	1年以下	18.8	37.5	18.8	68.8	12.5	0.0	16
	2~3年	14.3	25.0	10.7	71.4	17.9	0.0	28
	4~9年	12.1	21.2	15.2	78.8	27.3	9.1	33
	10~19年	6.8	22.7	11.4	75.0	18.2	2.3	44
	20~29年	7.8	21.6	17.6	72.5	27.5	0.0	51
	30年以上	10.2	14.0	18.6	59.7	24.6	3.0	236
住 民 会	市街地	10.0	16.3	14.6	69.4	23.6	3.0	301
	郊 外	14.3	27.3	27.3	51.9	24.7	1.3	77
	その他	10.0	10.0	10.0	90.0	20.0	0.0	10
満 足 度	満 足	12.2	21.6	22.5	67.1	27.2	2.8	213
	不満足	9.1	12.7	9.1	70.9	23.6	0.0	55
	どちらでも	7.7	14.8	12.0	61.3	17.6	3.5	142
定 住 度	定 住	11.9	17.4	20.8	66.2	23.5	3.1	293
	否定住	4.9	13.1	8.2	68.9	21.3	1.6	61
	どちらでも	7.1	31.0	9.5	57.1	23.8	2.4	42

2-4. 住民会・町内会の参加状況と実感度及び不参加要因

ここでは、町民のまちづくり活動の参加状況や現まちづくり活動の評価、上富良野町におけるまちづくりに必要なコト等について分析する。住民会・町内会の参加度を図 2-13 に示す。

「参加している」が 52.3%、「以前は参加していた」が 28.5%、「参加したことがない」が 28.5%である。「参加している」「参加していた」で約 7 割であり、比較的多くの町民が活動している・していたことがわかる。

そこで、どのような町民が参加しているのか？、参加していないのか？、について分析する。表 2-5 に年齢構成別、性別別、上富良野出身別、居住年数別、職業別、家族構成別、労働場所別、所属住民会別の参加度を示す。

年齢別をみると、「参加している」「以前は参加していた」で、20 歳代では 32.4%、30 歳代では 43.2%、40 歳代では 68.5%、50 歳代では 84.0%、60 歳代では 86.2%、70 歳代以上では 93.8%と、若年層は参加状況が低い。これは、居住年数が短いことによる参加できる・参加できた時期が短いこと、子育て世代のため多忙なこと、まちづくりに興味が無いこと、などがあげられる。

居住年数別で「参加している」をみると、「1 年以下」が 6.3%、「2～3 年」が 23.4%、「4～9 年」が 50.0%、「10～19 年」が 68.2%、「20～29 年」が 71.0%、「30 年以上」が 85.0%であり、居住年数が長いほど参加している町民が多いことがわかる。居住年数は年齢と相関関係（居住年数が長い＝高齢層）があるためといえる。つまり、居住年数が長くなると、地域への愛着が高まり地域行事に参加しようとする意識が生まれてくると考えられる。よって、地域を良くし長く居住してもらうことが重要であるといえる。しかし、「参加している」で、居住年数「10～19 年」が 50.0%、「20～29 年」が 38.5%、「30 年以上」が 65.0%、と「20～29 年」が低くなっている。これは、居住もしくは活動の倦怠期であり、この居住年数時期居住者の居住環境や地域活動参加意欲向上を促すと、地域状況が大きく変化させられると考えられる。

職業別をみると、「農林業」では 89.1%、「製造業」では 60.0%、「建設業」では 94.1%、「商業」では 73.7%、「医療・福祉業」では 80.0%、「教育業」（4 名の回答数であるが）では 100.0%、「自衛隊」では 50.0%、「公務員」では 50.0%、「団体職員」では 75.0%、「その他」では 71.8%であり、「教育業」や「建設業」で参加度が高い。地域づくりを担う「公務員」の参加度が低いのは大きな問題であり、積極的に地域活動に参加し地域の状況を把握しながら町政運営をするべきと考える。

家族構成別をみると、「単独世帯」で「参加したことがない」が 58.3%と高い。「単独世帯」において単身若者もしくは高齢者が多いと考えられる。若年層においては活動意欲をかき立てるような活動内容の検討、高齢層では体力等を配慮した活動内容の検討、が必要であると考えられる。

所属住民会では、「市街地」は 53.0%（「参加している」）、19.4%（「以前は参加していたことがある」）、27.6%（「参加したことがない」）に対し、「郊外」では 65.8%、19.0%、15.2%であり、「郊外」のほうが参加していることがわかる。「郊外」は比較的「農林業」で居住年数が長く、かつ、上富良野町に誇りをもっているためと考えられる。各住民会の参加度は表の掲載している通りであり、現在の参加度の低い住民会もみられ、小さい組織から少しずつ町民意識を高める必要がある。

居住の満足度別をみると、「満足している」で「参加している」が 62.0%、「以前は参加していたことがある」が 12.7%、「参加したことがない」が 25.4%であるのに対し、「満足していない」では 40.0%、24.6%、35.1%、「どちらでもない」では 43.0%、26.8%、30.3%で、「満足している」町民は「参加している」、「満足

していない」「どちらでもない」町民は「以前は参加していた」又は「参加したことがない」が高い。さらに、定住度別をみると、「住み続けたい」で「参加している」が56.8%、「以前は参加していた」が18.4%、「参加したことがない」が24.8%に対し、「住み続けたくない」では32.3%、24.2%、43.5%と、「住み続けたくない」は不参加が高い。このように、満足度や定住度と参加状況が関係しており、住民の満足度や定住意識を高める必要がある。

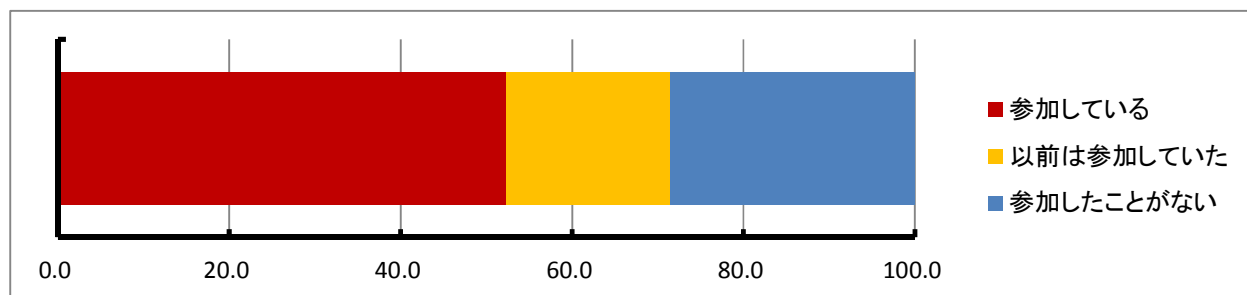


図2-13 町内会・住民会の参加度

表 2-5 年齢別・性別・上富良野町出身別・居住年数別・職業別・家族構成別・労働場所別・所属住民会別・満足度別・定住度別の住民会・町内会活動の参加度 (1)

		参加度 (比率)			
		A	B	C	実数
年 齢	20 歳代	8.1	24.3	67.6	37
	30 歳代	29.7	13.5	56.8	74
	40 歳代	47.1	21.4	31.4	70
	50 歳代	59.3	24.7	16.0	81
	60 歳代	73.3	12.9	13.9	101
	70 歳以上	71.4	22.4	6.1	49
性 別	男 性	57.8	15.6	26.6	173
	女 性	44.2	21.8	34.0	197
上富良野 出身	○	58.6	19.2	22.1	181
	×	47.2	18.9	33.9	233
居 住 年 数	1 年以下	6.3	0.0	93.8	16
	2~3 年	16.7	6.7	76.7	30
	4~9 年	37.5	12.5	50.0	32
	10~19 年	50.0	18.2	31.8	44
	20~29 年	38.5	32.7	28.8	52
	30 年以上	65.0	20.0	15.0	240
職 業	農林業	71.7	17.4	10.9	46
	製造業	33.3	26.7	40.0	15
	建設業	76.5	17.6	5.9	17
	商 業	63.2	10.5	26.3	19
	運輸・通信業	50.0	16.7	33.3	6
	金融・保険業	50.0	0.0	50.0	2
	医療・福祉業	40.0	40.0	20.0	20
	教育業	100	0.0	0.0	4
	自衛隊	25.0	25.0	50.0	40
	公務員	42.3	7.7	50.0	26
	団 体	75.0	0.0	25.0	8
	学 生	0.0	50.0	50.0	2
	その他	53.8	17.9	28.2	195

		参加度 (比率)			
		A	B	C	実数
家 族 構 成	単 独	22.9	18.8	58.3	48
	夫婦のみ	66.2	16.9	16.9	142
	夫婦+子	49.6	19.8	30.6	121
	親と同居	50.9	21.8	27.3	55
	三世代以上	63.0	14.8	22.2	27
	その他	0.0	100	0.0	1
労 働 場 所	上富良野町	50.4	20.3	29.2	236
	富良野市	48.1	22.2	29.6	27
	中富良野町	75.0	12.5	12.5	8
	美瑛町	42.9	42.9	14.3	7
	旭川市	71.4	14.3	14.3	7
	無 職	52.6	13.4	34.0	97
	その他	75.0	12.5	12.5	8
満 足 度	満 足	62.0	25.4	12.7	213
	どちらでも	43.0	30.3	26.8	142
	不満足	40.4	35.1	24.6	57
定 住 度	定 住	56.8	24.8	18.4	294
	非定住	32.3	43.5	24.4	62
	その他	47.6	31.0	21.4	42

※実数とは有効回答数である。

※実数グレーは、有効回答数が一桁であるため、参考程度と考えるべきである。

※表頭：Aは「参加している」、Bは「以前は参加していたことがある」、Cは「参加したことがない」、である。

※「上富良野出身度」の「○」は上富良野出身者、「×」は上富良野外出身者である。

※「定住度」は上富良野町の住み続けたい度合いであり、「定住」は住み続けたい、「否定住」は住み続けたくない、である。

表 2-5 年齢別・性別・上富良野町出身別・居住年数別・職業別・家族構成別・労働場所別・所属住民会別・満足度別・定住度別の住民会・町内会活動の参加度 (2)

		行事参加度 (比率)			
		A	B	C	実数
所属 住 民 会	1. 南 町	20.9	32.3	38.7	31
	2. 緑 町	66.7	0.0	33.3	12
	3. 丘 町	72.7	27.3	0.0	11
	4. 住 吉	77.8	5.6	16.7	18
	5. 東 明	68.6	20.0	11.4	35
	6. 泉 町	46.4	10.7	42.9	28
	7. 中 町	54.5	36.4	9.1	11
	8. 栄 町	62.5	25.0	12.5	8
	9. 旭 町	41.7	25.0	33.3	36
	10. 宮 町	44.4	14.8	40.7	27
	11. 本 町	60.0	22.5	17.5	40
	12. 大 町	40.0	16.0	44.0	25
	13. 西 富	59.1	13.6	27.3	22
	14. 静 修	100	0.0	0.0	1
	15. 江 幌	100	0.0	0.0	1
	16. 江 花	100	0.0	0.0	3
	17. 島 津	60.0	20.0	20.0	5
	18. 日の出	53.8	23.1	23.1	13
	19. 清 富	50.0	50.0	0.0	2
	20. 日 新	—	—	—	—
	21. 旭 野	100	0.0	0.0	3
	22. 富 原	70.0	10.0	20.0	10
	23. 東 中	66.7	19.0	14.3	21
	24. 草 分	56.3	25.0	18.8	16
	25. 里 仁	75.0	25.0	0.0	4
	26. その他	9.1	9.1	81.8	11
市街地 (1~13)	53.0	19.4	27.6	304	
郊外 (14~25)	65.8	19.0	15.2	79	

次に、住民会・町内会活動に「参加している」の「参加実感度」を図2-14に示す。

「大変実感している」が5.5%、「実感している」が42.7%、「あまり実感していない」が41.7%、「実感していない」が10.0%で、実感度は半々であり、参加実感度は比較的低い。これは、活動の内容や関わり方によるものと考えられ、活動の内容や関わり方を活動主体者は検討する必要があると考えられる。

一方、「参加したことがない」は3割程度であるが、その理由（「不参加の理由」）をみると（図2-15）、「忙しくて時間がとれない」が49.2%と最も高い。これは「時間があれば参加したいまたは参加できる」とも捉えることができる。よって、社会的・地域的にこの町民たちに「余裕を与える」ような環境を形成する必要があると考えられる。また、参加希望意識が高いと考えられる「情報が届かない」や「参加してみたい活動がない」は20.3%、22.0%であり、これらは活動情報の提供方法や活動の内容に問題があるため、活動主体者が活動内容を検討する必要がある。しかし、同程度に「興味がない」や「参加することが負担になる」といった参加希望意識が低い町民も2割程おり、協働的まちづくりを目指すためには、この2割の町民たちをどのように参加させるかが検討課題であるといえる。

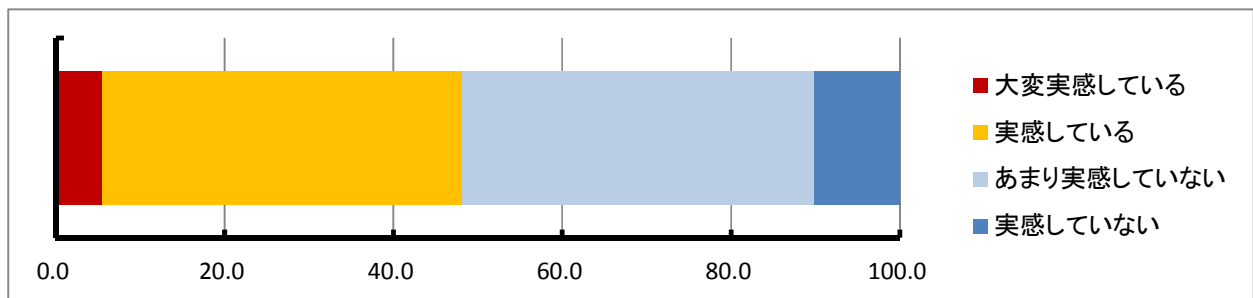


図2-14 町内会・住民会参加者の参加実感度

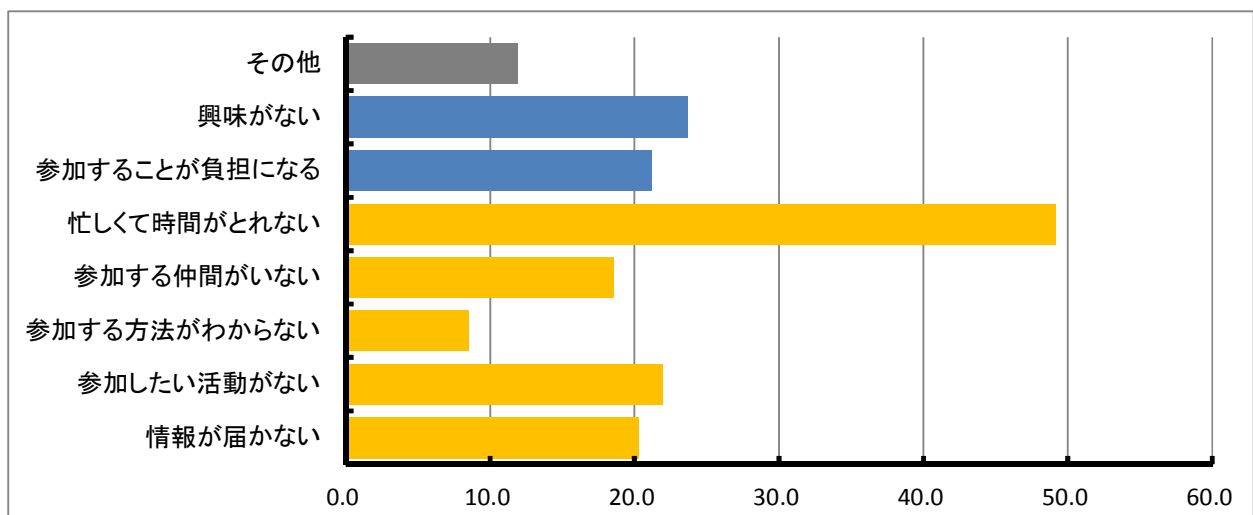


図2-15 不参加の理由

そこで、不参加者について詳細に分析する。年齢別の「参加していない（参加したことがない）」理由について表2-6に示す。

20歳代では「忙しくて時間がとれない」が50.0%、「情報が届かない」が29.2%、30歳代では「忙しくて時間がとれない」が47.6%、「興味が無い」が31.0%、「参加することが負担になる」が28.6%、40歳代では「忙しくて時間がとれない」が38.1%、「参加してみたい活動が無い」が38.1%、「参加する仲間がいない」が28.6%、50歳代では「忙しくて時間がとれない」が76.9%、「参加してみたい活動が無い」が30.8%、60歳代では「忙しくて時間がとれない」が50.0%、70歳代では特徴が特にない。どの年齢層においても「忙しくて時間がとれない」が最も高いが、若年層より50歳代が高く、これは仕事や家族サービスによるものと考えられる。中年層で「参加したい活動が無い」「参加する仲間がいない」が高く参加意思がみられるため、活動内容の見直しと呼びかけ方法を検討する必要があると考えられる。一方、30歳代では「興味が無い」が高い。これは、地域活動の参加以前の問題であり、まちづくり意識の高揚を育むしくみづくりが必要である。まず、どの年齢層を参加させるかを検討し、まず、実施できるまたは意識が高い年齢層から参加させる必要があると考える。

上富良野町出身別をみると、「出身」で「参加してみたい活動がない」が36.8%と高いのに対し、「非出身」では「興味が無い」が27.5%と高く、出身別で上富良野町に対する意識すなわち上富良野町に対する貢献意識が異なっていることがわかる。

居住年数別をみると、1年以下では「その他」が26.7%と高い。1年以下の「その他（自由記述）」をみると、「町民になってまだ1か月で行事がなかった」「引っ越し来てきたばかり」「転居して間もないから」などであり、まだ上富良野町や上富良野町で実施しているまちづくり活動の内容を理解していないことがわかるが、移住してきたばかりの町民を早くかつやさしく受け入れ、活動に参加させると、まちへの印象も良くなり、その後の活動にも積極的に参加してくれる可能性は高いため、移住者への対応を検討することも必要であると考えられる。また、2～3年では、「興味が無い」が45.5%、「参加してみたい活動がない」及び「参加する方法がわからない」が45.5%・31.8%であり、2年目以降で意識わかれる。よって、一年目の居住環境がその後の意識に変化を与えると考えられるため、上記したが移住してきた町民をどのように対応するか、つまり、一年目で良い環境である（住みやすい町である）という意識を芽生えさせることが重要であるといえる。10年～19年目は、まちづくり活動参加肯定意識より否定意識の方にやや傾向があるといえる。

労働場所別を「上富良野町」と「上富良野町以外」を比較すると、「興味が無い」が24.2%であるのに対し50.0%と大きな差があるため、働ける環境を上富良野町で確保しておく必要もあるといえる。

表2-6 年齢別・性別・上富良野町出身別・居住年数別・職業別・家族構成別・労働場所別・所属住民会別の
町内会活動の不参加理由(1)

		行事不参加理由(比率)								実数
		A	B	C	D	E	F	G	H	
年 齢	20歳代	29.2	20.8	16.7	20.8	50.0	4.2	25.0	12.5	24
	30歳代	19.0	16.7	4.8	14.3	47.6	28.6	31.0	16.2	42
	40歳代	19.0	38.1	4.8	28.6	38.1	23.8	23.8	9.5	21
	50歳代	7.7	30.8	0.0	7.7	76.9	23.1	23.1	15.4	13
	60歳代	21.4	7.1	14.3	21.4	50.0	21.4	7.1	0.0	14
	70歳以上	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	4
性 別	男性	27.3	29.5	13.6	15.9	50.0	22.7	29.5	6.8	44
	女性	16.2	19.1	5.9	20.6	48.5	22.1	20.6	16.2	68
上富良野 出身	○	18.4	36.8	5.3	21.1	52.6	21.1	15.8	7.9	38
	×	21.3	15.0	10.0	17.5	47.5	21.3	27.5	13.8	80
居 住 年 数	1年以下	13.3	20.0	0.0	13.3	33.3	13.3	20.0	26.7	15
	2~3年	45.5	31.8	18.2	22.7	45.5	9.1	45.5	13.6	22
	4~9年	6.7	0.0	13.3	20.0	33.7	20.0	20.0	6.7	15
	10~19年	13.3	20.0	6.7	6.7	53.3	33.3	26.7	13.3	15
	20~29年	26.7	33.3	6.7	20.0	53.3	20.0	20.0	6.7	15
	30年以上	13.9	22.2	5.6	22.2	47.2	27.8	13.9	8.3	36
職 業	農林業	20.0	0.0	20.0	20.0	40.0	0.0	20.0	20.0	5
	製造業	16.7	16.7	0.0	16.7	50.0	33.3	50.0	16.7	6
	建設業	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	1
	商業	0.0	25.0	0.0	25.0	75.0	25.0	25.0	0.0	4
	運輸・通信業	50.0	50.0	0.0	0.0	100	0.0	0.0	0.0	2
	金融・保険業	0.0	0.0	0.0	0.0	100	0.0	0.0	0.0	1
	医療・福祉業	25.0	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0	25.0	25.0	4
	教育業	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	自衛隊	15.8	26.3	5.3	0.0	52.6	26.3	31.6	10.5	19
	公務員	38.5	15.4	7.7	30.8	61.5	15.4	23.1	7.7	13
	団体	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	2
	学生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100	1
その他	19.6	25.0	10.7	21.4	39.3	23.2	21.4	12.5	56	

表 2-6 年齢別・性別・上富良野町出身別・居住年数別・職業別・家族構成別・労働場所別・所属住民会別の
町内会活動の不参加理由 (2)

		行事不参加理由 (比率)								実数
		A	B	C	D	E	F	G	H	
家 族 構 成	単 独	25.9	3.7	11.1	11.1	63.0	14.8	22.2	11.1	27
	夫婦のみ	24.0	24.0	16.0	32.0	32.0	20.0	24.0	12.0	25
	夫婦+子	13.8	25.0	2.8	13.8	50.0	27.8	25.0	13.8	36
	親と同居	13.3	46.7	6.7	20.0	46.7	13.3	20.0	0.0	15
	三世代以上	28.6	28.6	14.3	28.6	42.9	42.9	42.9	42.9	7
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—
労 働 場 所	1. 上富良野町	19.7	21.2	9.1	21.2	57.6	16.7	24.2	7.6	66
	2. 富良野市	25.0	25.0	12.5	0.0	62.5	12.5	50.0	0.0	8
	3. 中富良野町	100	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100	1
	4. 美瑛町	0.0	0.0	0.0	0.0	100	0.0	0.0	0.0	1
	5. 旭川市	0.0	100	0.0	0.0	100	100	100	0.0	1
	6. 無 職	20.0	22.9	5.7	20.0	28.6	31.4	14.3	20.0	35
	7. その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100	0.0	1
	上富良野町以外 (2~5 と 7)	25.0	16.7	8.3	0.0	58.3	16.7	50.0	8.3	12
所 属 自 治 会	1. 南 町	15.4	0.0	7.7	0.0	46.2	15.4	23.1	23.1	13
	2. 緑 町	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0	50.0	25.0	4
	3. 丘 町	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4. 住 吉	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	66.7	33.3	0.0	3
	5. 東 明	20.0	0.0	0.0	20.0	60.0	0.0	20.0	0.0	5
	6. 泉 町	8.3	33.3	0.0	0.0	58.3	33.3	8.3	25.0	12
	7. 中 町	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	8. 栄 町	0.0	0.0	0.0	0.0	100	0.0	0.0	0.0	1
	9. 旭 町	25.0	58.3	8.3	16.7	25.0	25.0	25.0	8.3	12
	10. 宮 町	27.3	36.4	9.1	18.2	36.4	18.2	18.2	9.1	11
	11. 本 町	14.3	0.0	0.0	28.6	71.4	42.9	14.3	0.0	7
	12. 大 町	9.1	36.4	9.1	36.4	45.5	9.1	27.3	0.0	11
	13. 西 富	16.7	16.7	16.7	33.3	33.3	33.3	33.3	33.6	6
	14. 静 修	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	15. 江 幌	—	—	—	—	—	—	—	—	—

16. 江 花	—	—	—	—	—	—	—	—	—
17. 島 津	0.0	0.0	0.0	100	100	0.0	0.0	0.0	1
18. 日の出	33.3	33.3	66.7	0.0	33.3	33.3	33.3	33.3	3
19. 清 富	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20. 日 新	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21. 旭 野	—	—	—	—	—	—	—	—	—
22. 富 原	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	33.3	3
23. 東 中	33.3	66.7	0.0	66.7	66.7	0.0	66.7	0.0	3
24. 草 分	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	3
25. 里 仁	—	—	—	—	—	—	—	—	—
26. その他	25.0	12.5	12.5	0.0	37.5	0.0	25.0	37.5	8
市街地 (1~13)	15.3	23.5	5.9	16.5	48.2	23.5	22.4	11.8	85
郊外 (14~25)	30.8	30.8	23.1	23.1	46.2	15.4	30.8	7.7	13

※実数とは有効回答数である。

※実数グレーは、有効回答数が一桁であるため、参考程度と考えるべきである。

※表頭：Aは「情報が届かない」、Bは「参加してみたい活動がない」、Cは「参加する方法がわからない」、

Dは「参加する仲間がない」、Eは「忙しくて時間がとれない」、Fは「負担になる」、Gは「興味が無い」、

Hは「その他」

※「上富良野出身度」の「○」は上富良野出身者、「×」は上富良野外出身者である。

2-5. 住民会・町内会活動及び上富良野町のまちづくり活動に対する評価

所属住民会・町内会活動の盛ん度意識について図 2-16 に示す。

「大変盛んである」が 3.8%、「盛んである」が 38.2%、「あまり盛んではない」が 47.6%、「盛んではない」が 10.4%と、「盛んでない（あまり盛んで無ない+盛んでない）」と感じている町民のほうが多い。

そこで、参加度別住民会・町内会活動の盛ん度意識をみると、「参加している」では「大変盛んである」「盛んである」と感じている町民は 36.2%、「以前は参加していた」では 36.2%、「参加したことがない」では 32.6%と、「参加している」または「参加していた」人ほど「盛んである」と感じている。しかし、「参加している」でも約半数（51.3%）が「あまり盛んではない」「盛んではない」と感じている。これは参加していても行事や活動にあまり実感を得ていない、活動の内容が足りない、参加者が足りない、など不満を示していると考えられ、行事や活動の内容等の見直しも必要であると考えられる。

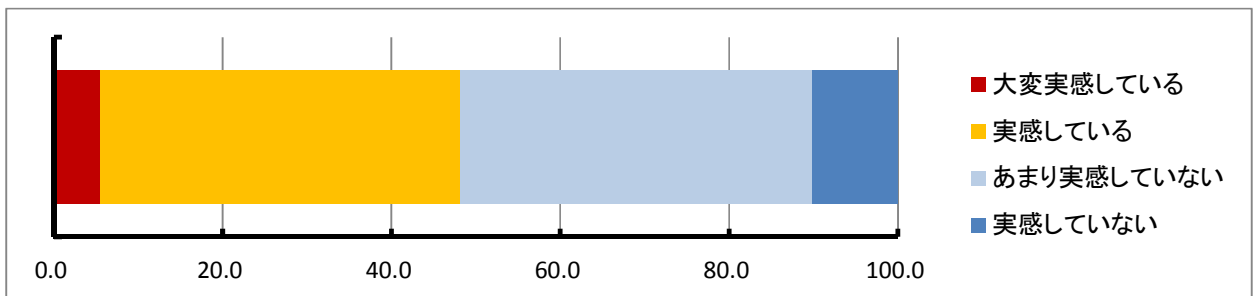


図 2-16 町内会・居住民会活動の盛ん度意識

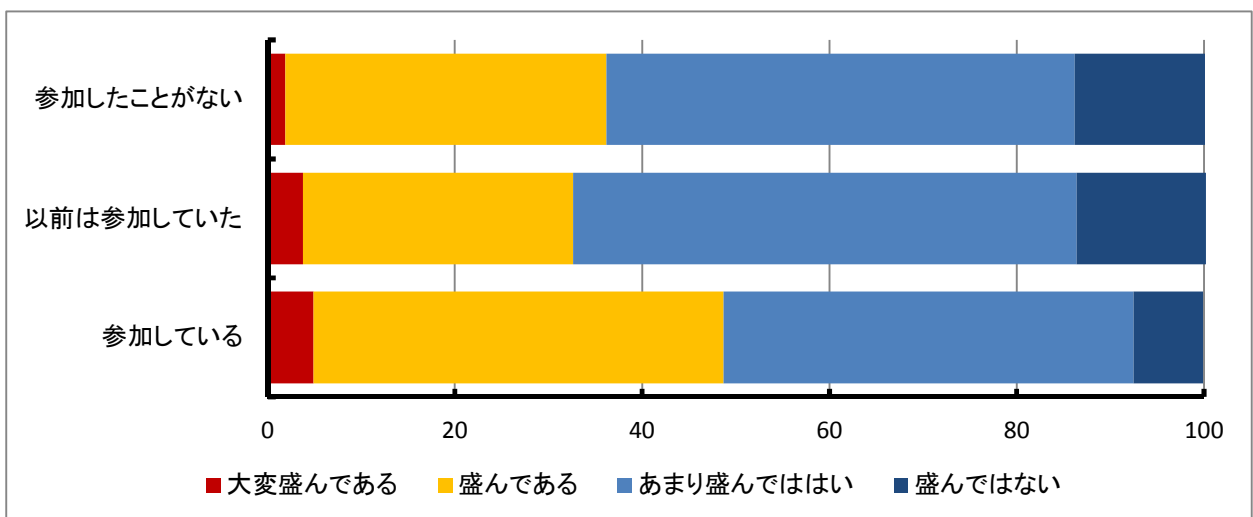


図 2-17 住民会・町内会参加度別居住町内会活動の盛ん度意識

次に、上富良野町のまちづくり活動に対する評価について図 2-18 に示す。

「活発ですばらしい活動である」が 38.7%と評価している人は 4 割弱である。一方、「もっと広報し、参加を募るべき」との活動活性化評価も 35.0%と高く、現状維持のみならずさらに地域をよくしたいと思っている町民も多い。また、「やりかたを検討し町民みんなが取り組むべきである」も 25.0%である。

そこで、参加度別上富良野町のまちづくり活動評価をみると、「地域のコミュニティ活動が活発で素晴らしい取り組みである」では、「参加している」が 35.8%で、「参加していない」が 44.0%と、「参加していない」ほうが高い。また、「やり方を検討し、町民みんなが取り組むべきである」は、「参加している」が 37.7%、「参加していない」が 23.3%であり、上富良野町のまちづくりの方法の見直す必要性もあるといえる。

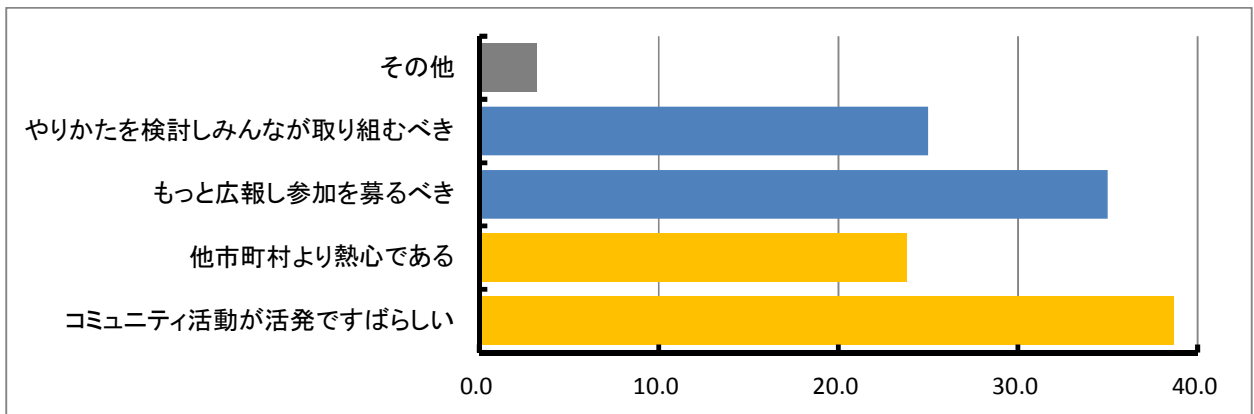


図 2-18 上富良野町のまちづくり活動の評価

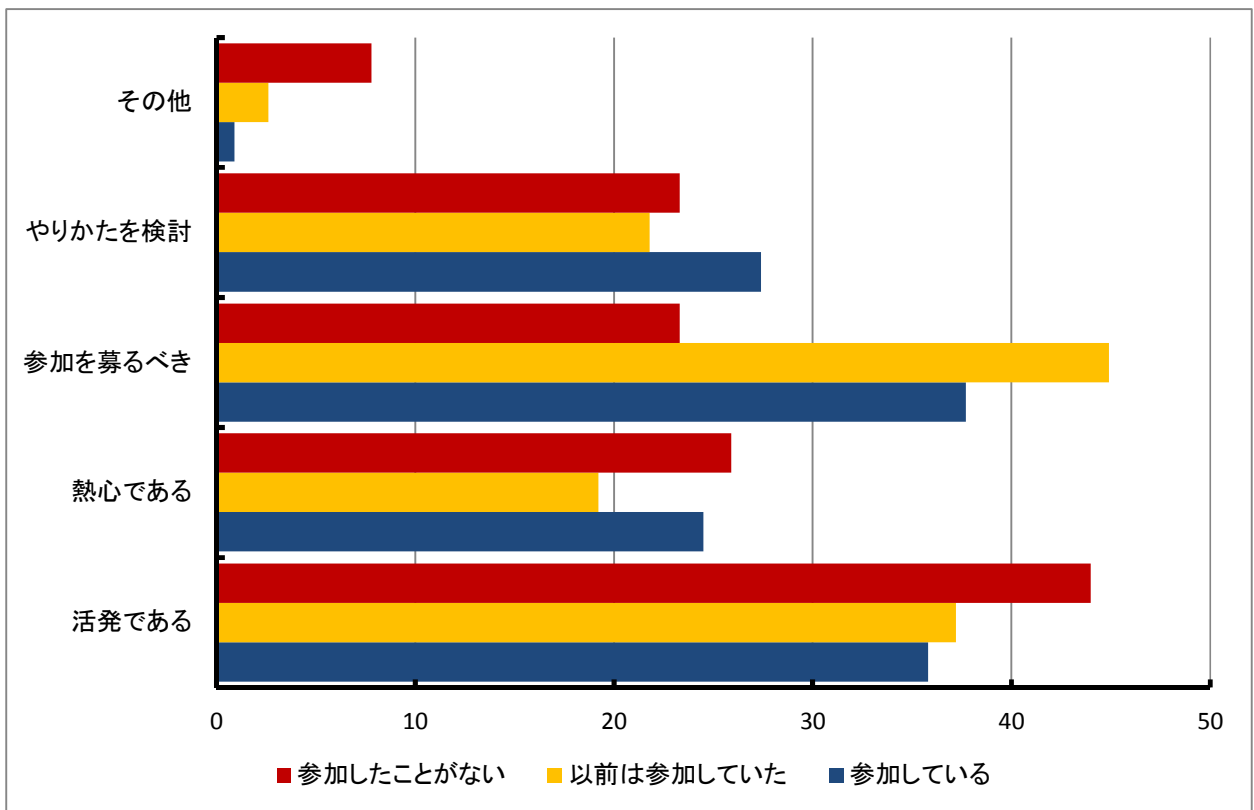


図 2-19 参加度別上富良野町のまちづくり活動評価

まちづくり活動に必要なコトについて図 2-20 に示す。

「町民のまちづくり意識の向上」が 66.7%と最も高く、ついで「役場職員のまちづくり意識の向上」が 44.9%、「まちづくりに要する費用の助成」が 36.3%、「活動するための場所・空間の提供」が 31.4%であり、「資金」や「空間・場所」ではなく「人」が重要・必要であると考えている町民が多い。さらに、「意識向上（人）」が必要と感じている町民が多いが、役場職員よりも自分達や住民の意識向上と考えている町民が多く、まちづくりに最も必要なコトを町民も感じていることがわかる。

しかし、参加度別まちづくりに必要なコトをみると（図 2-21）、「町民のまちづくり意識の向上」「まちづくり経験者の助言」では、「参加している」は 73.7%・26.3%、「以前は参加していた」は 67.5%・25.0%、「参加したことがない」は 53.1%・20.4%であり、「参加している」が高い。また、「役場職員のまちづくり意識向上」「まちづくりに要する経費の助成」では 47.4%・35.8%、50.0%・42.5%、36.3%・27.4%、と「以前は参加したことがある」が高く、「活動するための場所・空間の提供」では 25.4%、30.0%、43.4%と「参加していない」ほど高い。このように、「参加していない」町民は自分たち関わらない事柄で高い一方、「参加している」町民は自分たち関わる事柄が高く、自己成長も含め、高次元での活動を望んでいることがわかる。

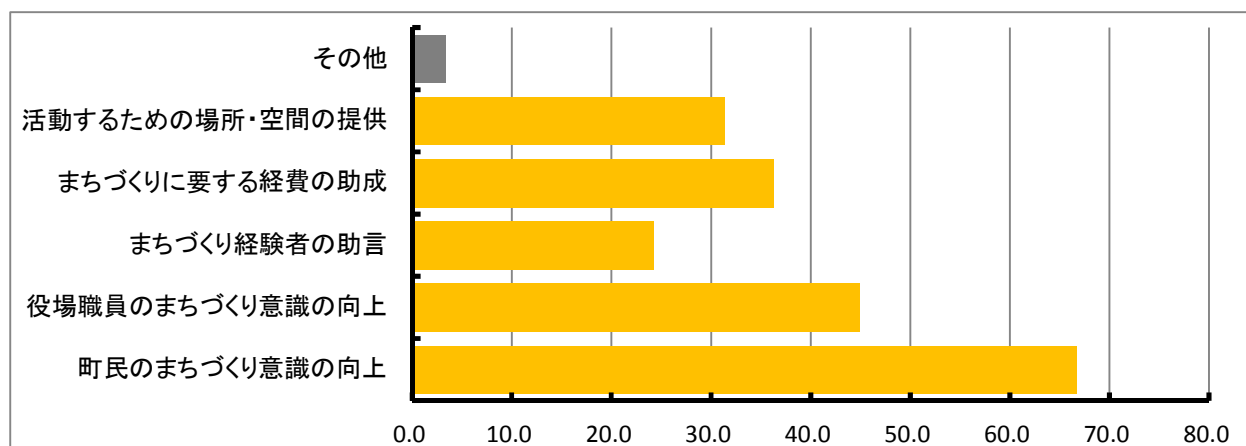


図 2-20 まちづくり活動に必要なコト

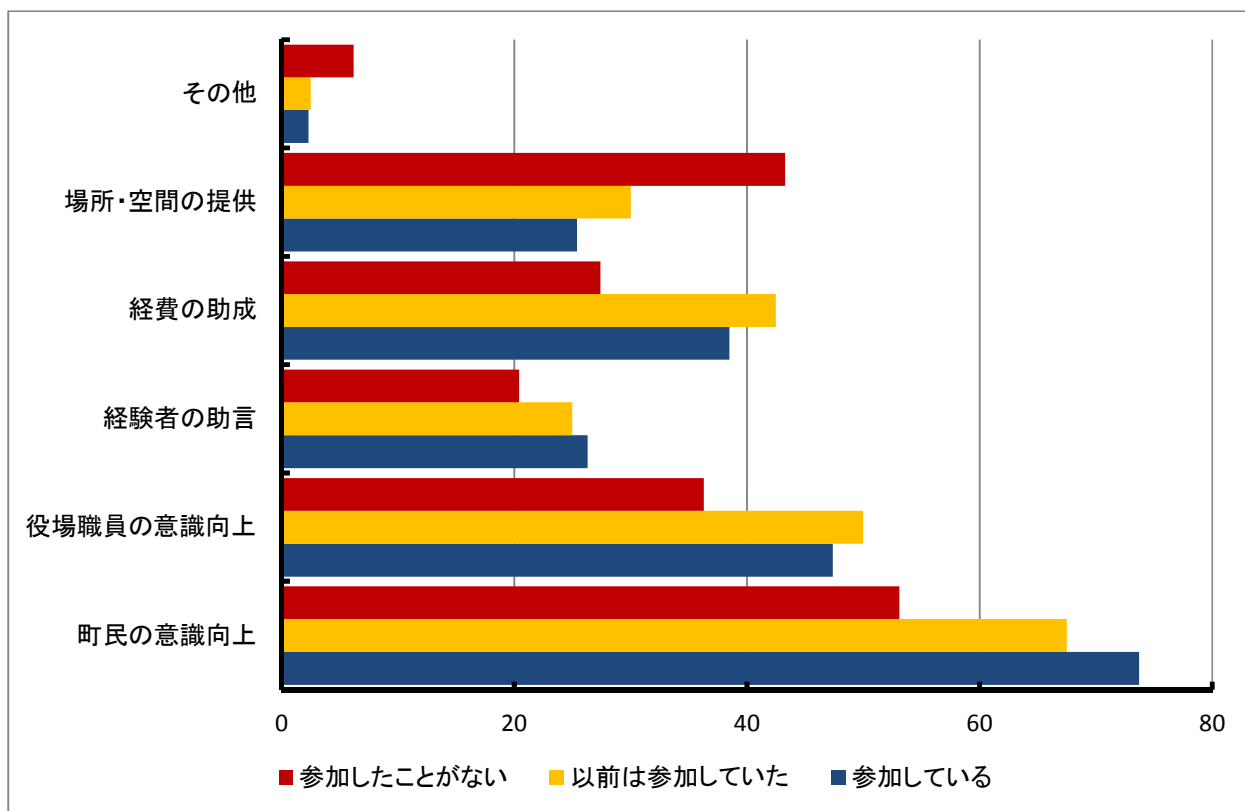


図2-21 参加度別まちづくり活動に必要なコト

協働的まちづくりに向けての方法を図 2-22 に示す。

「町は町民の意見を聞く機会をつくり町主導で進める」が 27.7%、「町は町民の協力を得て町主導で進める」が 20.3%、「町民と町が役割を分担し協働して進める」が 42.8%、「町民やボランティアが主体となり町は支援（情報提供など）して進める」が 7.9%であり、「町民と町が協働」という考え方が約半数で最も高く、「協働的」意識を考えていることがわかる。しかし、「町主導」という保守的な考え方を有している町民も少なくない。この町民たちを「協働」という考え方へ移行させることが、今後、協働的まちづくりを進めていくためには必要なことであると考えられる。

参加度別協働的まちづくりの考え方をみると（図 2-23）、「参加している」では「町民の意見を聞く機会を多く設け町主導で進める」が 25.2%、「町民やボランティアなどの協力を得て町主導で進める」が 21.4%、「町民やボランティアなどと町がそれぞれ役割を分担しお互い協力し合って進める」が 45.2%、「町民やボランティアなどが主体的にまちづくり活動等を行い町は情報提供を行うなどの支援」が 7.1%と、「町主導」と「住民またはボランティア主導」が約半数程度である。また、参加度別でも 10%程度の相違で、大きな相違はない。

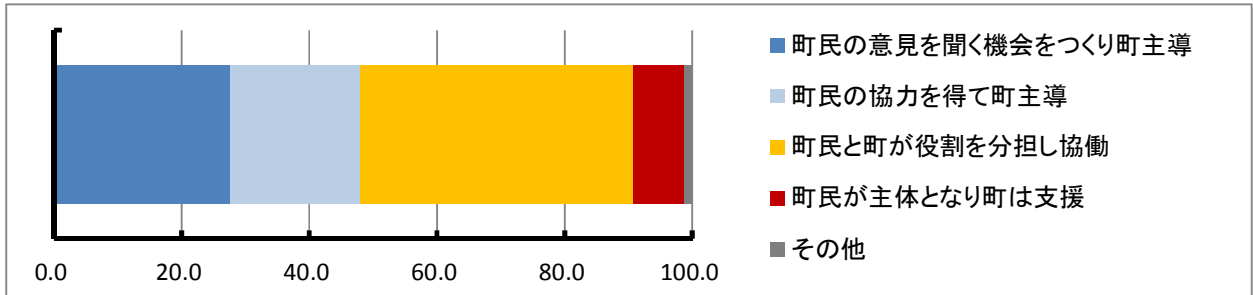


図 2-22 協働的まちづくりに向けての方法

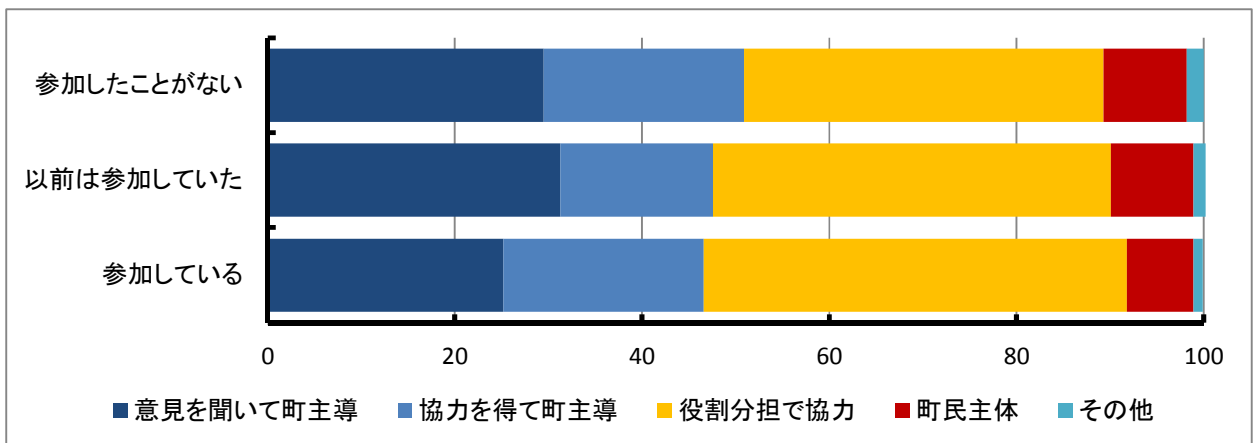


図 2-23 参加度別協働的まちづくりの方法

3. 上富良野町自治基本条例の評価 と方向性

3-1. 本章の目的

「上富良野町自治基本条例」は平成21年に制定され、今年で5年目をむかえ見直しの時期である。そこで、本章では「上富良野町自治基本条例」の認知度や見直し方法等について分析する。

「上富良野町自治基本条例」は、町民が主体となったまちづくりを進めるにあたっての基本的なルールを定めたものであり、上富良野町の最高規範として制定されている。

条例では、第1章の「目的と理念」から始まり、第11章の「条例の位置づけ」で制定されている。「制度の原則」のなかには、「信頼される町政の推進」と「コミュニティ」「地域防災」「町民投票制度」「交流と連携」があり、町は町民に対して適切な情報を提供すること、町民は自主的・自律的なコミュニティを促進すること、さらに、町民同士の交流を深め様々な問題等に解決すること、など町民と行政の連携でまちづくりを促進することが記載されている。

図3-1に「上富良野町自治基本条例」の概要を示す。

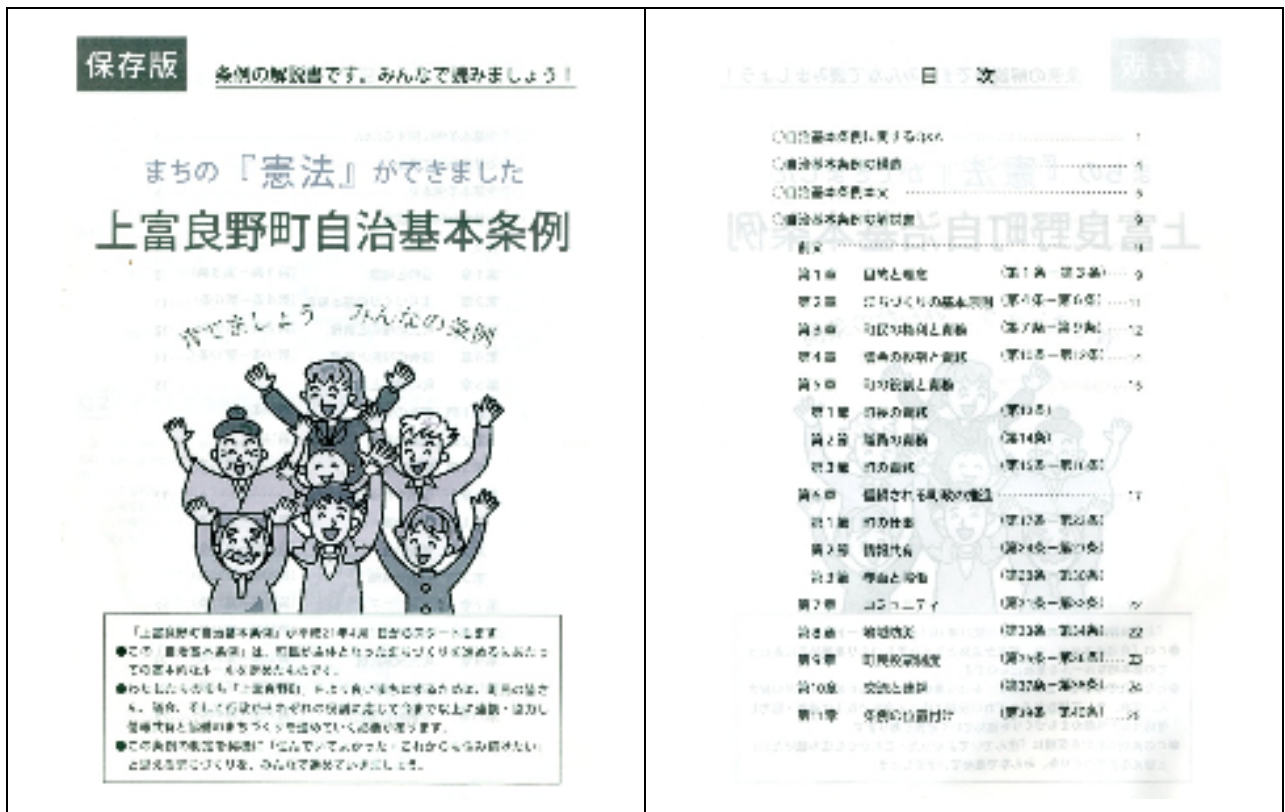


図3-1 上富良野町自治基本条例（保存版）概要（1）

上富良野町自治基本条例の概要

Q1 自治基本条例って何ですか

自治基本条例とは、自治体の行政のありかたや、住民の権利・義務のありかた、自治体の組織のありかたなどを定める条例です。自治基本条例は、自治体の行政のありかたや、住民の権利・義務のありかた、自治体の組織のありかたなどを定める条例です。自治基本条例は、自治体の行政のありかたや、住民の権利・義務のありかた、自治体の組織のありかたなどを定める条例です。

Q2 どうして自治基本条例が必要なのですか

自治基本条例は、自治体の行政のありかたや、住民の権利・義務のありかた、自治体の組織のありかたなどを定める条例です。自治基本条例は、自治体の行政のありかたや、住民の権利・義務のありかた、自治体の組織のありかたなどを定める条例です。

自治基本条例	地方自治法	地方自治法施行令
自治基本条例	地方自治法	地方自治法施行令
自治基本条例	地方自治法	地方自治法施行令

自治基本条例は、自治体の行政のありかたや、住民の権利・義務のありかた、自治体の組織のありかたなどを定める条例です。

上富良野町自治基本条例の概要

Q3 条例ができると何がかわるの

自治基本条例は、自治体の行政のありかたや、住民の権利・義務のありかた、自治体の組織のありかたなどを定める条例です。自治基本条例は、自治体の行政のありかたや、住民の権利・義務のありかた、自治体の組織のありかたなどを定める条例です。

Q4 条例にはどのようなことが書かれているの

自治基本条例は、自治体の行政のありかたや、住民の権利・義務のありかた、自治体の組織のありかたなどを定める条例です。自治基本条例は、自治体の行政のありかたや、住民の権利・義務のありかた、自治体の組織のありかたなどを定める条例です。

自治基本条例	地方自治法	地方自治法施行令
自治基本条例	地方自治法	地方自治法施行令
自治基本条例	地方自治法	地方自治法施行令

自治基本条例は、自治体の行政のありかたや、住民の権利・義務のありかた、自治体の組織のありかたなどを定める条例です。

上富良野町自治基本条例の概要

サインポイントアドバイス

サインポイントとは、道路の交差点や分岐点などに設置される標識のことです。サインポイントの設置は、交通安全の確保に大きく貢献します。サインポイントの設置は、交通安全の確保に大きく貢献します。

サインポイントの設置は、交通安全の確保に大きく貢献します。

上富良野町自治基本条例の概要

上富良野町自治基本条例の概要

自治基本条例は、自治体の行政のありかたや、住民の権利・義務のありかた、自治体の組織のありかたなどを定める条例です。自治基本条例は、自治体の行政のありかたや、住民の権利・義務のありかた、自治体の組織のありかたなどを定める条例です。

自治基本条例は、自治体の行政のありかたや、住民の権利・義務のありかた、自治体の組織のありかたなどを定める条例です。

図3-1 上富良野町自治基本条例（保存版）概要（2）

3-2. 「上富良野町自治基本条例」の認知度と改正

「上富良野町自治基本条例」の認知度を図 3-1 に示す。

「知っている」が 24.5%、「知らない」が 75.5%で、知らない人が多く、改正より「上富良野町自治基本条例」の情報の提供方法を再検討し、認知してもらうことが必要であると考えられる

そこで、「上富良野町自治基本条例」の非認知の状況について把握する。年齢構成別、性別別、上富良野出身別、居住年数別、職業別、家族構成別、労働場所別、所属住民会別、居住の満足度別、持続的居留意識別、住民会・町内会参加別について表 3-1 に示す。

年齢別をみると、20 歳代が 91.7%、30 歳代が 93.2%、40 歳代が 83.1%、50 歳代が 71.6%、60 歳代が 61.2%、70 歳以上が 59.2%と、若年層ほど認知していないことがわかる。年齢と相関関係にある居住年数をみると、とくに居住年数「20～29 年」が 92.3%と高く、この年数は特異な傾向であるといえる。

居住の満足度別をみると、「満足である」が 66.8%に対し、「満足していない」が 94.7%、また、定住度の「住み続けたい」が 72.8%に対し、「住み続けたくない」が 90.3%であり、居住の満足度や定住度と大きな関係があることが示され、とくに「満足している」町民や今後も「住み続けたい」町民はまちのコトに興味があるといえる。

「住民会・町内会活動」参加別をみると、「参加している」が 66.5%に対し、「参加していない」が 89.0%で、参加度とも関係性を有している。これらは、満足が今後の居留意識に影響を与え、まちづくり活動に参加することにより、まちに興味を抱き、まちをよくするために様々な情報も意識しながら住んでいる、ということと考えられる。

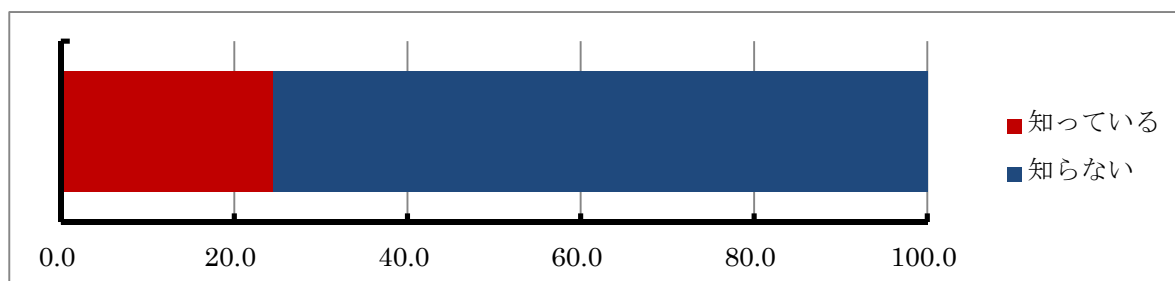


図 3-1 上富良野町自治基本条例の認知度

表 3-1 年齢別・性別・上富良野町出身別・居住年数別・職業別・家族構成別・労働場所別・所属住民会別・満足度別・定住度別の上富良野町住民自治基本条例の未認知度

		非認知				非認知				非認知	
		比率	実数			比率	実数			比率	実数
年 齢	20 歳代	91.7	36	家 族 構 成	単 独	77.1	48	所 属 住 民 会	1. 南 町	83.9	31
	30 歳代	93.2	73		夫 婦 の み	69.5	141		2. 緑 町	83.3	12
	40 歳代	83.1	71		夫 婦 + 子	80.3	122		3. 丘 町	60.0	10
	50 歳代	71.6	81		親 と 同 居	73.6	53		4. 住 吉	93.8	16
	60 歳代	61.2	98		三 世 代 以 上	74.1	27		5. 東 明	67.6	34
	70 歳以上	59.2	49		そ の 他	—	—		6. 泉 町	75.9	29
性 別	男 性	70.3	172	労 働 場 所	上富良野町	77.3	233		7. 中 町	90.9	11
	女 性	80.7	197		富良野市	85.2	27		8. 栄 町	75.0	8
上富良野出身	○	74.6	177		中富良野町	100	8		9. 旭 町	72.2	36
	×	76.0	233		美瑛町	83.3	6		10. 宮 町	77.8	27
居 住 年 数	1 年以下	100	16		旭川市	71.4	7		11. 本 町	72.5	40
	2～3 年	86.7	30		無 職	67.0	97		12. 大 町	68.0	25
	4～9 年	84.8	33	そ の 他	62.5	8	13. 西 富		63.6	22	
	10～19 年	79.1	43	満 足 度	○	66.8	70	14. 静 修	100	1	
	20～29 年	92.3	52		×	94.7	57	15. 江 幌	100	1	
	30 年以上	66.9	236	定 住 度	定	72.8	290	16. 江 花	33.3	3	
職 業	農林業	68.9	45		否	90.3	62	17. 島 津	75.0	4	
	製造業	85.7	14	参 加 度	○	66.5	215	18. 日 の 出	69.2	13	
	建設業	76.5	17		△	80.8	78	19. 清 富	100	2	
	商 業	84.2	19		×	89.0	118	20. 日 新	—	—	
	運輸・通信業	83.3	6	※実数とは有効回答数である。 ※実数グレーは、有効回答数が一桁であるため、参考程度と考えるべきである。 ※「上富良野出身度」の「○」は上富良野出身者、「×」は上富良野外出身者である。 ※「満足度」の「○」は満足している、「×」は満足していない、である。 ※「定住度」は上富良野町の住み続けたい度合いであり、「定」は住み続けたい、「否」は住み続けたくない、である。 ※「参加度」は住民会活動の参加度合いであり、「○」は参加している、「△」は以前参加していた、「×」参加していない、である。			21. 旭 野	100	3		
	金融・保険業	100	2				22. 富 原	80.0	10		
	医療・福祉業	75.0	20				23. 東 中	76.2	21		
	教育業	75.0	4				24. 草 分	66.7	15		
	自衛隊	90.0	40				25. 里 仁	50.0	4		
	公務員	65.4	26				26. その他	100	11		
	団 体	87.5	8				市街地	74.8	301		
	学 生	100	1				郊 外	72.7	77		
	そ の 他	72.7	194				市街地 (1～13)、郊外 (14～25)				

次に、1/4の人が「知っている（認知）」であったが、「上富良野町自治基本条例」の認知方法や改正の有無意識について分析する。

まず、「知っている町民（認知者）」の情報源をみると、「広報かみふらの」が89.1%と最も高く、「ホームページ」や「回覧板」は2割程度と少ない。また、上富良野町の情報を受け取る場合の希望情報源（非認知者を含む）をみると、「広報かみふらの」が81.9%で認知方法と同様に高い。よって、「広報誌」は情報提供の重要な媒体であることがわかる。一方、近年の情報提供媒体である「ホームページ」は16.7%、「フェイスブックなど」は8.8%と低く、これまで通りを希望しており、新しいことをなかなか受け入れられないまたは受け入れられないことがわかる。これらの情報媒体から情報を提供するのであれば、環境整備や活用方法の指導が必要であると考えられる。

「上富良野町自治基本条例」の見直し（改正）の必要性についてみると、「必要である」が39.4%、「必要でない」が8.1%で、見直すべきという意見が多い。これらの人は、上富良野町や住民会・町内会のまちづくり活動に積極的に参加し、上富良野町の将来について考えているものと思われる。しかし、「どちらともいえない」「わからない」が52.5%と約半数であり、「上富良野町自治基本条例」を知っているが内容を理解していない人が多いと考えられ、まずは認知及び理解させる工夫の必要であると思われる。

年齢別の見直しの必要性をみると、若年層では「必要である」が25.0%、「どちらともいえない」が50.0%、「必要はない」が0.0%、「わからない」が25.0%、40歳代では33.3%、25.0%、8.3%、33.3%、50歳代では36.4%、27.3%、13.6%、22.7%、60歳代では43.2%、40.5%、10.8%、5.4%、70歳代以上では45.0%、50.0%、0.0%、5.0%と、高齢層ほど「必要である」が高い。若年層は「どちらともいえない」が最も高いが、これは認知していても内容まで理解していないためと考えられる。一方、「わからない」をみると40歳代が高く、若年層ほど低下する。高齢層はある程度まちのことも理解し、今後の方向性もある程度どのようにすると良いかを意識しているためと考えられる。年齢別と相関関係にある居住年数をみると、10年以下では22.2%、44.5%、0.0%、33.3%、10～19年では44.4%、33.3%、11.1%、11.1%、20～29年では25.0%、0.0%、0.0%、50.0%、30年以上では42.1%、39.5%、7.9%、10.5%と、居住年数が多いほど「必要である」が高くなる傾向ではない。とくに、20～29年をみると「必要である」が25.0%に対し「必要がない」25.0%と「わからない」が50.0%と高い。

また、住民会・町内会活動の参加度別をみると、「参加している」で「必要」が45.7%、「必要はない」が10.0%、「参加していない」で「必要」が15.4%、「必要はない」が38.5%と、参加している町民は見直しを訴えている。

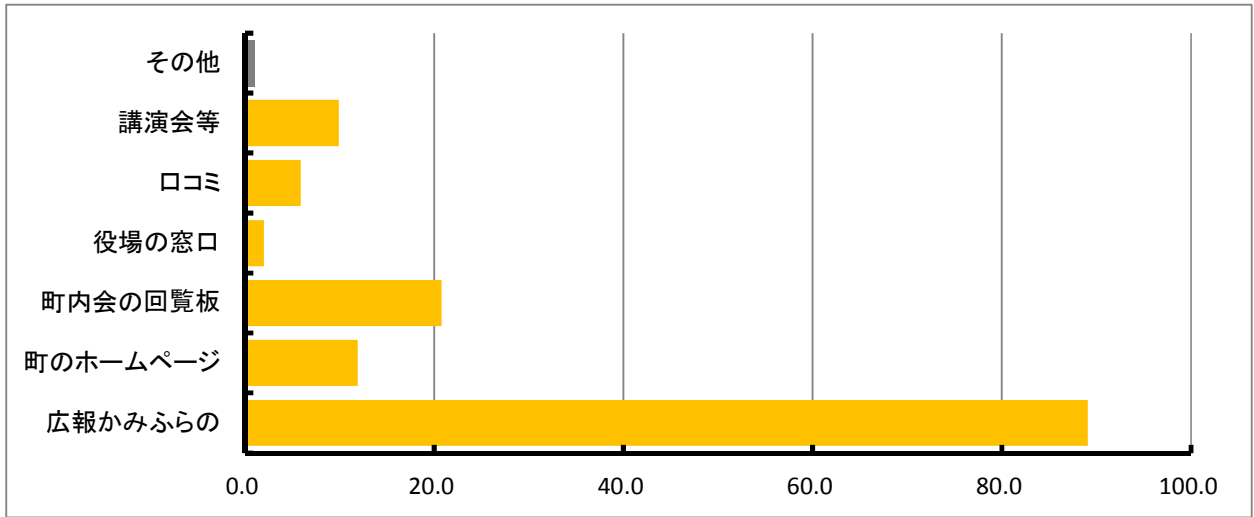


図3-2 上富良野町自治基本条例の情報源

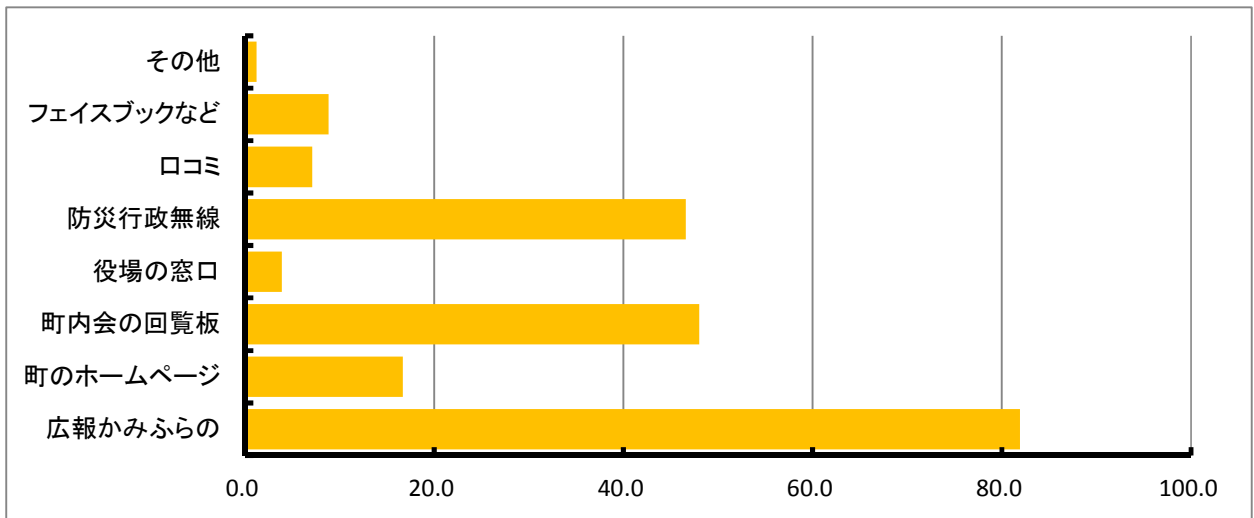


図3-3 希望の情報源

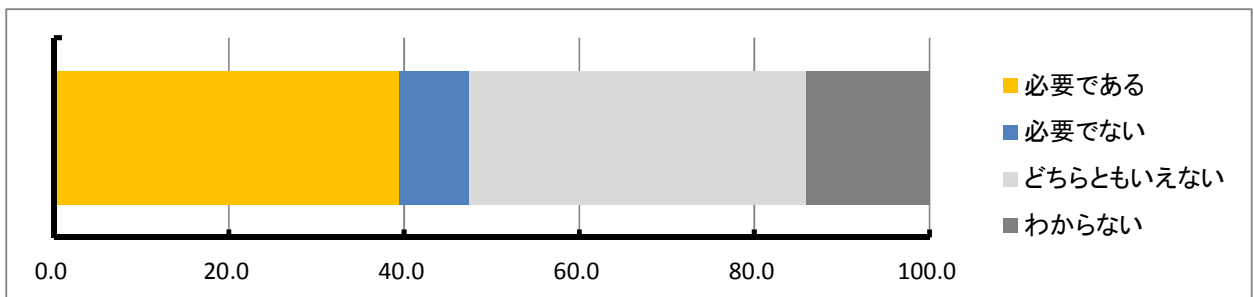


図3-4 上富良野町自治基本条例の見直しの有無

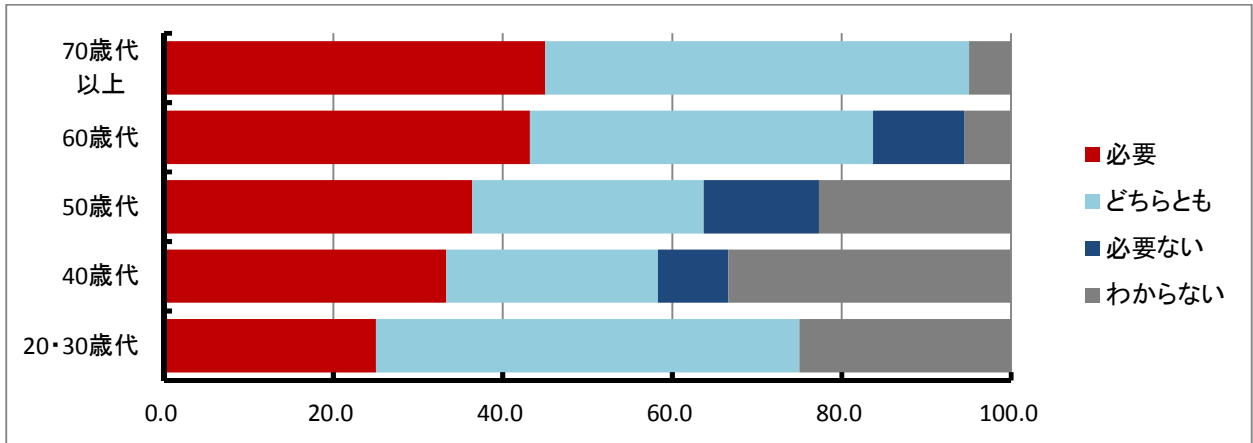


図3-5 年齢別上富良野町自治基本条例の見直の有無

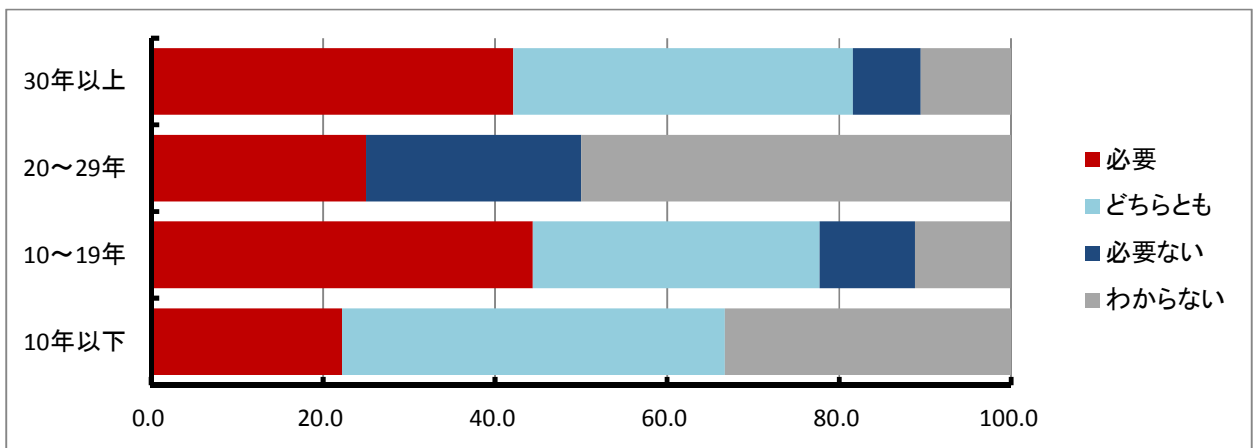


図3-6 居住年数別上富良野町自治基本条例の見直の有無

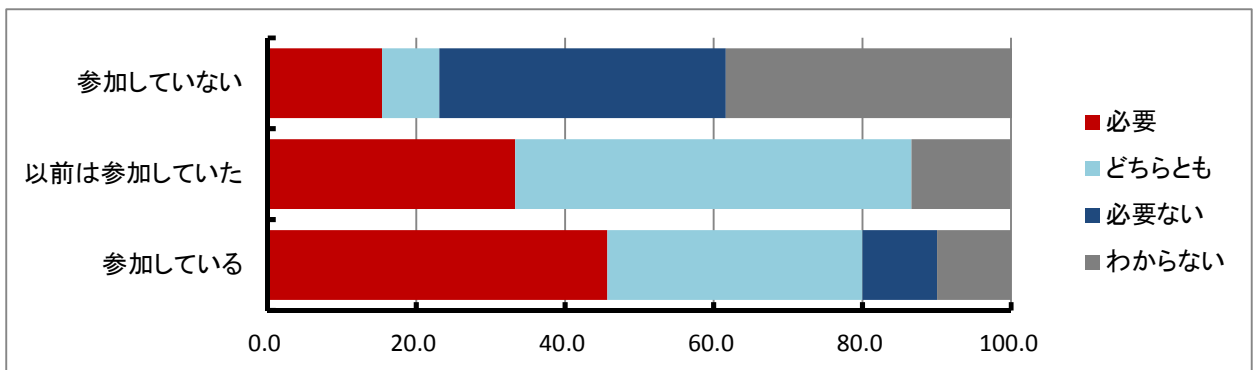


図3-7 住民会・町内会活動参加度別上富良野町自治基本条例の見直の有無

さらに、見直しが「必要である」と考えている町民における見直し内容を図3-8に示す。

「町民のまちづくり参加に関すること」が68.4%、「町民相互の連携に関すること」が39.5%、「子どもの健全育成に関すること」が26.3%と、「町民のまちづくり参加に関すること」が最も高い。

また、町民の意見の反映度(図3-9)をみると、「十分反映されている」が7.4%、「反映されている」が70.4%、「反映されていない」が24.5%、「全く反映されていない」が1.0%であり、多くのことが町民の意見で成立していることがわかり、上富良野町役場の努力がうかがわれる。先の、見直し内容を含め、上富良野町は「まちづくり」とりわけ「町民自治」を積極的に促すことの必要性があるといえる。

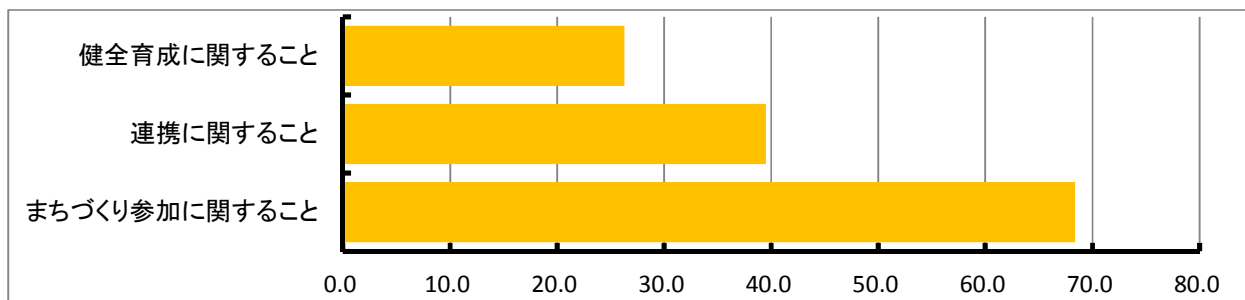


図3-8 上富良野町自治基本条例の見直しの内容

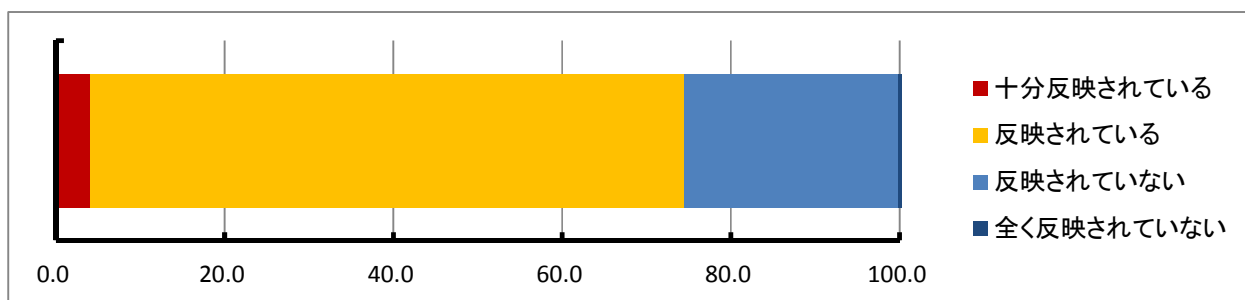


図3-9 上富良野町自治基本条例の意見の反映度

3-3. 上富良野町の仕事内容の認知度

上富良野町も他市町村同様、町の仕事は「広報誌」等にて町民に情報提供している。そこで、町の仕事内容の認知度を図 3-10 に示す。

「知っている」が 23.0%、「少し知っている」が 51.6%、「あまり知らない」が 17.9%、「知らない」が 7.5%と、多数の町民が上富良野町の仕事内容を知っていることがわかる。「知っている」が多いにもかかわらず「知らない」も 2 割強も存在している。その「知らない」「あまり知らない」の知らない理由をみると、広報誌で「仕事内容まで読まない」が 54.4%と多い。上富良野町町民の一般的な情報源は「広報かみふらの」であることから、広報誌での掲載のしかたを検討する必要があると考えられる。また、「町の仕事に興味が無い」も 36.9%と高い。

上富良野町の予算・決算及び総合計画の内容の認知度を図 3-11 に示す。「知っている」が 10.0%、「少し知っている」が 48.3%、「あまり知らない」が 27.3%、「知らない」が 14.4%と、仕事内容の認知度より 2 割程低くなっている。つまり、細かい内容までは知らない・理解できていないことがわかる。

上富良野町の仕事内容の認知度について年齢別でみると、「あまり知らない」「知らない」で 20 歳代は 48.6%、30 歳代は 41.7%、40 歳代は 23.6%、50 歳代は 22.8%、60 歳代は 12.1%、70 歳代以上は 16.3%と高齢層ほど低下する傾向にある。とりわけ、若年層と中年層および高齢層の境で低下している。また、居住年数をみると、「1 年以下」が 46.7%、「2～3 年」が 51.7%、「4～9 年」が 39.4%、「10～19 年」が 27.2%、「20～29 年」が 23.0%、「30 年以上」が 19.4%と、居住年数が長いほど認知している傾向がみられる。

上富良野町における予算・決算の認知度について年齢別でみると、「あまり知らない」「知らない」で 20 歳代は 75.0%、30 歳代は 60.8%、40 歳代は 47.1%、50 歳代は 30.4%、60 歳代は 28.8%、70 歳代以上は 23.9%で、仕事内容の認知度と同様、高齢層ほど低下する傾向にある。また、居住年数をみると、「1 年以下」が 73.3%、「2～3 年」が 65.5%、「4～9 年」が 57.6%、「10～19 年」が 50.0%、「20～29 年」が 45.1%、「30 年以上」が 32.8%と、これも年齢別と同様、居住年数が長いほど認知している傾向がみられる。

仕事内容の認知度と予算・決算の認知度を比較すると、予算・決算の認知度のほうが全ての年齢層及び居住年数においても、「あまり知らない」「知らない」が高く、2 割ほどの相違がある。

さらに、上富良野町の仕事内容の認知について、「町内会の行事参加度」をみると、「参加している」では 15.8%、「以前は参加していた」が 34.2%、「参加していない」が 36.7%、予算・決算の認知については 28.5%、47.4%、62.1%と、両者とも「参加している」ほうが認知度は高い。様々な行事に参加する意欲のある町民は、上富良野町自体にも興味をもち、向上させようとする意識があるものと考えられる。

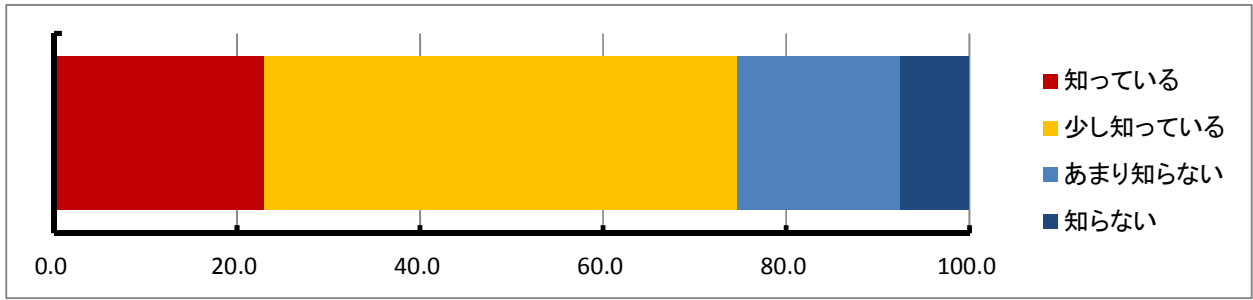


図3-10 上富良野町の仕事内容の認知度

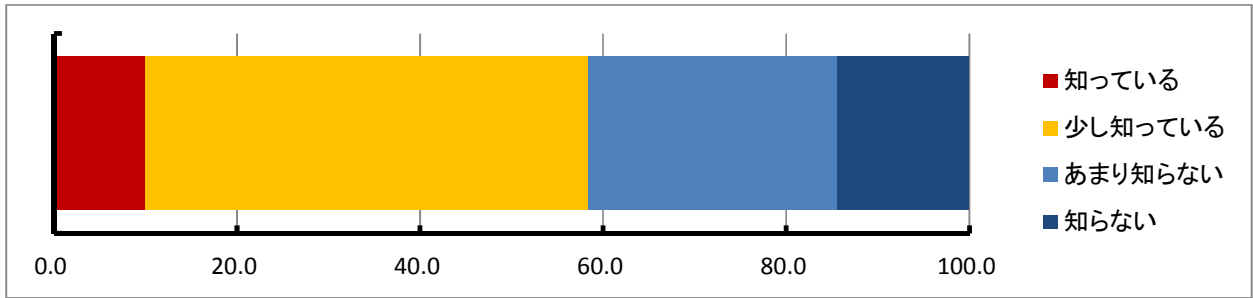


図3-11 上富良野町の予算・決算等の認知度

表3-2 年齢別・性別・上富良野町出身別・居住年数別・職業別・家族構成別・労働場所別・所属住民会別・満足度別・定住度別の上富良野町の仕事等の認知度(1)

		町の仕事の認知度					予算・決算の認知度				
		A	B	C	D	実数	A	B	C	D	実数
年齢	20歳代	8.1	43.2	24.3	24.3	37	2.8	22.2	30.6	44.4	36
	30歳代	11.1	47.2	29.2	12.5	72	8.1	31.1	33.8	27.0	74
	40歳代	12.5	63.9	13.9	9.7	72	5.7	47.1	31.4	15.7	70
	50歳代	31.6	45.6	19.0	3.8	79	13.9	55.7	21.5	8.9	11
	60歳代	34.3	53.5	11.1	1.0	99	12.9	58.4	24.8	4.0	101
	70歳以上	32.7	51.0	16.3	0.0	49	13.0	63.0	23.9	0.0	46
性別	男性	29.2	48.0	15.2	7.6	171	13.5	48.2	24.7	13.5	170
	女性	20.8	49.7	22.3	7.1	197	8.2	47.4	30.1	14.3	196
上富良野出身	○	26.8	51.4	15.6	6.1	179	11.9	50.3	26.0	11.9	177
	×	19.9	51.5	19.9	8.7	231	8.3	46.5	28.7	16.5	230
居住年数	1年以下	0.0	53.3	0.0	46.7	15	0.0	26.7	20.0	53.3	15
	2~3年	13.8	34.5	24.1	27.6	29	10.3	24.1	24.1	41.4	29
	4~9年	3.0	57.6	33.3	6.1	33	0.0	42.4	39.4	18.2	33
	10~19年	18.2	54.5	22.7	4.5	44	9.1	40.9	34.1	15.9	44
	20~29年	23.1	53.8	19.2	3.8	52	3.9	51.0	33.3	11.8	51
	30年以上	28.7	51.9	15.2	4.2	237	13.2	24.0	24.3	8.5	235
職業	農林業	21.7	58.7	17.4	2.2	46	6.7	55.6	26.7	11.1	45
	製造業	28.6	50.0	14.3	7.1	14	6.7	53.3	20.0	20.0	15
	建設業	35.3	47.1	17.6	0.0	17	5.9	64.7	17.6	11.8	17
	商業	36.8	47.4	15.8	0.0	19	21.1	47.4	26.3	5.3	19
	運輸・通信業	16.7	66.7	16.7	0.0	6	16.7	33.3	33.3	16.7	6
	金融・保険業	0.0	50.0	50.0	0.0	2	0.0	50.0	50.0	0.0	2
	医療・福祉業	33.3	38.1	14.3	14.3	21	4.8	52.4	28.6	14.3	21
	教育業	33.3	66.7	0.0	0.0	3	33.3	33.3	33.3	0.0	3
	自衛隊	15.0	50.0	20.0	15.0	40	10.3	30.8	33.3	25.6	39
	公務員	23.1	53.8	7.7	15.4	26	11.5	53.8	19.2	15.4	26
	団体	25.0	62.5	12.5	0.0	8	12.5	75.0	12.5	0.0	8
	学生	0.0	50.0	50.0	0.0	2	0.0	50.0	0.0	50.0	2
その他	21.9	50.5	20.3	7.3	192	9.9	45.0	30.4	14.7	191	

表3-2 年齢別・性別・上富良野町出身別・居住年数別・職業別・家族構成別・労働場所別・所属住民会別・満足度別・定住度別の上富良野町の仕事等の認知度(2)

		町の仕事の認知度						予算・決算の認知度				
		A	B	C	D	実数		A	B	C	D	実数
家族構成	単 独	17.0	46.8	14.9	21.3	47		8.5	36.2	25.5	29.8	47
	夫婦のみ	30.7	48.6	13.6	7.1	140		13.8	52.9	22.5	10.9	138
	夫婦+子	19.1	55.4	22.3	5.8	121		9.0	46.7	32.8	11.5	122
	親と同居	24.1	51.9	20.4	3.7	54		11.3	43.4	26.4	18.9	53
	三世代以上	22.2	66.7	11.1	0.0	27		3.7	66.7	25.9	3.7	27
	その他	0.0	100	0.0	0.0	1		0.0	0.0	100	0.0	1
労働場所	上富良野町	23.6	51.9	17.2	7.3	233		9.0	49.8	27.5	13.7	233
	富良野市	10.7	50.0	28.6	10.7	28		3.6	39.3	35.7	21.4	28
	中富良野町	37.5	62.5	0.0	0.0	8		0.0	62.5	37.5	0.0	8
	美瑛町	16.7	66.7	0.0	16.7	6		0.0	42.9	28.6	28.6	7
	旭川市	28.6	71.4	0.0	0.0	7		28.6	57.1	0.0	14.3	7
	無 職	22.9	50.0	19.8	7.3	96		14.0	47.3	23.7	14.1	93
	その他	37.5	37.5	12.5	12.5	8		12.5	37.5	37.5	12.5	8
住民会	市街地	23.3	52.3	18.0	6.3	300		9.7	49.3	28.7	12.3	300
	郊 外	28.2	52.6	15.4	3.8	78		13.0	51.9	24.7	10.4	77
	その他	0.0	27.3	27.3	45.5	11		0.0	9.1	27.3	63.6	11
参加度	している	31.2	53.0	13.0	2.8	215		10.3	61.2	23.4	5.1	214
	以前	17.7	48.1	30.4	3.8	79		14.4	38.5	34.6	12.8	78
	していない	12.0	51.3	17.9	18.8	117		6.9	31.0	29.3	32.8	116

※実数とは有効回答数である。

※実数グレーは、有効回答数が一桁であるため、参考程度と考えるべきである。

※表頭は、A：知っている、B：少し知っている、C：あまり知らない、D：知らない

※「上富良野出身度」の「○」は上富良野出身者、「×」は上富良野外出身者である。

※「住民会」は所属住民会である。

※「参加度」は住民会活動の参加度合いであり、「している」は参加している、「以前」は以前参加していた、「していない」は参加していない、である。

次に、上富良野町の仕事や計画に対する意見提供意識（意見を出したいか）を図3-12に示す。

「思う」が14.1%、「やや思う」が30.7%、「あまり思わない」が39.0%、「思わない」が16.1%と、半数に分かれる。また、意見を提供したい町民の提供したい時期をみると（図3-13）、「計画や事業を企画・立案するとき」が49.7%、「計画や事業を具体的に実施するとき」が30.4%、「計画や事業の実施後に評価や点検をするとき」が17.1%で「計画や事業を企画・立案するとき」が最も高く、最初に意見したいと思っている町民が多い。このことは、積極的に関わらせ、住民の意見を反映させたまちづくりの展開の可能性を示唆しているといえる。

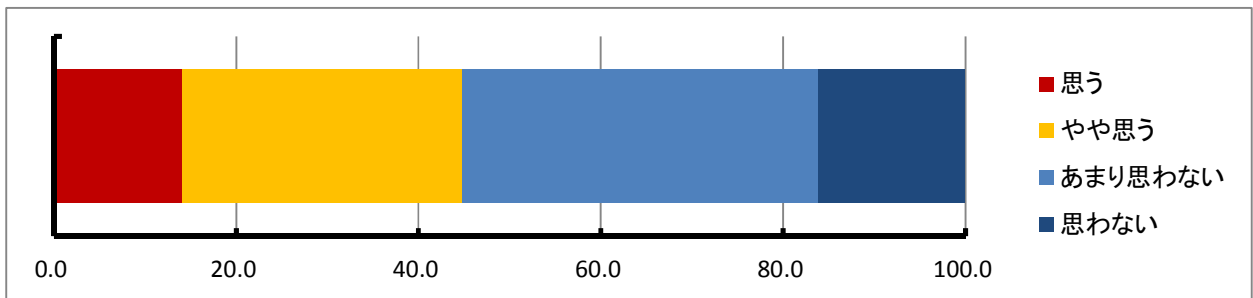


図3-12 意見の提供意識

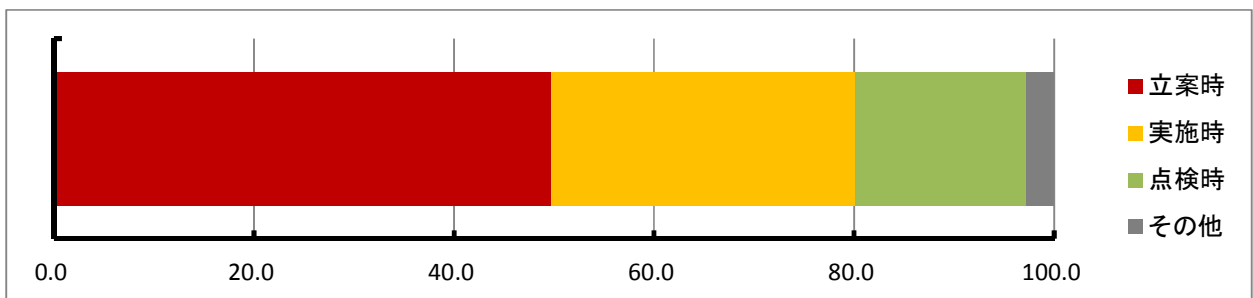


図3-13 意見提供の時期

そこで、意見提供意識と上富良野町の仕事認知度別意見の提供度をみると（図 3-14）、「出したい」「やや出したい」「知っている」では「知っている」が70.0%、「少し知っている」が48.7%、「あまり知らない」では40.2%、「知らない」では23.8%、予算・決算の認知度別意見の提供度をみると（図 3-15）、59.2%、46.9%、33.8%、16.1%であり、両者とも認知しているほど意見を提供したいと思っており、認知度と意見提供度は関係していることがわかる。

また、仕事認知度及び予算・決算認知度別の意見の提供時期をみると（図 3-16）、仕事認知度別では「知っている」で「計画や事業の企画・立案するとき」が52.7%、「計画や事業を具体的に実施するとき」が25.5%、「計画や事業の実施後に評価や点検をするとき」が18.2%、「少し知っている」では43.6%、36.2%、19.1%、「あまり知らない」が60.0%、20.0%、12.0%、「知らない」では80.0%、20.0%、0.0%であり、知っている人ほど評価・点検であり、次へのステップとして時期に希望している。しかし、予算・決算においては（図 3-17）、「知らない」をみると「計画や事業の企画・立案するとき」が64.3%、「計画や事業を具体的に実施するとき」が14.3%、「計画や事業の実施後に評価や点検をするとき」が14.3%であり、仕事内容とは相違があり金銭面になると点検・評価が高くなる。

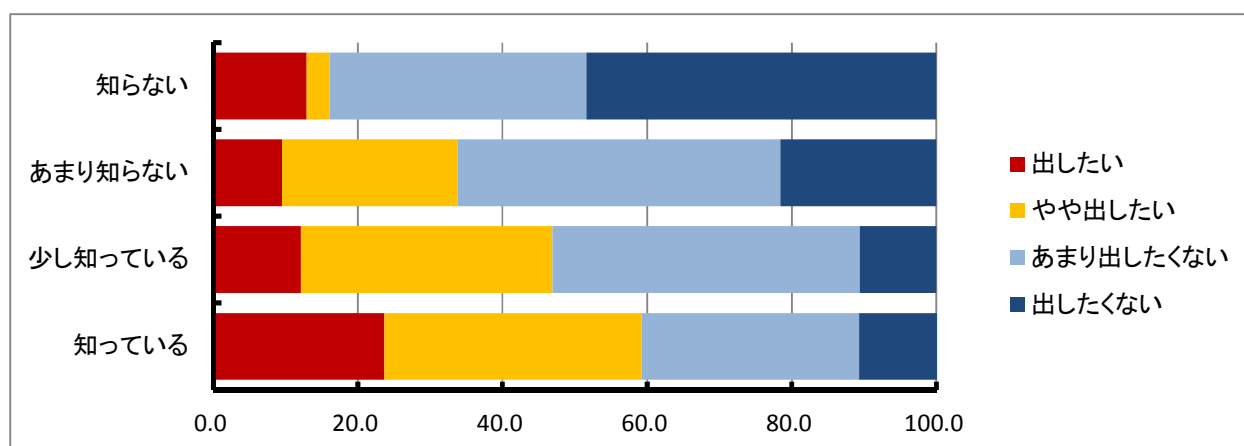


図 3-14 仕事認知度別意見提供度

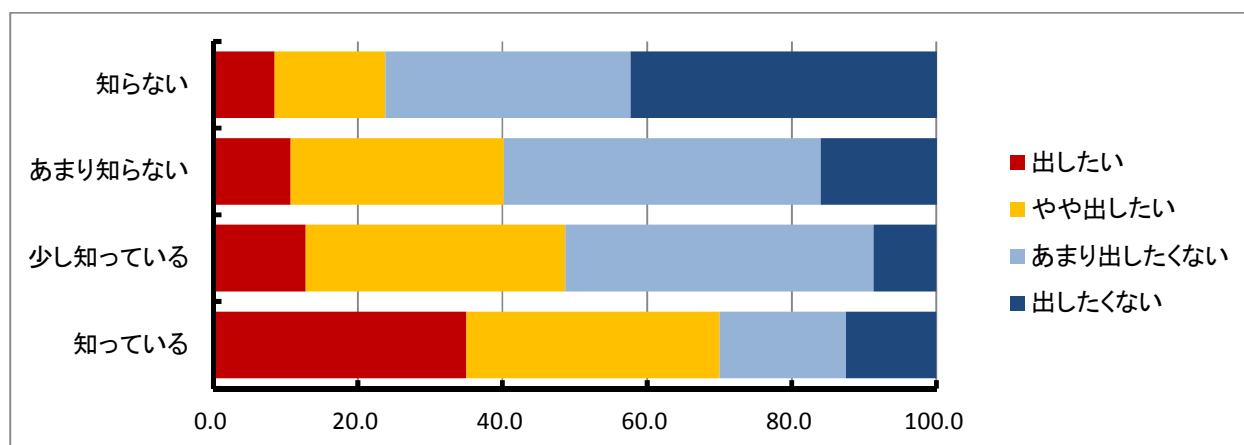


図 3-15 予算・決算の認知度別意見提供度

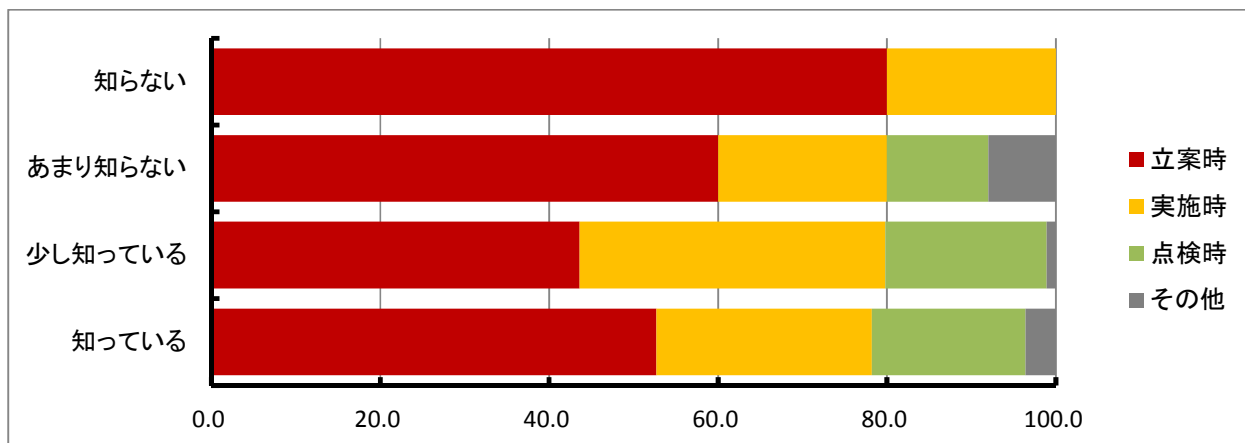


図3-16 仕事認知度別意見提供時期

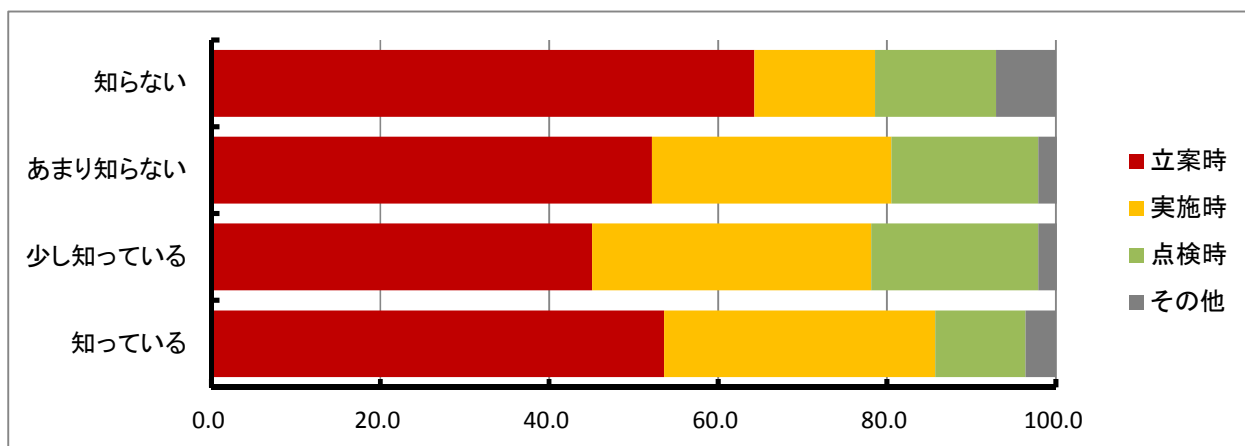


図3-17 予算・決算の認知度別意見提供時期

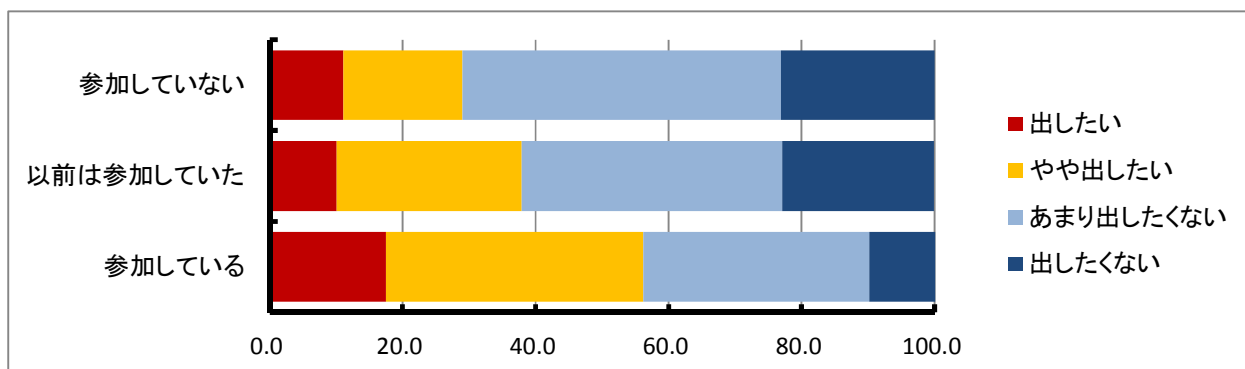


図3-18 参加度別意見提供度

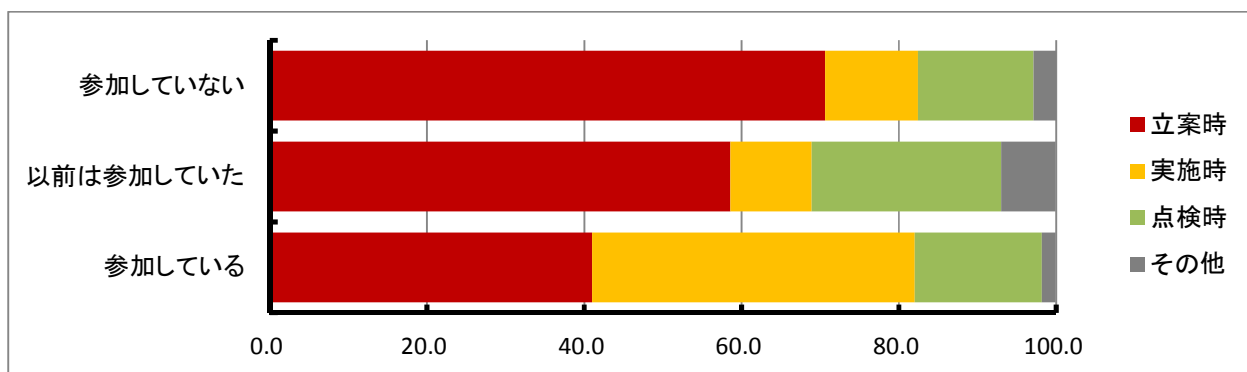


図3-19 参加度別意見提供時期

4. 上富良野町の地域づくりと 今後の重要施策

4-1. 本章の目的

本章は、上富良野町における今後の「地域づくり」において重要項目や、今後5年間の重要施策の評価について分析する。評価の項目として、児童福祉策・高齢者障がい者福祉策・医療充実策・農林業振興策・商工業振興策・観光振興策・学校教育推進策・社会教育推進策としている。

また、前回のアンケート結果も用いて比較分析し、この5年間の評価も分析する。

4-2. 地域づくりの重要ポイント

今後の「地域づくり」において各項目別の重要度合いを図4-1に示す。どの項目も「重要である」「やや重要である」の比率をみると、10%以下でどの内容も「重要である」とは言いがたい。しかし、そのなかで、「国内外との交流が盛んな地域」は13.1%、「伝統のある地域」は9.4%、「文化の薫りがする地域」は9.0%と、この3項目は若干ではあるが「重要である」と位置づけている町民が多い。

一方、「重要ではない」「やや重要ではない」の比率をみると、90%を超えているのが「人にやさしい地域」(91.1%)、「犯罪のない地域」(94.4%)、「福祉の充実した地域」(90.3%)、「働きやすい地域」(92.2%)、80%を超えているのが「経済的に豊かな地域」(88.5%)、「教育環境の充実した地域」(87.7%)、「住民の意見が尊重される地域」(82.6%)、「自然や景観に優れた地域」(87.4%)、「ごみ問題や資源などの環境に配慮した地域」(85.4%)である。このように、上富良野町町民は地域づくりに多くのことを求めているとなく、これまで通りの地域の特徴をについて再検討し、それを地域づくりに役立てることを求めていると考えられる。

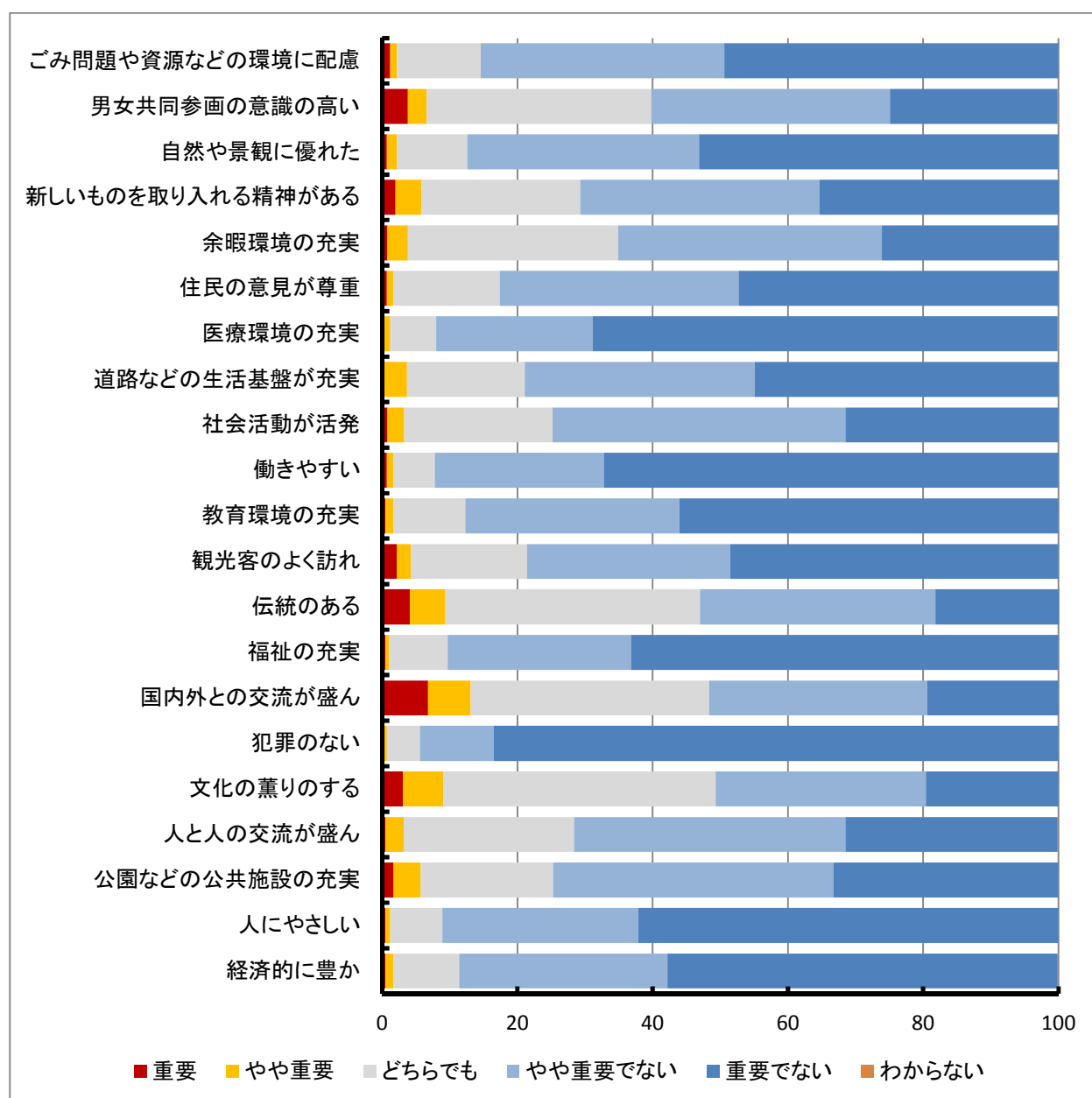


図4-1 今後の地域づくりにおける項目別重要度

今後の地域づくりの評価で、「重要である」を1点、「やや重要である」を2点、「どちらでも」を3点、「やや重要でない」を4点、「重要でない」を5点とし各項目の平均点を算出し、前回調査と比較したものを表4-1に示す。平均点が低いほど「重要である」という意識と捉えられる。

前回調査の平均点をみるとどの項目も「重要である」という傾向がみられないが、そのうち「文化の薫りする地域」(3.66点)、「国内外との交流が盛んな地域」(3.54点)、「伝統のある地域」(3.61点)、「男女共同参画の意識の高い地域」(3.81)が比較的「重要である」と意識している。

今回調査と前回調査を比較すると、「重要でない」が上がった項目は、「人にやさしい地域」(差が0.15)、「公園などの公共施設の充実した地域」(同0.12)、「道路などの生活基盤が充実した地域」(同0.11)である。しかし、どの項目も大きな差はなく、この5年間、上富良野町において大きな変化がないことがうかがわれる。すなわち、この5年間の成果等がみられないとも捉えることができ、何か成果の残る施策・事業・活動が必要であると考えられる。

表4-1 地域づくり評価と5年前との比較

	前回平均点	今回平均点	差
1 経済的に豊かな地域	4.37	4.44	0.07
2 人にやさしい地域	4.36	4.51	0.15
3 公園などの公共施設の充実した地域	3.88	4.00	0.12
4 人と人の交流が盛んな地域	4.02	3.99	-0.03
5 文化の薫りする地域	3.66	3.58	-0.08
6 犯罪のない地域	4.69	4.77	0.08
7 国内外との交流が盛んな地域	3.54	3.51	-0.03
8 福祉の充実した地域	3.51	4.52	0.01
9 伝統のある地域	3.61	3.58	-0.03
10 観光客がよく訪れる地域	4.21	4.21	0.00
11 教育環境の充実した地域	4.44	4.42	-0.02
12 働きやすい地域	4.58	4.57	-0.01
13 社会活動が活発な地域	3.99	4.02	0.03
14 道路などの生活基盤が充実した地域	4.09	4.20	0.11
15 医療環境の充実した地域	4.62	4.59	-0.03
16 住民の意見が尊重される地域	4.44	4.27	-0.17
17 余暇環境の充実した地域	3.89	3.87	-0.02
18 新しいものを取り入れる精神がある地域	3.87	3.98	0.01
19 自然や景観に優れた地域	4.39	4.38	-0.01
20 男女共同参画の意識の高い地域	3.81	3.74	-0.07
21 ごみ問題や資源などの環境に配慮した地域	4.39	4.31	-0.08

4-3. 今後5年間の重要施策の評価

直近5年間の行政の施策について重要度を図4-2に示す。最も重要と感じているのは「保健・医療・福祉の充実（高齢者、障がい者、児童など）」で70.2%、ついで「産業の振興（農林業・商工業・観光の振興、企業誘致、企業化など）」で54.6%、「生活環境の充実（上下水道、ゴミ処理、住宅、公園、防災など）」で41.7%と、生活に関わる項目が高くなっている。

そこで、年齢別、性別別、上富良野出身別、居住年数別、職業別、家族構成別、労働場所別、所属住民会別、居住の満足度別、持続的居留意識別、町内会・住民会参加別を表4-2に示す。

年齢別で高い項目をみると、20歳代は「環境・景観の保全・整備」が52.8%、30歳代は「保健・医療・福祉の充実」が77.8%及び「教育・文化環境の整備」が52.8%、40歳代は「教育・文化環境の整備」が42.3%、50歳代は「産業の振興」が69.6%、60歳代は「産業の振興」が68.0%及び「保健・医療・福祉の充実」が74.0%、70歳以上は「保健・医療・福祉の充実」が78.7%と、若年層は子ども対応、中年層は産業振興、高齢層は福祉環境というように、年齢層によってそれ相応の項目が高い。

性別で差がみられるのは、「地域基盤の整備」で男性が33.7%に対し女性が23.6%、「保健・医療・福祉」の充実が男性が62.1%に対し女性が76.9%である。

居住年数別で高い項目をみると、1年以下以外は「保健・医療・福祉の充実」が最も高い。1年以下の居住者はまだ居住期間が短いため上富良野町の医療等を把握できていないためと、生活してみて身近な生活環境とりわけ商業等の環境の整備が必要と感じていると考えられる。「保健・医療・福祉の充実」以外でそれぞれ高い項目をみると、2～3年は「自然環境・景観の保全・整備」が51.7%、4～9年は「自然環境・景観の保全・整備」が51.5%及び「産業の振興」が51.5%、「教育・文化環境の整備」が51.5%と、求めている項目が多い。10～19年及び20～29年、30年以上では「産業の振興」が53.5%、51.0%、58.7%と、長居住者は就労を求めている。

労働場所別において「保健・医療・福祉の充実」以外で高い項目をみると、中富良野町では「生活環境の整備」が62.5%及び「産業の振興」が75.0%、旭川市では「産業の振興」が83.3%であり、これらの場所で働いている方は上富良野町にての就労場所を求めており、就労場所があると上富良野町にて働き、上富良野町がさらなる飛躍になると考えられる。一方、美瑛町をみると「教育・文化環境の整備」が71.4%であり、美瑛町よりそれらが弱いことを示していると考えられる。

所属住民会別をみると、「自然環境・景観の保全・整備」では「市街地」が34.6%に対し「郊外」が43.4%であり、上富良野町の特色である「郊外」の環境のさらなる整備の必要性訴えている。さらに「産業の振興」でも市街地が52.5%に対し「郊外」が63.2%と、「郊外」が高く農業振興を求めている。一方、「生活環境の整備」では「市街地」が44.2%に対し「郊外」が31.6%、「市街地」での商店やスーパーなどの生活の環境を整えることが必要である。

居住の満足度別では、「自然環境・景観の保全・整備」で満足が41.2%に対し不満足で23.6%、「産業の振興」で満足が55.9%に対し不満足で43.6%と満足している町民が改善を望んでいる。「自然環境・景観の保全・整備」はさらなる上富良野町の魅力としての希望、「産業の振興」は上富良野町の弱さによる希望と考えられ、この二者と、「保健・医療・福祉の充実」を今後5年間の重点項目とすることが必要であるといえる。

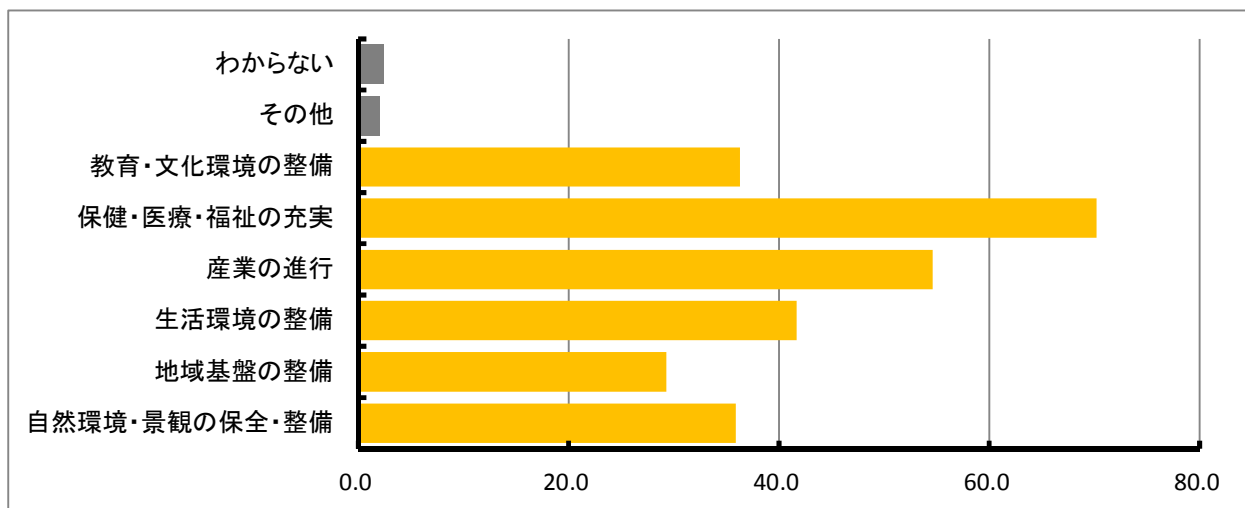


図 4-2 今後5年間の重点内容

表 4-2 年齢別・性別・上富良野町出身別・居住年数別・職業別・家族構成別・労働場所別・所属住民会別・満足度別・定住度別の上富良野町の今後5年間の重点項目 (1)

		今後5年間の重点項目 (比率)								実数
		A	B	C	D	E	F	G	H	
年 齢	20歳代	52.8	30.6	47.2	44.4	55.6	30.6	0.0	2.8	36
	30歳代	30.6	26.4	37.5	41.7	77.8	42.8	1.4	2.8	72
	40歳代	35.2	29.6	43.7	47.9	64.8	42.3	1.4	2.8	71
	50歳代	38.0	31.6	41.8	69.6	64.6	29.1	2.5	1.3	79
	60歳代	30.0	30.0	42.0	68.0	74.0	28.0	3.0	3.0	100
	70歳以上	42.6	27.7	44.7	40.4	78.7	34.0	2.1	0.0	47
性 別	男性	35.5	33.7	39.1	58.6	62.1	35.5	1.8	1.8	169
	女性	35.9	23.6	46.2	51.8	76.9	37.9	2.6	2.6	195
上富良野 出身	○	37.9	25.4	41.8	59.3	71.8	31.1	2.8	3.4	177
	×	34.8	32.2	41.7	50.9	68.7	40.4	1.3	1.7	230
居 住 年 数	1年以下	31.3	37.5	50.0	50.0	37.5	31.3	0.0	6.3	16
	2~3年	51.7	27.6	31.0	34.5	62.1	44.8	0.0	10.3	29
	4~9年	51.5	27.3	36.4	51.5	66.7	51.5	0.0	0.0	33
	10~19年	30.2	37.2	34.9	53.5	67.4	48.8	4.7	0.0	43
	20~29年	33.3	15.7	49.0	51.0	72.5	39.2	2.0	0.0	51
	30年以上	34.0	31.1	42.6	58.7	73.6	30.6	2.1	2.6	235
職 業	農林業	44.4	26.7	40.0	75.6	66.7	28.9	2.2	2.2	45
	製造業	50.0	21.4	21.4	78.6	71.4	50.0	0.0	0.0	14
	建設業	20.0	40.0	46.7	53.3	53.3	33.3	0.0	6.7	15
	商業	36.8	21.1	57.9	52.6	63.2	36.8	0.0	0.0	19
	運輸・通信業	33.3	33.3	16.7	100	66.7	33.3	0.0	0.0	6
	金融・保険業	0.0	0.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	2
	医療・福祉業	40.0	25.0	40.0	40.0	90.0	40.0	0.0	5.0	20
	教育業	75.0	25.0	0.0	50.0	75.0	75.0	0.0	0.0	4
	自衛隊	42.5	35.0	42.5	42.5	55.0	30.0	0.0	2.5	40
	公務員	30.8	46.2	30.8	53.8	69.2	34.6	7.7	0.0	26
	団体	37.5	12.5	62.5	62.5	87.5	25.0	0.0	0.0	8
	学生	50.0	50.0	0.0	100	0.0	50.0	0.0	0.0	2
その他	32.8	27.6	44.8	50.0	75.5	38.5	2.6	2.6	192	

※表頭：Aは「環境保全・整備」、Bは「基盤整備」、Cは「生活環境の整備」、Dは「産業振興」、Eは「医療福祉の充実」、Fは「教育環境整備」、Gは「その他」、Hは「わからない」

※実数とは有効回答数である。

※実数グレーは、有効回答数が一桁であるため、参考程度と考えるべきである。

※「上富良野出身度」の「○」は上富良野出身者、「×」は上富良野外出身者である。

表 4-2 年齢別・性別・上富良野町出身別・居住年数別・職業別・家族構成別・労働場所別・所属住民会別・満足度別・定住度別の上富良野町の今後5年間の重点項目 (2)

		今後5年間の重点項目 (比率)								実数
		A	B	C	D	E	F	G	H	
家族構成	単 独	46.8	31.9	36.2	55.3	61.7	25.5	2.1	4.3	47
	夫婦のみ	31.7	34.5	44.6	57.6	71.9	28.8	1.4	2.2	139
	夫婦+子	35.2	21.3	38.5	45.9	73.8	48.4	2.5	2.5	122
	親と同居	41.5	26.4	47.2	66.0	73.6	32.1	0.0	0.0	53
	三世代以上	30.8	34.6	34.6	65.4	53.8	46.2	3.8	3.8	26
	その他	0.0	0.0	100	100	100	0.0	0.0	0.0	1
労働場所	1. 上富良野町	39.7	30.8	38.0	57.7	65.8	34.6	2.1	2.1	234
	2. 富良野市	38.5	15.4	42.3	53.8	73.1	42.3	0.0	3.8	26
	3. 中富良野町	37.5	25.0	62.5	75.0	62.5	37.5	0.0	0.0	8
	4. 美瑛町	42.9	42.9	28.6	28.6	85.7	71.4	0.0	0.0	7
	5. 旭川市	0.0	33.3	50.0	83.3	50.0	66.7	0.0	0.0	6
	6. 無 職	27.1	31.3	49.0	50.0	81.3	35.4	2.1	2.1	96
	7. その他	42.9	14.3	42.9	42.9	71.4	28.6	0.0	0.0	7
	上富良野町以外 (2~5と7)	35.2	22.2	44.4	61.1	70.4	46.3	0.0	1.9	54
住民会	市街地	34.6	30.2	44.2	52.5	69.8	35.5	2.0	2.7	301
	郊 外	43.4	26.3	31.6	63.2	73.7	36.8	2.6	1.3	76
	その他	40.0	20.0	50.0	50.0	60.0	40.0	0.0	0.0	10
満足度	満 足	41.2	28.9	43.1	55.9	69.7	36.5	1.4	0.9	211
	どちらでも	31.4	27.1	39.3	57.9	68.6	33.6	3.6	5.0	140
	不 満	23.6	36.4	45.5	43.6	74.5	41.8	0.0	1.8	55
定住度	定 住	38.4	28.7	43.3	54.0	69.6	36.7	1.4	2.1	289
	非定住	28.3	33.3	33.3	51.7	70.0	36.7	1.7	6.7	60
	その他	25.6	30.2	46.5	60.5	67.4	32.6	7.0	0.0	43
参加度	参 加	35.3	30.2	41.4	59.1	70.7	37.2	1.4	1.4	215
	以前	32.9	34.2	36.7	55.7	73.4	35.4	2.5	3.8	79
	不参加	38.6	24.6	46.5	45.6	66.7	35.1	2.6	3.5	114

※「住民会」は所属住民会である。

※「満足度」の「○」は満足している、「×」は満足していない、である。

※「定住度」は上富良野町の住み続けたい度合いであり、「定」は住み続けたい、「否」は住み続けたくない、である。

※「参加度」は住民会活動の参加度合いであり、「○」は参加している、「△」は以前参加していた、「×」参加していない、である。

そこで、最も重要と感じている「保健・医療・福祉の充実（高齢者、障がい者、児童など）」の内容について、「児童福祉策」、「高齢者・障がい者福祉策」、「医療充実策」のそれぞれ具体的な今後の方向性の内容について図4-3、図4-4、図4-5に示す。

「児童福祉策」をみると、「育児支援や育児負担の軽減など、子育て支援サービス体制の整備」が57.3%と最も高く、育児の子育て負担が多くその軽減を最も多く望んでいる。

「高齢者・障がい者福祉策」では、「高齢者などの介護サービス、在宅福祉サービスの充実」が65.1%と他の内容に比べ2倍以上であり、サービス体制の強化を望んでいる。

「医療充実策」では、「良質の医療を提供し安定した病院経営」が63.5%と最も高く、高度の医療は他で求め、一般的な診療所等を多く設置して欲しいことを求めていると考えられる。また、「夜間や休日など時間外診療の充実」が41.1%、「老人保健施設など福祉機能を兼ね備えた病院運営」が40.1%と、ここでも多くの受診希望や保健と病院の連携を望んでいることがわかる。

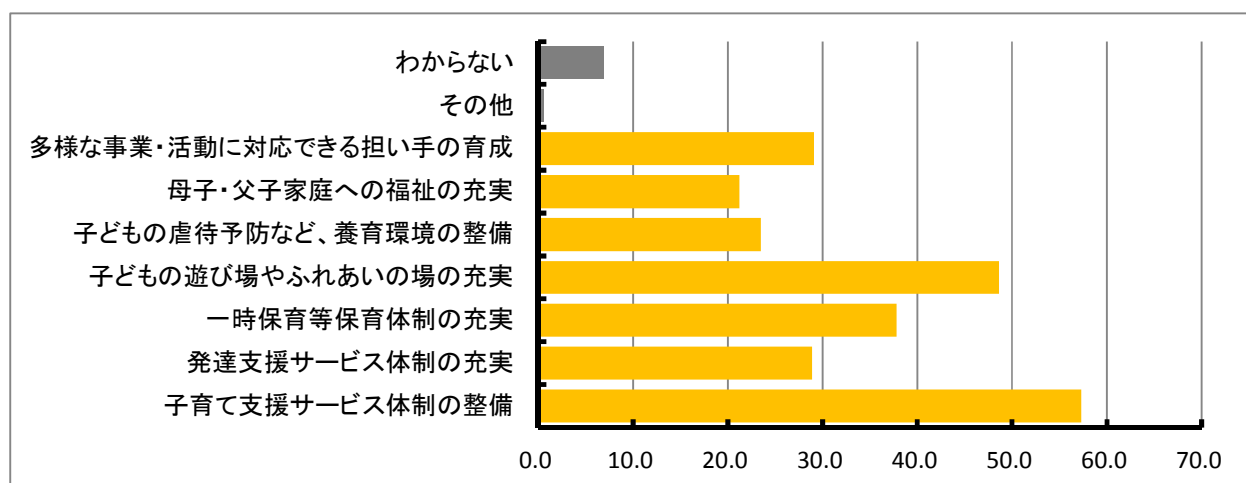


図4-3 児童福祉策の今後の重点内容

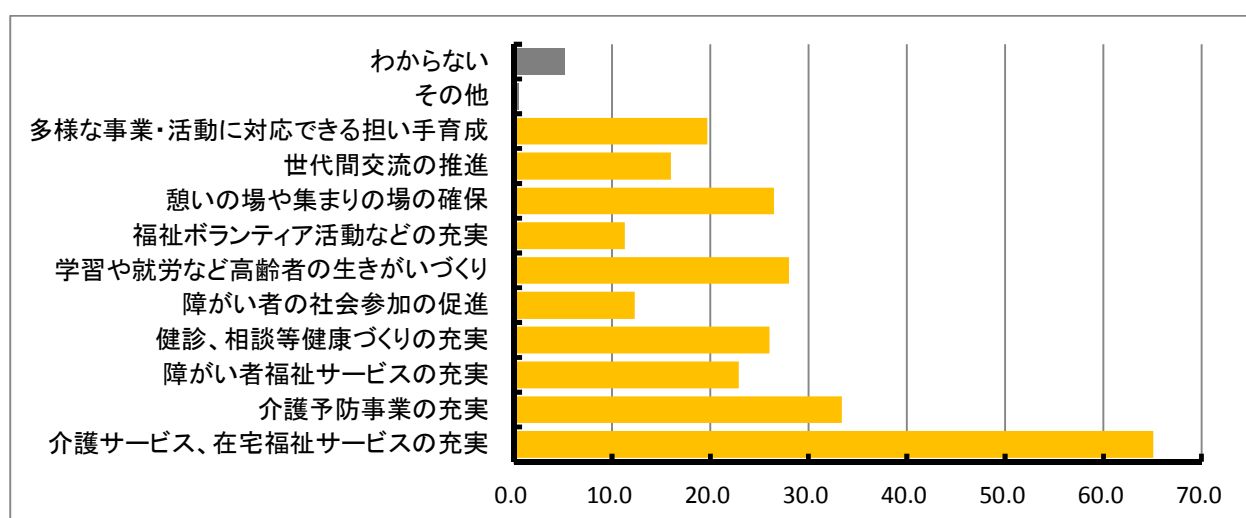


図4-4 高齢者・障がい者福祉策の今度の重点内容

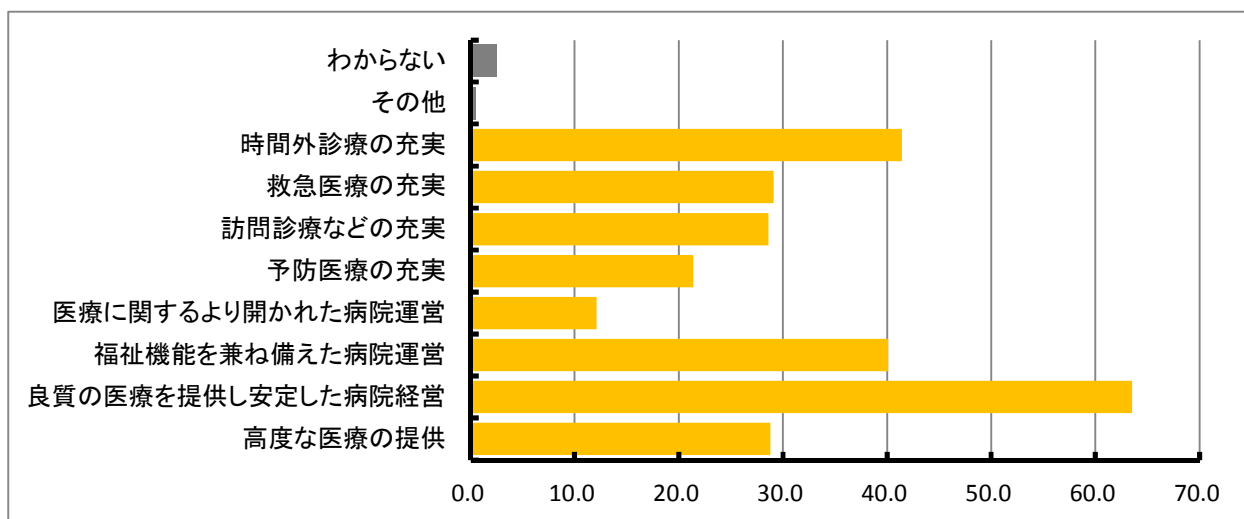


図 4-5 医療充実策（町立病院の運営）の今後の重点内容

次に、「産業の振興（農林業・商工業・観光の振興、企業誘致、企業化など）」の内容について、「農林業振興策」、「商工業振興策」、「観光振興策」のそれぞれ具体的な今後の方向性の内容について図 4-6、図 4-7、図 4-8 に示す。

「農林業振興策」をみると、「農林産物加工品の開発や地場製品のブランド化」が 41.5%と最も高く、これは上富良野町には現状での十分流通可能な農産物があり、それらを観光や地域資源として活用することを望んでいると考えられる。ほか、「農林業従事者の確保（後継者の育成、新規就農者の受け入れなど）」が 34.1%であり、農林業者の高齢化を示唆している。「低農薬・無農薬農業、有機農業の推進（安全な食べものづくりなど）」（37.0%）、「消費者等との提携（契約栽培・販売、産地直送、町民農園、オーナー制度、直売所など）」（32.1%）である。

「商工業振興策」をみると、「商店の集約化や空き地・空き店舗の対策」が 45.7%と、新しい商店の参入よりも既存商店・商店街の再構築を望んでいる。

「観光振興策」をみると、「十勝岳や丘陵田園風景など、景観資源を活かした観光施策の推進」が 47.1%、「温泉資源を活かした観光施策の推進」が 36.0%であり、上富良野町の特色を活かすことを望んでいる。

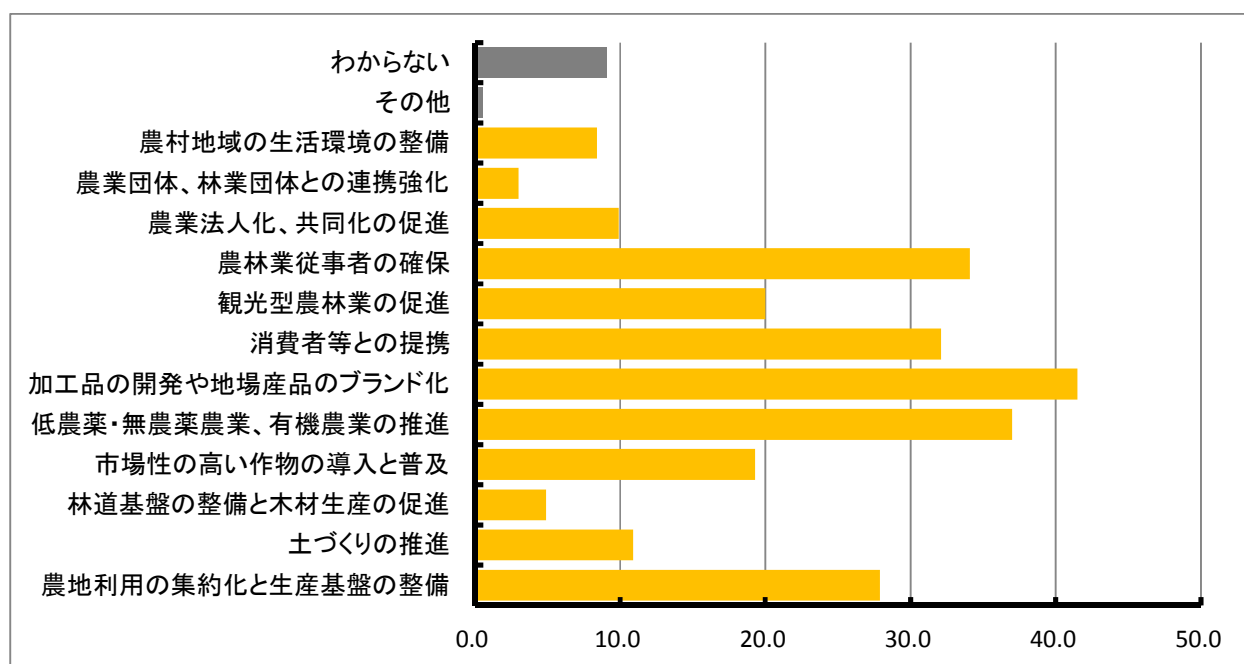


図 4-6 農林業振興策の今後の重点内容

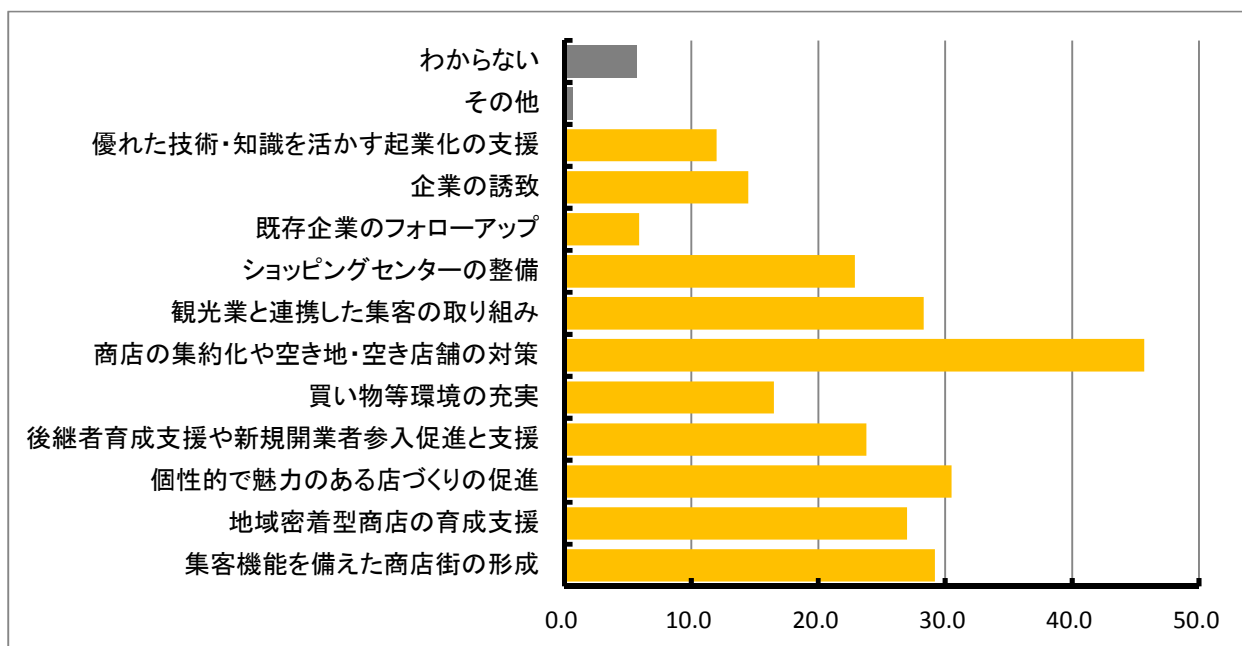


図4-7 商工業振興策の今後の重点内容

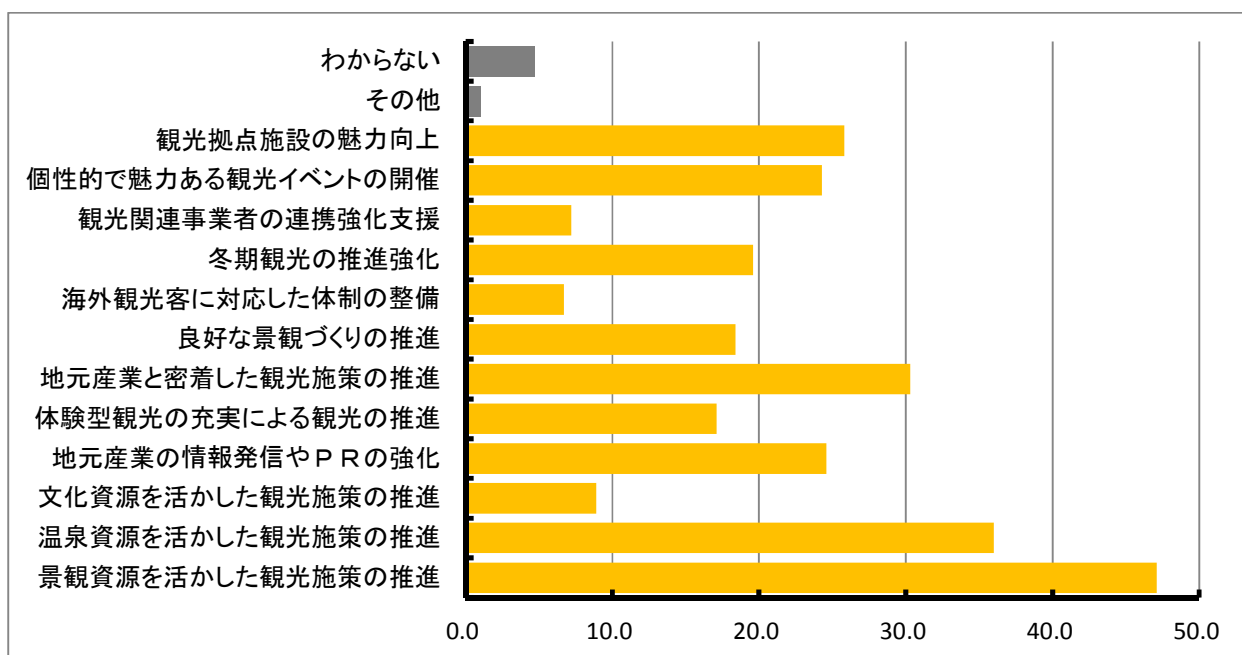


図4-8 観光振興策（町立病院の運営）の今後の重点内容

最後に、これからの社会を担う子ども達の「学校教育」や、地域社会の振興のための「社会教育」について、それぞれ具体的な今後の方向性の内容について図 4-9、図 4-10 に示す。

「学校教育」では、「子どもの個性を伸ばすとともに、共同性を育てる教育の推進」が 47.2%、「豊かな心を育てる道徳教育の充実」が 46.7%と、教育の基本的内容を推進・充実するように望んでおり、人間性豊かな子どもを育てることが重要であると感じていると考えられる。

「社会教育」では、「放課後など、子どもが安全に活動できる場の確保(放課後子どもプラン、放課後クラブ)」が 63.1%と他の内容に比べてダントツに高い。これは、子どもの教育や活動の場所を提供したいといふように、子どもが上富良野町の宝として育てていくことを望んでいると考えられる。

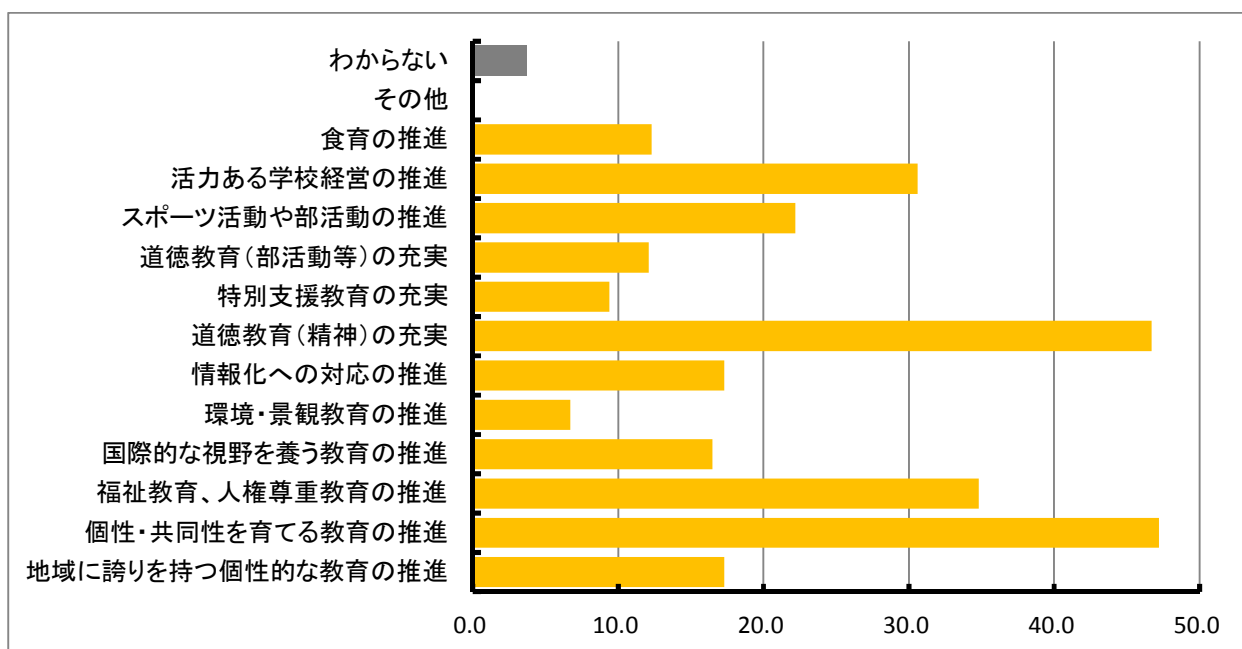


図 4-9 学校教育の今後の重点内容

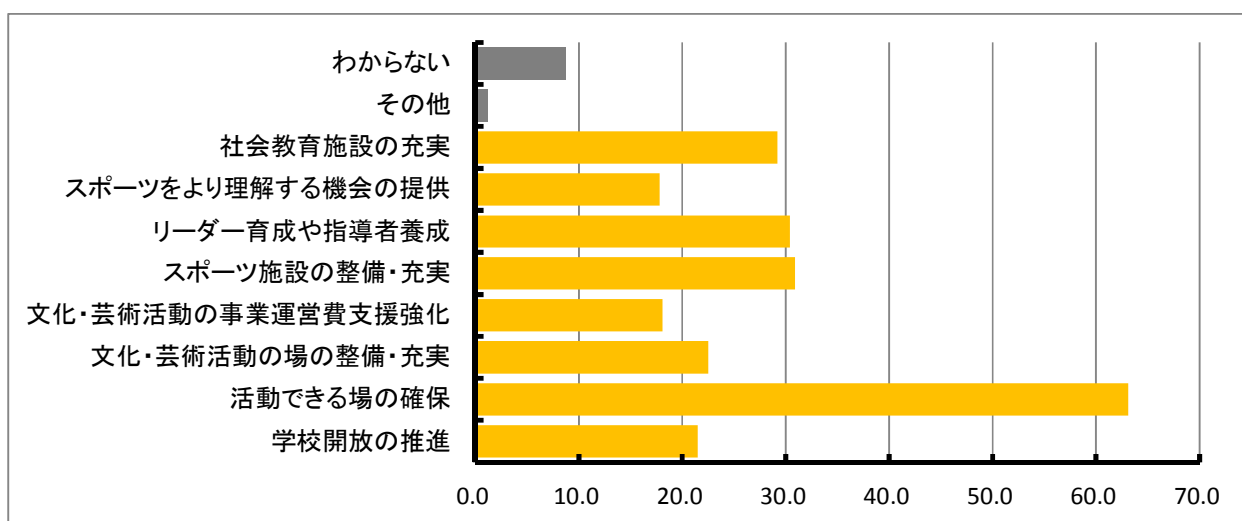


図 4-10 社会教育の今後の重点内容

5. まとめ

5-1. まちづくり活動の参加状況・評価と居住環境評価

第2章では、上富良野町の町民が感じている上富良野町の魅力や居住の満足度・定住度、上富良野町町民のまちづくり活動の状況や評価を把握するとともに、満足度や定住性などとまちづくり活動状況・評価の関係性について明らかにした。その結果（まとめ）を、下記に示す。

①居住環境評価と居住性

町民の上富良野町に対する「満足度」は、約半数が満足している。しかし、年齢別でみると「高齢層」より「若年層」のほうが不満と感じており若者の「満足度」を上げる必要がある。「不満足」の理由としては、「働く場がない」「買い物に不便である」であり、就業問題と生活環境の改善・整備等をする必要がある。

「定住度」は「満足度」に比べ定住思考が高い。しかし、「高齢層」で定住思考が高く、「満足度」同様これから上富良野町を担う「若年層」の定住意識を向上させる方法が必要である。定住意識向上のためには「子育て環境」の改善・整備を求めている町民は少なくはない。

②上富良野町の魅力

多く町民は「十勝岳連峰の景観」を資産・資源と考えており、自然景観を今後も重要視していくことが望まれる。一方、若年層においては「ラベンダー」や「星がきれいに見える」を資産・資源と考えており、上富良野町発祥の「ラベンダー」をどのように活用していくか？、を検討する必要がある。つまり、町民が感じている魅力を活用することは、よりまちづくりに発展すると考えられる。そのため、これらの資源・資産の活用の仕方の検討が必要である。

③住民会・町内会活動への参加状況と実感度及び不参加要因

住民会・町内会活動への参加度は、約半数の町民が参加している。一方、以前は参加していたが約3割であり途中不参加の町民も少なくない。この町民は上富良野町のまちづくりの評価に対し「参加者を募るべき」と答えている場合も多く、活動する町民の固定化を問題視していると考えられ、活動内容等の見直しが必要である。また、参加している町民の活動実感度では半数の町民は実感していない。つまり、町民の1/4の町民しか活動に対し満足を得ていないと考えられる。可能な限り、活動をして実感が得られるような活動内容にしておくことが重要である。

住民会・町内会の不参加者は約3割であり、不参加の理由では「忙しくて時間がとれない」や「情報が届かない」、「参加してみたい活動がない」など参加希望意識が高い町民もいる。これらは活動情報の提供方法や活動の内容に問題があるため、活動主体者が活動内容を検討する必要がある。

④住民会・町内会活動及びまちづくり活動の評価と方法

上富良野町のまちづくり活動に対する評価としては、「すばらしい」と評価している町民は住民会・町内会活動参加度に関わらず高い一方、「もっと広報し参加者を募るべきである」や「やりかたを検討しみんなが取り組むべきである」と評価している町民もいる。つまり、もっとまちづくり活動をおこなうべきであると評価している町民が多いということである。また、「資金」や「空間・場所」ではなく「人」が重要・必要であると考えている町民が多く、まちづくり活動の本質を得ている町民も多い。

まちづくり活動に必要なコトでは、「町民のまちづくり意識の向上」と判断している町民が多いことから「協働のまちづくり」を意識している町民が多いことがわかる。また、協働的まちづくりに向けての方法では「町

民と町が協働」という考え方の町民が約半数であり、しっかりと「協働的」の意識を考えている。しかし、「町主導」という保守的な考え方を有している町民も少なくないため、検討課題もある。

5-2. 上富良野町自治基本条例の評価と方向性

第3章では、上富良野町自治基本条例などの認知度や情報源、さらに見直し意識などを明らかにした。その結果（まとめ）を、下記に示す。

①「上富良野町自治基本条例」の認知度と見直し

上富良野町自治基本条例の認知度は知らない町民が多く、まず「上富良野町自治基本条例」を認知してもらう必要がある。とりわけ、若年層ほど認知していない。しかし、住民会・町内会活動参加者は非参加者より認知していること、認知のための情報源としては「広報かみふらの」であり、まちづくり活動の参加を促すことや「広報誌」の改善等が必要と考えられる。

認知している町民は少ないが、認知している町民においては見直しが「必要である」と考えている。認知者はまちづくりに興味があるがゆえに、さらなるまちづくりの方法を検討しようという意識がある。その内容としては、「町民のまちづくり参加に関すること」と考えている場合が多く、条例のなかの主体的参加の方法論を検討する必要がある。一方、意見の反映では、「反映されている」と評価している町民が多く、上富良野町役場の努力がうかがわれるが、認知している人の発言し、まちづくり活動意識が高いことが伺われる。この町民たちをトップランナーとして位置づけて活性化させ、興味の無い町民を巻き込むようなしなせが必要であろう。

②上富良野町の仕事内容等の認知度及び意見提供等

一方、町の仕事内容の認知度は知っている町民は多い。しかし、上富良野町の予算・決算及び総合計画の内容については、仕事内容より2割程低く、町の細かい仕事までは知らない・理解できていない。とりわけ、高齢層より若年層ほど知らない。しかし、「上富良野町自治基本条例」と同様、住民会・町内会活動参加者は非参加者より認知しており、様々な行事に参加する意欲のある町民は、上富良野町自体にも興味をもち、向上させようとする意識があるものと考えられる。

上富良野町の仕事や計画に対する意見提供したい町民は半数程であり、意見を出すことが可能な行事や方法を検討する必要がある。意見を提供したい町民の提供したい時期は「計画や事業を企画・立案するとき」が最も多く、積極的に関わらせることにより住民の意見を反映させたまちづくりの展開の可能性を示唆しているといえる。

5-3. 上富良野町の地域づくりと今後の重要施策

第4章では、上富良野町における今後の「地域づくり」において重要項目や、今後5年間の重要施策の評価について分析した。また、前回のアンケート結果も用いて比較分析し、この5年間での評価も分析した。その結果（まとめ）を、下記に示す。

①地域づくりの重要ポイント

上富良野町町民は地域づくりに多くのことを求めているが、これまで通りの地域の特徴について再検討し、それを地域づくりに役立てることを求めていると考えられる。ただし、「国内外との交流が盛んな地域」、「伝統のある地域」、「文化の薫りがする地域」は、若干であるが「重要である」と位置づけている。また、前回調査

を比較しても、大きく意識が変わった内容もなく、この5年間に町の変化がないことが伺われる。つまり、この5年間の成果等がみられないということでき、何か成果の残る施策・事業・活動が必要であると考ええる。

②今後5年間の重要施策の評価

直近5年間の行政の施策については、「保健・医療・福祉の充実（高齢者、障がい者、児童など）」、「ついで」「産業の振興（農林業・商工業・観光の振興、企業誘致、企業化など）」、「生活環境の充実（上下水道、ゴミ処理、住宅、公園、防災など）」などの生活に関わる項目を重要施策して評価している。また、それぞれの重点施策は下記のようなものである。

- ・「児童福祉策」：「育児支援や育児負担の軽減など、子育て支援サービス体制の整備」
- ・「高齢者・障がい者福祉策」：「高齢者などの介護サービス、在宅福祉サービスの充実」
- ・「医療充実策」：「良質の医療を提供し安定した病院経営」
- ・「農林業振興策」：「農林産物加工品の開発や地場製品のブランド化」
- ・「商工業振興策」：「商店の集約化や空き地・空き店舗の対策」
- ・「観光振興策」：「十勝岳や丘陵田園風景など、景観資源を活かした観光施策の推進」
- ・「学校教育」：「子どもの個性を伸ばすとともに、共同性を育てる教育の推進」
- ・「社会教育」：「放課後など、子どもが安全に活動できる場の確保（放課後子どもプラン、放課後クラブ）」